

愛を見つめる雑誌

SUN & MOON

SUN & MOON

④



第4号

好評発売中!!

『SUN & MOON』別冊グラフ誌 第2集

《BEACON・ビーコン》

発売元 エドプロダクツ 定価1500円



〜 M化の馴致・飼育特集!! 〜

限定3000部・定価1200円

マニアによる『SUN & MOON』好評絶賛発売中
本格SM誌



【創刊一号】掲載内容
■グラビア・脾悦逆さ
吊り行・姦学美・若妻
M化馴致・女奴隷■座
談会「唯美人種のくら
しぶり」■妊婦緊縛■
好事三昧■妻との過去■
義姉とのSM二年■柱と
わたし達■マソ女性への
傾斜他



マニアだけが撮
る迫力あるSMフ
ォトの数々。

購入ご希望の方は、現金書留でお申し込み下さい。
定価千二百円(送料百円)宛先〒100 エドプロダクツ
東京都千代田区西神田一四一三 新神田ビル



【二号】掲載内容
■グラビア・剃女逆さ吊り
口ウソク責め・愉悦のひと
とき・若妻緊縛行
■座談会「秘悦に耽ける夫
と妻の立場」■妻の過去
■灼熱の間■初めてのSM
写真■マソ女自伝他



SUN & MOON 第1巻第4号

発売元 エド・プロダクツ

昭和52年10月1日 発行

〒101 東京都千代田区西神田

編集・発行人 世田介一

1-4-13 新神田ビル

発行所 日月舎

☎ 03-293-0741

好評絶賛発売中!!

本格SM誌『SUN & MOON』誌が
贈るマニアによる別冊グラフ誌!!



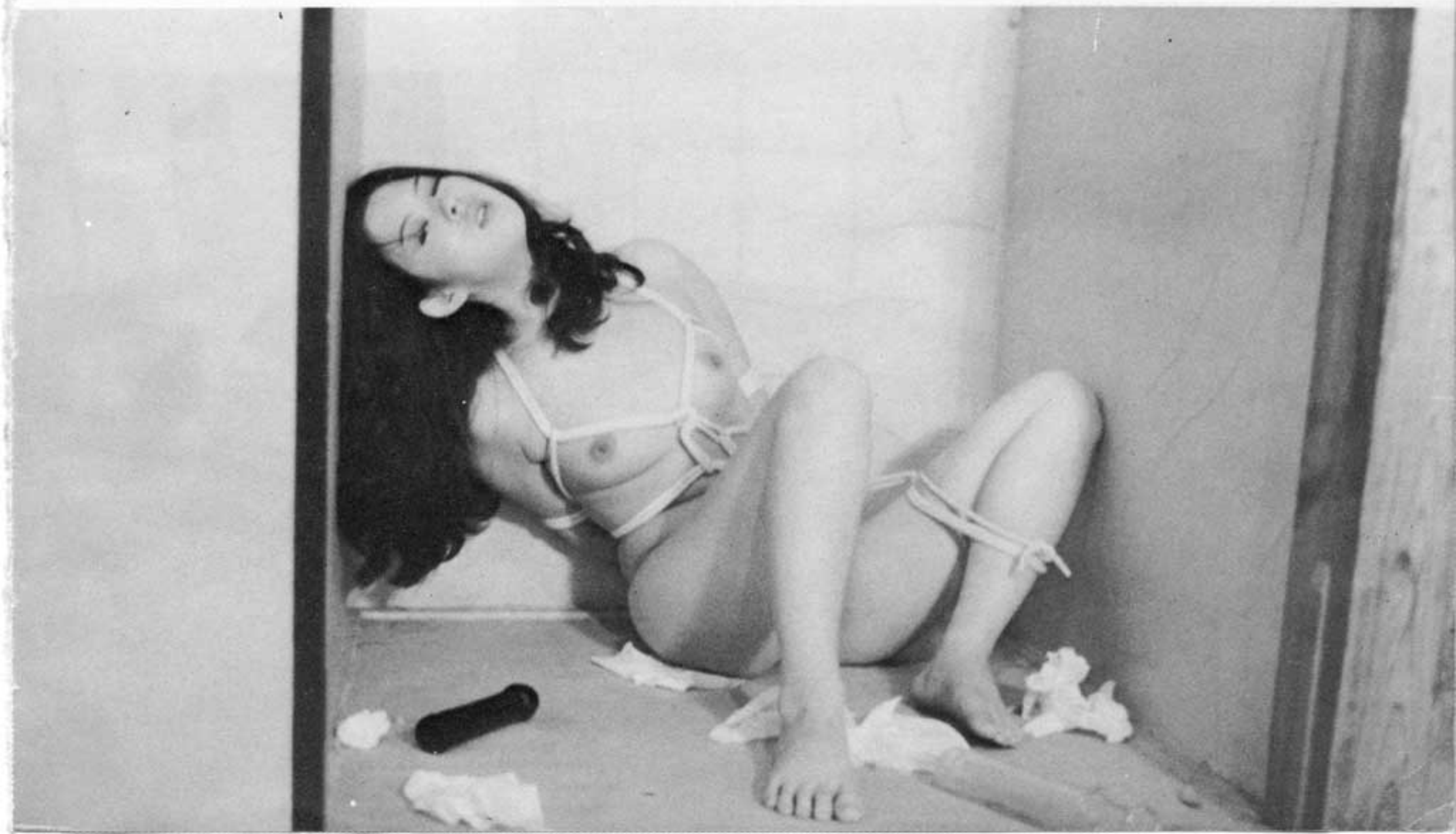
『SUN & MOON』別冊グラフ誌
《マゾ牝虐艶集》
発売元・エドプロダクツ
限定三千部・定価千五百円

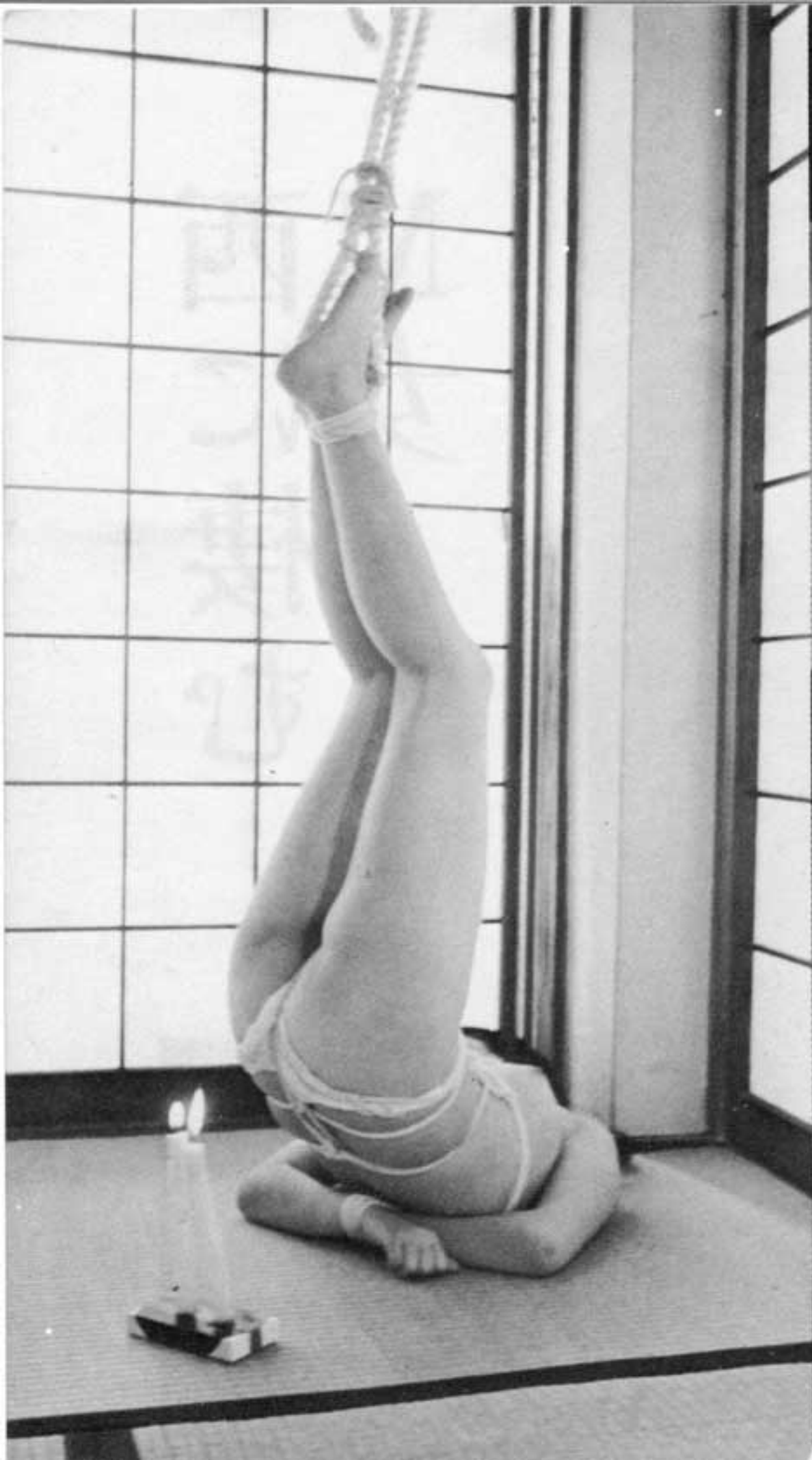


代理妻 佐野みさ子の被虐の痴態を暴く!!

調教のイメージ







M西 女に棲 ・T む



目次

写真頁

調教のイメージ		3
西に棲むM女・T		6
祭壇・SMスワップ初体験		55
マニア秘蔵写真集		57
愛奴		59
西に棲むM女・T(PART 2)		61
涉獵アルバム①		63
調教序奏		65
投稿フォト		67
スクランブル		69
耽美座談会 蓑虫御三家		8
愛妻縛記		17
セックス・ブライマル		23
耽溺のコレクター		33
わが輩はドクシンキゾク		45
眩い生理帯		71
夢みつづけて、今は		76

睦月笛一郎
川辺征也

一の瀬莊志
青木 茂
森山周一
桂 敬紀

変収興起

さしえ・カットらんまどう 東京C生

性奴紹介のSMPフォト交換の希望と雑感

わが妄想の記

男性被虐も扱ってほしい

続くかなア続いてほしいなア

耽美座談会もいとわず

マダム・ザビエラに魅せられて

まちの中のエコー

私のSMプレイテクニックロマン派生

人間万事塞翁が馬小日向徳真

美しきものの隷従教育志摩紫光

縄と革の美稲山民夫



耽美座談会

蓑虫御三家

(鼎談)

座談会を開きたいが場所がない。出席の予定者が辞退したり、勤務都合(社命出張)で欠席等々、悪い条件が重なりあつて苦行した座談会も、Aコース、Bコース、Cコースと典型的な趣味人が揃つて車中談義となつてしまった。車という密室も密談するには年懸ねなくてよいスペースであつて、テレコの収録には宝重なものと感じました。車は豪華なメルセデス・ベンツです。

出席者・敬称略

Aコース(アナル派)

尾沢 孝司 自営業(34)

Bコース(バンデージ派)

世田 介一 編集者(43)

Cコース(カント派)

大森 啓志 公務員(45)



尾沢 世田さん、今日のテーマは。

世田 それが痛いところ、全て予定狂いでねえ。私が「梯子酒」にひっかけて耽溺巡礼を「梯子マゾ」といったら、甲高く笑いこけた「白豚」嬢に、「まだ体の調子が回復しませんのよ」と断わられてから、どうも声かけた相手に逃げられてしまつて、組板の上には鯉もなく処置なしが本音。

大森 いいじゃない放談しあうことで。なにやらコース別をいつてたようだったが、その説明をしてもらつてから代表選手にお互いになろうじゃないか。

世田 私がみたところ尾沢さんは肛門執着があるようだし「アナル派」代表。

尾沢 エーッ。

世田 大森さんは堂々としたセックス攻略型でおられるから「カント派」として、私は平凡な緊縛嗜好派として「B」のコースで喋りましょう、ということですよ。

大森 この際異存を申し立ても始まらないから、その線で、互いの知略をさぐりあいましょう。

尾沢 世田さんも司会者なんて立場をとらずに話しかせて下さいよ。

世田 そうしましょう。

尾沢 僕はね……こんなこと喋っていいのかな……世田さんの小説「再初夜」を読んでもむずむずつときたんですよ。

大森 それ、なんの話。この人がSM小説書いて発表したことがあるの……なんでもする人だなあ。

世田 いやいや、もう何年もの昔話。

尾沢 あれ、奥さんのことかと思つてねえ、僕の女房にも期待したんです。

世田 私は「私小説的」なものは書きたくないし書きませんよ。すぐ作中人物のモデルは誰かと気にするような読書人はすかないし、身近かに題材をとる売文家も嫌いなんで、文士の仲間に入りたくもない。

尾沢 わかつてますよ、今は、でもフィクションで影響された僕の告白ですから、アナル興味も覚えた動機の説明となるでしょう……読んだ人の、僕の生活を変えた小説だから、大したものだと思います。

大森 今はやりの浣腸小説のはしり？

世田 いや、アナルという処女地を貫くという内容です。

大森 それじゃもつとよく尾沢君の話をきこう。

尾沢 それがあつて、妻への愛し方も変わった

んです。なにしろ見合結婚の相手だと、夫婦愛が芽生えるまで時間がかかるようです……セックスにしても、夫婦なんだから仕様がなにと、溜息つくようなポーズ（間）があつて、YES・NO枕などの合図をしたりしなければならぬような気取りがあるんです。

世田 それは貴方の方にも？

尾沢 そうですよ。女つて自分から待期する気配は見せようとしな……それが今でも殆んどじゃないんですか。

大森 責任転嫁型は多いね。その猪口才な女をぶちのめすには、男が暴力的になるといい。ということは、オレと一諸になったからには、こういう目に合うんだと承知させるしかないんだ。私の言葉だけをきくと乱暴だろうが、本当に妻には夫が教えこむしかないんだよ。

尾沢 ええ。それにも気付いて、僕は一年目に「新婚終了宣言」を下したんです。

世田 いいですね、その「新婚終了宣言」という表現は。

尾沢 昭和四十六年十一月六日でした。もう機嫌とりもじれつたくなつてね、牙をむき出しにしたんです。……じれつたいといえば当時の奇譚クラブも「本誌自粛の徹底」など掲



げて、写真もイラストも少なくしてビジュアル・スキャンダル（異常視覚表現技法）の時代に逆行するような姿勢をとっていましたね。
世田 それが命とりの遠因でもあったと考えられます。

尾沢 そのあとで敗けおしみが始まったでしょう。「読む雑誌」から写真頁復活のしにせ誇示……そんなことはどうでもいいです……私は、どうせ結婚するならバラ色の夢をみたいもんだと思っていたので、M気ある女性を狙っていたんです。

大森 ところが、そうは問屋が卸さなかったという苦渋は誰もが味わったのと違うかな。「サン・アンド・ムーン」の一号から三号までに寄稿したり協力した人は。特に二号の関さんなど、正直にわれわれを代弁してくれたと思いますね。私は、尾沢君の話の腰を折って済まないと思うが、年のせいか思いついた時に喋らないと、エート、エート、と思ひ出せなくなるので……何を話したらよいか……私は、セックスしている間に女を縛って被虐感に酔わせるね。

尾沢 そんな、器用なことができるんですか
大森 そりゃ世田さんが縄を使うのとは較べものにはなりませんよ。それに態位にもよる

が、私の特技かもしれないし、しようと思えば誰だってできる。SMプレイというものの、緊縛してから始まるってな風に誰がきめたのか既成概念がある。それ以外の工夫が見られないところに私はどのSM誌も面白くない。

浣腸プレイだって儀式ぶるもんじゃないねえ。世田さんに「浣キチ」の投書を読ませて貰ったが、あいつはなんだ……下らない下衆だよ。文章すべてが「スベキダ」で終わり、火をつけては逃げかくれて人の騒ぎを見ては喜んでる放火魔みたいな態度の人間だね。数年前の奇クに投稿しはじめた頃は年令二十七才とか書いておきながら、現在は二十五才なんだそうだ……自分を若く見せなきゃ駄々も云えない程度の人間なんだし、住所、連絡先も書いてない不埒な奴だから無視した方がいいといったわけなんだが、セックス、ライフのパリエーションをエンジョイする耽美派は優美さにこそ眼目をおくが汚濁はつとめて見まいとする。その理解掌握がないと対等に話したいたくないものだ。

世田 Aコースへの侵犯になるかもしれないのですが、健康にエロスを享樂するには男と女の当然な性器結合が至愛の姿です。その当然すぎる歓喜を窮め尽さないでいて、淫蕩に

走る人間が多すぎると思いませんか。

大森 思うぬ、そりやその通りだ。愛のある……相思相愛の男女間では、性快感の一致がベターなんであって、恋情が本物ほど喜悅の連鎖反応がおきる。そこには「お先きに失礼」も「おいてきぼり」もないものなのだ。だが、これは練熟しないと納得されないことだろう。多くの場合、そこへ到達しない内に邪心がまざる……情報氾濫の悪弊だし、欲心だね。練熟をさまたげるのは性を淫靡なものとしてみる傾向が少しも改まっていないし究明を抑圧している石頭連中が残存しているからだよ。その連中が一方では孫が出来たと破顔しているから呆れたもんだ。廉恥心がないからああした態度になるんだと思う。

尾沢 練熟といわれますが、練熟する機会がないのではないんですか。

大森 ということは、場所の意味かな、相手のないことかな。

尾沢 その両方。

大森 ばかな、あんたの場合は奥さんがいるじゃないか。一番熟達する機会があるお相手だ。自分の妻とねんごろになり過ぎると倦きがきやすいと思うのは、とんでもない間違いだ。この間違いは世の男ばかりではなく女に

もあるね。余り馴れ染めてしまうと倦きられてしまうから魅力を出しおしむんだという考えて、そんなかけ引きはやめなさい、というのが私の意見なんだよ。

世田 尾沢さんの云う機会の中の場所は、娼婦のいる世界、赤線特飲街とか女郎屋とか言葉で残っている場所でしょうが、それらがあつた時代でも、娼婦との交渉をもたずに夫婦円満で過していた人がいたんですよ。ただ、性的好奇心は或る程度そこへ行くことで鎮ま

るという役割を果たし、好伴侶に恵まれな人にとっては発散になっていたかもしれない。でも色道修業になったというのは破廉恥な老人の懐古趣味でしょう……また、そういうことを口にする人種が生存している限り、性のモラルは混乱したままでしょうね。極論すれば、旧制高校を通つた世代の現存高年者層に口封じする事、廊ばなしの落語さえ口演を禁じてしまうなどとして、回想懐古を法度にするか、公娼復活に踏み切るかのどちらか



にして然るべきでしょう。そのどちらも選択できないような行政だったら、庶民の性風俗には行政司法側の介入は好ましくありませんよ。その代わりに庶民の間で新旧の世代を超えて侃侃諤諤の討議もされなくてはならない。

大森 国民全体に真剣さが無いよ。なにごとにも。SM族というのも、懊悩があつて浮び出て来た……結束しあつた連中ではないからね。好きな対象を奪い合おうとしているんじゃない種族だ。

尾沢 異端と思い、その差別を囲らしてその中で時代先取の気分浸っているところがありますね。

世田 みの虫ですな、吊り下っている糸が風に吹かれただけで首をすくめるところがありながら、人の目につく場所にぶらさがっている。……ところで政策論ではなく軌道修正しましょう。とにかく『表現の自由』が、額面通り自由……何んの規制もなく表わせるなら、今までは誤認や妄想も消し飛んでしまふと思ひますよ。ポルノグラフィは問題にならない。つまり、お固い真面目な図書からセックスを公開してしまえばセックス産業は壊滅してしまいます。

尾沢 世田さんはズケズケ云うところがある

から愉快なんですけど、具体的には。

世田 性関係の図書を出版してもいいが、出版社の収益にはならないようにすることが前提……つまり、厚生省で官製出版をするとコチョコチな物が出来るという印象になるから官許の民間委託をする。受けた出版社は一千万部売れたとしても、全体の収益は五十万部程度のベストセラーがたまたま生まれた位にしか当たらない額で打ち切ってしまう。莫大な純益は出版税として国庫に納めて、それを基金とした医療施設の設置運営に当てるんです。

問題はいろいろ出て来ますよ。海賊版とかアレンジしたりコピーしたりする安手のものが横行するとかね、でもそれはどんどん摘発しちゃうことですね。図書を出したければ許可をとれ、暴利は認めん、という方法をとって行けば、薄利なものには手を出さないし刺激的なものだって「こりや嘘だ」と欲しくなくなりまますよ。その嘘をわからせることが必要なんです……お尻の穴だって「肛門」という表現をすればいい、それを云わせまいとするから「菊座」だなんだと言葉を置き換えて、置き換えることで好奇心なものにして行くところがあるんですよ。人間の成長とその成長過程の一切を白日のもとにさらしてみる。性も

「することは皆一緒」とわからせてしまえば、てらいもないし、ひねこけることもなくなる。「サン・アンド・ムーン」誌は利がなくなつて続けますね、人間の生活にスポット・ライトを照てる興味関心がある限りは……嘘がなくなるまではいいでしょうか。

尾沢 そうすると耽美派は消滅しちゃうかな
世田 いやいや。耽美派は物のわかった人間と考えてごらん下さい。勿論、印象も内容も変わるでしょうが、人より画一的な生活をしていない人間として残るでしょう。

大森 分らしちゃうと、生殖活動も停ると考える馬鹿も世の中にはいるんだな。ところが知識と衝動とは別だよ。頭で理解したからもうあとはつまらないと思つて氣力がそがれてしまふような人間は生存価値ないねえ。それに人間全体がそうなるものではない。相手の選別が厳しくなつて、よりよい子孫を残そうとするだろう。また、そうさせるためにも分らせる必要があるとしなければいけないんだ。
世田 私はね、皆さんに物を云つてもらおうとしたら、書いて貰おうとしていますが、雑誌が出来てガツクリしたのは、読むことを知らない人が余りにも多いことです。文字を目で追うかもしれませんが、表現されたことの

中味はまるで吸収されていない。印象ばかり
気をとられているんです。

尾沢 そうでしょうねえ、漫画・劇画のカッ
ト追いつかない連中ばかりが多いのですか
らね。

大森 文字が読めないなら図示しよう、写真
を多くしようとしたって規制がふりかかって
くるわけだ。

世田 ですね。また、その視覚的な面でも、
気に入った写真がみつかり、その提供者や

被写体の主に会わせて欲しい、紹介してくれ
と手紙が届く。非常に分別を欠いたものが多
いですよ。寄稿者の作品に発奮したとか啓蒙
されたという内容の投書は半年の間に皆無に
等しいものでした。

尾沢 そんなですか……アナル派としては、
最前の大森さんのお話で二号通信欄の平山連
浣氏と交通希望はやんでしまったんですが、
少しもSM愛好者の姿勢は変わっていないよう
ですね。



世田 今の若い人たちは、かつての私たちの
姿だったかもしれません……へっぴり腰でオ
ズオズしている点は。でも、私にしてはもっ
と期待がありましたね。カメラだって処理技
術だって普及しているでしょう。緊縛写真に
してもモデルを呼んで撮影出来る時代になっ
ています。土台私たちの若い頃にはモデルの
なり手もなかったし、恋人や奥さんを口説く
などして記録作りして楽しんだものです。そ
れでその中には異常と思えた「緊縛好み」が
分りだしたり本格的なプレイ・メイトに育っ
た人もいるわけで。

大森 被虐開発された人が……たとえば佐野
みさ子さんのような人がね。

世田 ええ。いわばそうした困難を切り開い
てきた人たちが無聊感に陥入っているかもし
れないんで「楽しくやりましょうや」と呼び
かけあいたいという気持があるわけです。そ
うした意味ではマニアの雑誌といわれてもい
いが、猟奇的な関心で交流したがる野人馬族
は迷惑です。

大森 そうそう、おのずと資格が備わってい
なけりゃねえ。

世田 資格を断定してしまうと良くないでし
ょうが、百家争鳴出来る者同志ということで、

意欲の発現が叶う場所と考えて、まず仲間になる意識は欲しいですね。（尾沢氏を見て）
アナル派結集せよ、でも構わないですよ、誌上発言は。しかし何らかの信念がないと無意味に思えます。

尾沢 ああ、それが「再初夜」の私なりの評価です。二号の座談会で「B」さんがアナルコイトスについて話していましたね。私はその若い夫婦にも感嘆しました。つまり倦怠感を未然に防ぐためには肛門性交もいっていい肯定なんです。「新婚終了宣言」とそれとは直接関係ないんです。私はM女獲得が「奇ク」の影響で夢でしたから、「いやなら出て行け」と云ってやろうという決断を内に秘めて、「こういうことしてみる」と緊縛写真を妻に見せたわけです。「ふふん」とせせら笑いされましたが、上体には縄をまきつけることができたんですよ……緊縛の初歩ですね。そして愛撫すると拒否はしない。次第次第に二人とも気分が濃厚になって、セックスでは全く同時でした。すると「ふふん」が「ふふふ……」と変ったわけです、照れ笑いですよ。妻は悪い気分ではないわけですから……「お前はオレのものになったんだ」と云うと頷いたんです。このことがあってから、なにもか



も云い出しやすくなりましたねえ。

世田 と思いますよ。なんでも手順やキッカケがいります。それをばぶいて、いきなり縛ったり大人のオモチャで責めるのは、アブノーマルと云われたって仕方がたい。

尾沢 そのあと「ジッパー」に出あったんです。ですからアタックは、じつとはやる心を抑えて正月休みでしたねえ、実力行使。

大森 私は思わぬことで、その方の体験はした……全く意図してなかった。めんめんと話

するのはよしますが、かいつまんで言えば場所を間違えたということ……その時のことを思うと、相手さえ許容する気があれば、油をつけるの、小さいものから太いものを順次入れて拡大調教するなんて形々しいことはなくていいと思うねえ。

世田 ふふふ……そうですよ。

尾沢 私の場合は魂胆がありましたから、わざと調教過程を踏みました。

世田 粘膜の組織と形成……つまり水々しく



若い人と皮膚化に近い人とがあつて、そこから可能な人とそうでない人とがわかれます。ここで実例を……誌面上で挙げられればいいんですが、私は誰れも彼れにも「やってごらん」とすすめません。

尾沢 私もそれなくしては、なんて遊び耽つ

てはいません。ただ、いろいろ喜悅に結びつく方法や応用を知ったということはいえるし、必要とあれば伝授も出来る……ということに終らせておきまきよう。

大森 となると次ぎは「Bコース」世田さんの番ですね。

世田 緊縛は、技術的には馴れるしかないです。おわり。

尾沢 ええッ。

世田 本当。この分では、既に百家争鳴してありますからね。好きなようにやりなさいでしかないでしょう。私は緊縛には飽きています。ご質問があれば受け答えしますけれど。

大森 今のSM雑誌の緊縛ものは、もうゲップが出るね。金になるからモデルになるという若い娘の、とつかえひつかえ現われるだけの興味だもの。各社には「縛り屋」がいて繩を余計使えばいいものと考えているのか……特に「縛り方教室」なんてやっているいやみな男もいるしね……あのゴタゴタした繩は私は大嫌いですよ。

世田 緊縛に関しては企画中の「三人三様」を期待して下さい。「五人五様」になるかもしれないし、各自個性のある「繩のある光景」をご覧に入れますから。

尾沢 出席予定者を教えて下さいよ。

世田 まだ承諾を全部とりつけてはいませんが、六本木薫氏、葉村繁樹氏、志摩紫光氏、広田良志氏になるでしょう。

尾沢 ご自分は……

世田 遠まきの一人

大森 モデルになってくれる婦人は、やはり佐野さんのようにマゾ性のある本物さんがいいですね。

世田 そうしたいところです。ところで「Cコース」の番になりますが、どうぞ。

大森 世田さんは実にユニークな人だと思つて見えますし、交際していて楽しい人だと思つています。バクロしちゃうとまずいんだろけど、もういい加減他誌の執筆やイラスト描きをやめて、ペンネームも統合したらいいんじゃないかな。

世田 イラスト代が「サン・アンド・ムーン」に使われていましたから……今までは。その内ご進言通りに致します。

大森 そうして貰わないと、私の方も戸迷つてしまう。

世田 いえ、ざっくばらんでいいんですよ。SM誌の他社編集部などでは「世田」ってどんな奴と気にしているらしいが、簿々分つて

なきや、それだけ自社の出版物をいかに安易に出しているかということになるわけですからね。それにこちらはまだまだ同志誌です。同人誌ほど顕示欲の強い連中がいるわけではないし、小冊子ですから生き方が違うのです。読者が作る雑誌ではなく共鳴者が作る雑誌にすることができればいいと考えています。

大森 本当のコミュニケーションのある雑誌をね。

世田 そうです。

記事中の写真は今回の鼎談とは関係ありません。自作をもって編集子を訪ねて下さった志摩紫光氏のものをご提供願いました。「緊縛批評」と「愛好者交流（資料交換を主として）」を希望されておられますからご関心のある方はご連絡下さい。

また、同氏からご寄稿もありましたので本号に掲載させていただいておりますのでお読み下さい。次号には「アタック・レポ」をお願いしてあります。ご期待のほどを。

読者の方々へのお願い

本誌『サン・アンド・ムーン』は大人のための愛を見つめる雑誌としての編集方針を掲げておりますが、**公刊誌として現今の法の下における自覚と自粛も同時に要求されます。**つきましては右の点を御理解の上、今後とも御支援の程をお願い申し上げます。

尚、本誌に投稿されました玉稿並びにフォト等を掲載させていただく場合も右の主旨によりまして一部加筆、修正させていただく場合がございますので合せて御理解、御了承くださるようお願い申し上げます。

——サン・アンド・ムーン

縛絆率先報告

愛妻縛記

一の瀬 莊志

【傍白の紹介】

“サン・アンド・ムーン”二号が刷り上
つて、待ち焦がれた読者からの購読批評
が編集室に届きはじめた頃、一通の受取
人指定の親書を一読者から拝受した。越
後県境に近い都市に住む方からのもので
秘蔵の写真が書簡に添えられてあった。
その一部が「読者投稿フォト集」として
写真頁に使わせて戴いた作品である。

一の瀬氏に対する返書を書き、乞われ
た助言に相応の記述を当てはめて、日頃
から私の思索する“夫婦愛”のライフ・

パターンについても触れておいたところ
大変共鳴していただき、旬日後、再々度
のご書状を頂戴するに至った。それがこ
こに掲載させていただく、教唆者も驚嘆
した鮮烈な率先報告である。

私は常に意欲的な信念のある言動を示
される方を敬愛する。他人の生活を脇目
で見て羨む前に、弱志を恥じて自己を鞭
撻することが必須だと思うし、混迷打破
を志す方々が、この「愛妻縛記」によっ
て才幹を発揮されることを希み、ほぼ原
文のまま誌上発表する次第です。

世田記

心躍るご自作のフォト、ありがとうござい
ました。又、昨夜は嬉しさのあまり夜遅くお
電話致しまして、申しわけありませんでした。
世田さんの手紙により、又、勇気を出して
飛び込んだことにより、妻と二人だけのプレ
イに大きな変化と自信をもつことが出来まし
た。今、この文を綴りながら、高ぶる心をお
さえられませんか。

世田さん。私は今夜のこの心を直接声にし
して届けたいんです。でも、下手な文章なが
ら記事にして、“サン・アンド・ムーン”誌を
愛蔵することは、私自身の発奮の記念となる
でしょうから、私と妻の全てをぶちまけてご

報告しておくことにしました。

私はこの七、八年の間に、SM雑誌の全てを買漁り、読みました。心の引かれた「奇ク」がなくなり、書店の店頭で毎月買える既存各誌で心をまぎらわしてきましたが、なにか心から飛び込んでいける愛好誌はありませんでした。妻は雑誌とか写真には興味を持たず私の言動だけに従ってきました。

そして、私が「サン・アンド・ムーン」を手にし、喝采してフォトを送ってみるぞと叫びまわった時も冷やかな顔をしていましたが、拒絶する風にも見えず、世田さんからプレゼントされたフォトを見てからは、妻の被虐耽溺も一段と深まったように思います。

私は、すばらしいことだと考えています。ただ、世田さんに褒めてもらった妻のプロポーションですが、胸が小さくて私は不満なんです。一年位前までは良かったんですが……痩せすぎたのでしょうか。

プレイですが、妻は痛味を伴うことは嫌います。蠟燭の熱涙責め、スパンキングは喜びません。バイブレーターを押しあてたり、クスグったり、股縄をかけて縛りあげて、服を着せて放っておくと一人で悶えております。



なにしろ、七年前に結婚して以来、亭主好みの緊縛には馴らされていますから、縄で縛ってしまえば、もう私の犬と同じで従順です。でも、健在な私の両親を含め大世帯なものですから、夫婦だけの独立した部屋はあってもやはりプレイは思うにまかせられません。しかし今夜だけは天祐でした……両親が私たちの子供―孫たちをめずらしく引き連れて小旅行に出発したのです。

常々、野外でのプレイ・フォトを撮ってみ

たいと思っていましたので、その絶好の機会となったのです。思い立つと私は興奮しました。夜が更けるのが、こんなに待ち遠しかったことはありません。

実行予定の時間が巡って来て、まず私は妻を呼びます。

「真由美、ビールを持っておいで！」

わが家唯一の洋間は応接室ですから、ここから妻を呼ぶ時はSMプレイの合図です。普段でも家族は二階でそれぞれの部屋に分れて

テレビを眺めたり時間がくれば床に就きますから階下は無人的となります。私は夜いっばりで通っていますから、大抵は居間か応接室で寝るまでの時間を過しており、特に応接室に入っている時は好きなレコード観賞だと思つて両親も子供たちも寄ってきません。

妻が届けて来たビールを妻にも一口飲ませ、その場で全て身につけているものを脱ぐように命じます。

今夜は心なしか妻も、厳しい加虐を覚悟し

ているように思えました。チラリと愛用のインスタント・カメラを見た目に、（あなたは世田さんに得意がる記録が作りたいんでしょ）となじむような、それでいて愛妻ぶりを発揮してもいいと思つていような表情が浮んだのです。

見馴れた妻の裸身なのですが、今夜ばかりは全く気懸ねなく過せると思つたせいでしょか、ひとしお愛くるしい女の裸婦像となつて映えました。



二本ある縄のうち、太目の物を取り出しました。股縄をかけ少ししごいたあとカメラを構えますと（写真①・②）顔をしきりとかくします。妻は私の心を見透していたんです。そうとなれば、妻自身を夢中にさせなければ、私としても記録して残しておきたい被虐妻の表情の変化が見られませんか、股縄をずらしてバイブレーターを挿入させました。そうして、約半時間はカメラを構えず私は股縄を握つて埋くませたり引き立たせたりしながら陶酔の現象が妻に起こるまで責め続けました。（写真③）

いつもならこの辺から次ぎの緊縛に代えるのですが、野外プレイが狙いでしたから「さあ！ 行くぞ。服を着て従いてこい」と命じ、手のいましめだけを解きました。服の下は緊縛のまま、目的地まで連れて行く計画でした。（写真④）

私の家から二三百米ぐらい後方に谷間から抜けて急に広くなり、河原がかなり大きく広がる川があります。葦が茂り夕刻からは人のいる気配さえなくなる場所で、そこを目当てに家を出る時妻の首にはめた犬の首輪を鎖で引き、徒歩でぐんぐん近ずかせました。

妻の股では縦縄におさえられたバイブレー



ターが籠った音を発しており、歩行は乱れておりました。町道を外れた地点（中間点）で服の前をはだけさせ、もう一度股縄をしごきますと、汗ばんだ妻の体は耐えられないようにくねり、声を出すまいとこらえているのがよくわかります。ライトをつけた自転車などで人が通れば、大変羞しい思いをしなければならぬのですから、「もう、堪忍よ！」と声には出せないのです。

先日剃り落した前の毛が少しばかり伸び、手に当る感じがなんともいえません。真由美

は不安と身の興奮とがまざり合い、家ではみせたことがない反応を私に伝えているのでした。

雲間から月が覗き、あたりが一面白銀の月明りで照し出されました。見上げた空には、しばらくは月光をさえぎる雲はなく、ますます期待がたかまりました。

岸边に着き、絶好の月明りの下で更に服を大きくはだけさせ、飼いだの夜の散歩で鎖を解き野原で遊ばせるように首輪をとって「さあ、見せるんだ！ お前の調教の仕上が

りをみんなに見てもらえ!!」

と突きますと、履き物を飛ばして二三米先きまで妻はよろめきながら走りしました。

かろうじて佇む妻の体……一瞬、万金を積んで美しい女奴隷をせり落とし掌中にした男のような、人に云い切れない程の感動がよぎりました。

むらむらと湧き起こる気持ちを押えきれずに、真由美を土砂の上に押し倒し、体をすりつけたあと、思い直して立ち上がり野外撮影の閃光を放ったのです。（写真⑤）

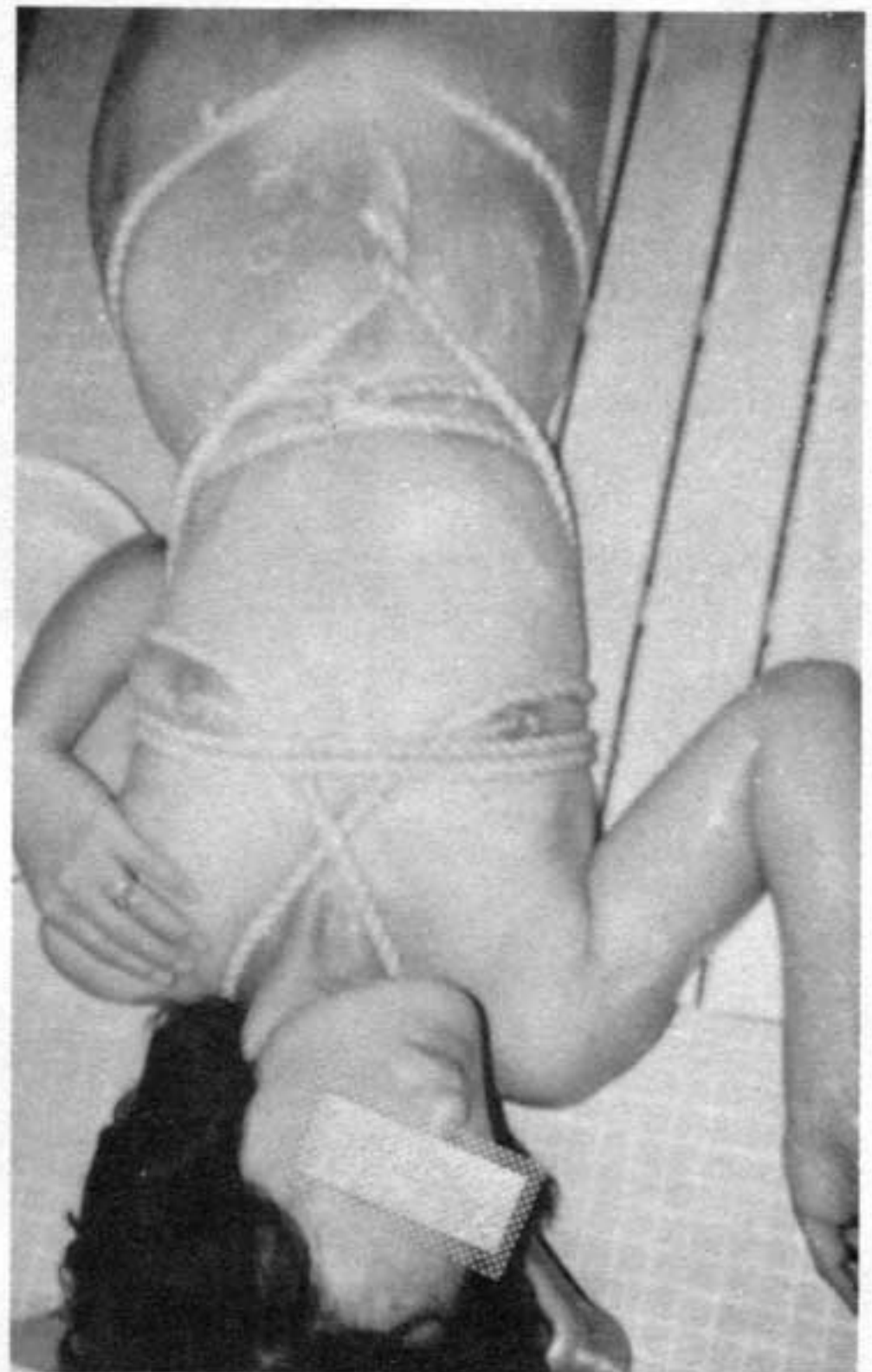
成功!! ……気を鎮めてあたりを見る……
 静寂で、妻の呻きとパイプの音、水音がそれ
 ぞれの音律で伝わってくるだけ、OKだ、と
 安堵しました。しかし、フラッシュは何回も
 発光させられない気がしてなりません。砂の
 ついた尻が私から見るとなんともいえない良
 さがあるのでしたが、それを写しておくのは
 あきらめて、場所を代えました。
 いよいよ堤防の上に出ました。
 川の中に妻を引きおろす。正面を向かせ足
 を開かせる。写す……成功! (写真⑥)



まわりの様子を見る。気付かれている気配
 なし。そこで、妻の体にタッチングしてみ
 と、パイプもつるりと抜け落ちそう。私は
 もう野外撮影どころではなくなって、妻を抱
 きしめていた……
 帰路も犬鎖を引き、明りを消した玄関に二
 人で「クック……」と笑いながら逃げ込むと
 すぐ真由美を風呂場に押し込んだ。
 縄のついたままの入浴なんて始めてである
 し、土砂を流す妻を写しておくことにした。
 (写真⑦)



黙って湯につかっている妻を見ていたら無
 性に可愛くなり、スノコに寝かせて体を洗っ
 てやった…… (写真⑧) 縄を解きながらも
 このまま二人がひとつになり、激情のあとに
 静かなまどろみが続くようにしてみたいと思
 っていた。
 今は妻は快い寝息をたてて寝入っています
 が、私はつくづくと今夜の記録を何回も眺め
 返えしながら、報告文の送稿を準備していま
 す。異性愛の極限、夫唱婦随の極地にいか
 して迫ってみるかと思ひめぐらせていた私に



は「サン・アンド・ムーン」が光明のように
思えてきました。

「サン・アンド・ムーン」二号の、関峰夫氏
の「SMプレイ雑感」に共通点を見出したよ
うに思っていますし、充実感を一層掌握して
行くには多貫欣氏のアイデア・プレイ具を使
って妻を喜悅させたいとも思います。おそら
く妻は見当外れな迷惑な苛責だとは思ってい
ないでしょう。SMプレイは、私の愛情の発
酵であって、得た感激は私の外での仕事の意
欲になり、家庭に還元されていると断言でき
るからです。妻こそわが命、と思っています

両親同居の身では口にして言えません。しか
し、縛絆の意味を解き、短かい間に「やって
みたい」と願っていた野外プレイの実現に協
力してくれたことは、全て納得してしてくれ
ることだと信じています。

了



一つのアブノーマル・セックス・ライフ

青 木 茂

「もの言はざるは腹ふくるる業なり」と昔の人もいつている。秘密であるほど話したくなるのが人間の本性であろうか。それ以外では全く平凡な市民である。いやそれどころか世間ではむしろ堅物で通っている私の秘密、アブノーマルセックスライフについて打明けて了いたいという気持が段々強くなって来るのも、そんな、「王様の耳は山羊の耳」と地面に穴を掘って吹き込んだあの昔話の男の様な気持かも知れない。私がこんな手記を書いた事は相手である彼女にも秘密である。それは読んで貰えば判る通りの理由であるが、あの、穴のわきの木が風が吹くたびに「王様の耳は」と語り出した様に何かの因縁で、やがてこの手記は私が書いたもの、そして相手は何某であるかも知れ渡って了うかもしれない。

それでも私は作り話や小説を書く心算はな

いし、また元来そんな文才は皆無だ。ただ忠実に私達二人のして来たこと、話した事、心理状態、またそれらの時の流れとともに移り変って来た様子を記録しようと思う。それ丈が、例えば心理学者など専門家にとって多少なりともお役に立つ所以であろうし、また私自身にとっても幸に印刷されて残るならば何よりの記念になるだろう。私の人生にとって今やこのアブノーマルな彼女とのセックスが切り捨てることの出来ない程重要な部分を占めるほど大きく成長して来たのだから。

さて二人が初めて出会ったのはもう十五年も前のことになる。当時私はさる大会社の営業に居り、お客の接待によく使う銀座のバーで彼女はホステスをしていた。彼女は会社の受持のホステスだったから何時も私達の席に

ついていたが、当時はお互に全く店だけの間柄で、一諸にお茶を飲んだ事もなく、あとでこんな関係になろうとは夢にも思わなかった。やがて私は独立し、はじめの数年間というものは悪戦苦闘とても銀座どころではなかった。やっと多少ゆとりも出来て銀座へ又顔を出す様になったのは七年前の事になる。前記のバーへ顔を出して見たところ、彼女が今は或るクラブのママに納まっていることを知ったので早速そのクラブへ行行って見たところ女の子が十人程いる仲々立派な店だった。お互にその後の出来事も話し合い、ひとの噂も一通り済んだあと「それでは、これから君のところを使ってやろうか」「まあうれしい、お願いします」ところで一度デートしないか「いいわよ」という事で、翌日の夕方にはもう二人はベッドの中にいるという有様だった。

多少お世辞もあっただろうが、

「昔、はじめてお会した時から貴方にひかれて、何時誘って下さるか待っていたのに本当に冷たかったんだもの。私のことなんか嫌いかと思っていた」と彼女。

「僕の方も君のことは好きだったけど、何しろ君はうちの会社の係だったからね。うっかり口説いて、誰とどうなってるか判らないから、あとで大恥をかいたら大変だと思ったのさ。だから今度はすぐ申込んだだろう」と

ということですから意気投合し、これから時々デートしようという約束が出来た。

しかし彼女のは名器などというものではなく、身体も、もう若さを失い掛けていて——あとで、子供を生んだ事のあるのも判ったが——年も既に三十四、五であったから。若し普通のセックスだけだったら私もやがて飽きて、もっと若い子の方へ移っていたと思う。

ところが三度目のデートの時、「今日は君の身体をすっかり見せろよ」とスタンドを点灯しようとするに恥しいから嫌と盛に抵抗するので——身体に自信がなかったのだろう。帝王切開の跡もあった——俯伏せになった彼女に馬乗りになり浴衣の紐で後手に縛り上げた。本当に抵抗すれば仲々縛れるものではないか

ら、この辺で彼女の、自分でも気付かなかったマゾ気が出して来たのだろう。あとで聞くと、手を背中にまわされた時から一種のウットリする様な気持になった由で、子供の頃お姫様の役で悪者に縛られてさらわれて行く遊びの時の感じが突然よみ返って来たのだと言っていた。

いまは只眼を閉じてこちらの思う通りになる彼女の身体を隈なく、あの茂みの蔭の谷間までスタンドの灯を入れて点検したのだが、泉はコンコンと湧き、粘膜は充血して、精神的にも肉体的にも受入れ体制充分な事を示している。その儘押えつけて結合したのだが、強姦している様な気持で異常な強い快感を感じた。

彼女も「今日は犯されてるみたいで、すごく感じちゃった。此の次から、その方が落着くからウチへいらっしゃい」

と自宅の電話番号を教えてくれた。パトロンに見付かったら大変だろうと言うと、本当はそんなもの無いんだけど、有る様な無い様な振りをしているさいお客をあしらっているのだということ。また男がうしろについていると思わせる方が色々の交渉などで安全だということ話を話していた。

この様にして始まった彼女とのSM的交渉も次第に発展し乍ら、もう七年にもなったわけだ。はじめの頃、何回か縛らないで普通に行って見たが「やはり縛って」という要求が出て結局は縛って終る事になった。正常の人だと好奇心から此の様なプレーをして見てもすぐ飽きて普通の性交に戻るものだというから、我々はやはり多少異常なのかも知れない。それにしても此の様な特殊の趣味の一致した、（いや、SとMなら趣味の反対なという方が正しいかも知れぬ）二人が巡り会えるチャンスなんて誠にすくないものであろうと天の配剤に感謝している。

此の辺で彼女を紹介申し上げよう。写真①は三年程前に彼女のマンションで撮ったもの。写真も大分溜ったが、一枚だけ焼付けて原板を破棄することになっているので大事なものは提供出来ない。また公表する目的の写真でないからそのまま雑誌などに出せないし、彼女大変毛深いので、それを塗りつぶすとあまりにも広い面積が黒くなってつまらないものになるだろう。一度SM誌に緊縛写真を投稿しようと思い剃毛した時の写真なので、これは無修正である。よく小説には剃毛して幼女の様な谷間とあるが彼女の場合発達した黒い花ビ



ラが割目から覗いており、そんな形容には合わない。「剃り落された時は、もう駄目だという様な一種絶望的な気持がした」由。こちらは数日後になでて見て坊主の頭に触った様な異様な感触がしたのを覚えている。(此の時の緊縛写真三枚は某誌に掲載された) 毎週局部の撮影をおこなって発毛の状況を記録したが二ヶ月後には旧に復している。

さて本筋に戻そう。はじめの一年間位は我々のプレーもベッドから出なかった。小道具は彼女がベッド脇に用意しておく扱帯類、タオル、位のもので、今考えると誠に素朴他愛

のないものであったが、当時は手足を縛り、目覆、猿ぐつわなどを適当に組合せる丈でお互に充分興奮することが出来た。則ち彼女を束縛しておいて行う普通の前戯であるが、同じ前戯でも、右の様なシチュエーションにおいては、愛情の交換の行為ではなく、犯し、犯される、恥かしめ、辱かしめられるという全く異質の行為に変貌し、その形と刺戟を通して、二人は加虐と被虐の夢の世界に遊ぶ事が出来たのである。

然し乍ら、犯し、犯されるという形態でのセックスはベッドを離れて行われることによつて一層高度の感覚に達する。我々のプレーの場所もやがてベッドを離れ、再びベッドへ戻る事はなくなつて了つた。

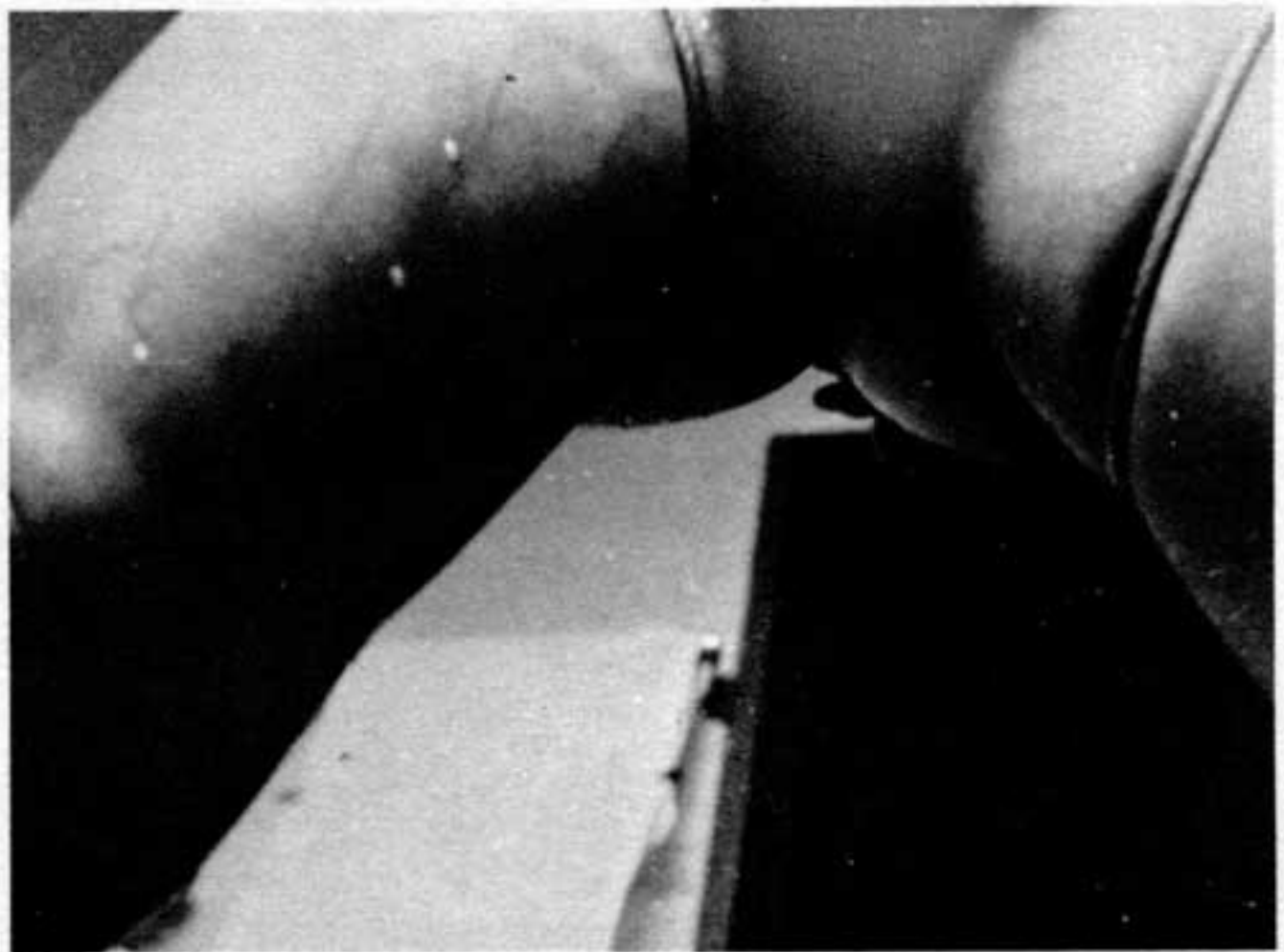
いつも、会う前には、今度はどんな風に縛つてやろうか、どう辱かしめてやろうかなどと考えるのがとても楽しみで会社においても、ついぼんやりそんな事を空想していて「どうかしましたか」等と社員に言われてハツとすることがある。我々ら病膏盲に入つたといわざるを得ない。彼女は彼女で、会う日が決まるとこんどは何をされるだろう、どんなにしてイタメつけられるのだろうと心配し乍ら期待している様子であるから、二人の前戯は次の

日取りの決った時から始まるともいえる。長い間に大人のオモチャ店、医療器具店などで買集めた小道具、手製の品々も相当の数に達し施錠したトランクに入れて彼女のうちに置いてある。キーは私が預っている。

約束の時間に彼女のマンションの玄間に立つた時からお互の役割、則ちSとMの役に入つてプレーが開始される。まず全身鏡の前へ引立てて行つて全裸にし、あらかじめ考えておいた方法で縛り上げるのだが私は服を脱がない。「自分が縛られて行くのを見るとすごく興奮するから」また「あなたの服が私の皮膚にすれる時、犯されるという実感が出るから」という彼女の希望で此の様なパターンが出来たのだが、實際此の作業の間に彼女の乳頭は充分突出硬化して来るし、谷間の泉も既に満々とたたえられた状態となる。

或る時は亀甲縛りといった芸術的な、また或る日は椅子の両ひち掛けに左右開脚縛りといった最も恥辱的な形に縛りあげられた鏡の中の自分に対面させておいて、こちらは服を脱ぎ、煙草を一服したり、シャワーを浴びたりしてから次の作業にかかる、則ち身体検査である。

電話で「今日は化粧しておけ」と命じた時



は両胸の突起と谷間の小突起、すべての開口部に口紅其他による化粧をして待つことになっているので、それらの出来具合の観賞が身体検査の重要項目となる。はじめこそ「そんな事恥かしくて出来ないわ」と仲々言う事をきかなかつたが次第に進んで化粧に工夫をこらす様になった。別に身体に害になる事もないと判ってから、プラモデル用ラッカーを揃え豊富な色彩と確実な塗装を楽しめる様にな

った。栗チャンを金に、縦の唇の外縁を銀又はピンクに塗るのが一番私の好みに合うことも彼女は覚えた。乳房および下腹部から大腿部にかけてボディペインティングをほどこした事もある。

身体検査で恥垢の付着や腋臭を発見すれば浴室（ホテルの様に浴室には洋式便器がある）へ引立てて行き排尿排便を強制した後に私が徹底的に洗滌を行う。勿論前後の穴の奥までも。他人の眼前での排尿排便は余程恥しいらしく眼かくしの上でやっと言う事をきく様になるまでに二年掛った。写真②（縛られて立ったまま排尿、真下から撮影）

その次のステップは彼女が心身ともに私の奴隷であることを再確認し宣誓する儀式で、私の前に膝まずくか又は床に仰臥の姿勢をとらされた彼女の、上の口による奉仕である。身体を自由を奪われた状態で上の口に男性を迎え入れねばならぬという事は彼女のマゾヒズムを満足させるらしく「精神的に、いかにも犯されているという思いで、感じちゃうの」と打明けている。刀を呑んで見せる曲芸から思いついたのだが、応接セットの低い机、或は椅子を列べた上に、頭を垂れる状態則ち極端なおおむけの姿勢として四肢を縛りつけ

ば口腔と食道は一直線になるので根本まで挿入出来る。これは何回行っても私に今こそ強姦しているのだという高揚感を与える。彼女にとってはしかし精神的な快感と同時に激しい苦痛を与えるので限度に至らぬ内に抜き去らねばならぬ。一度苦痛のあまり強く歯をたてられて危く大怪我をするところだった。写真③（セルフタイマーで撮影）

熟練した女性によるフェラチオは本来の器管に比べ数倍の快感を男性に与えるのは、唇舌が総て随意筋であることを考えれば当然である。ついこれ丈で果てて了うこともあるわけで、その場合に限って当方と同じ方法で彼女を満足させてやるのが暗黙の了解になっており、彼女も時々それを覗いて極めて熱心なサービスをする様である。

此の辺で一度縄を解いて、別の形に縛り直す、こんなところも小説と実際の相違であろうか。不自然な形での緊縛はやがて肩腕首其他に耐えられぬ痛みを与えるに至り二三分せぬ内に「ねえ、一度ほいて、痛くて手が折れそう」と等という悲鳴をあげさせるに至るのだ。ほいて見ると手首其他に深い縄目がついていて一寸可愛想になつたりするのだが、今度は本番用に縛り直す。次のステップ



は手指は勿論、筆、バイブレーター其他の小道具を駆使しての彼女の急所急所に対する攻めであるから、それらのポイントを出来るだけ暴露した形が選ばれる。則ち大の字形、手首と足首を左右夫々一諸に括って左右へ大きく開いて引張った形、机や、列べた椅子に仰向けに開いて縛りつける場合（写真を掲げれば一目瞭然だが文字にすると何とまどろこしくて判り難いことか）まああらゆる破廉恥な、

然し実行可能な限度の姿態を想像して欲しい。唯、私の発明かも知れない効果的な小道具を二点紹介しておく。電気掃除器の柄の部分、これは一般に太さの異なる二本の中空パイプで短かくすると六、七十糎、伸すとその倍位になる。このパイプに縄を通してパイプの両端に足首を夫々縛ると好きなだけ開脚さすことが出来る。首の後を通して水平に置き腕を左右に伸して縛ることも出来る。電器器具店で部品として扱っているので二本用意すると大変便利である。我々は大いに活用している。

次は所謂電動コケシ則ちバイブレーター。そもそも女性器官で敏感なのは表面の部分のみで、ワギナの中など甚だ鈍感なものだ。従って市販のコケシ類も実際に挿入して見ると決して（少くとも彼女の場合は）大きな快感を与えない。奥の方で振動するとただ「あつ」と感じる丈である。むしろマッサージ用のバイブレーターを急所にあてる方が遙かに有効なことが判った。私が作ったのは厚いゴム板を彼女のクリちゃんから菊座に至るまでのカーブに合わせて三日月形に切り抜き棒状のマッサージ器の振動部に取りつけたもので三日月の先端には五糎の突出をつくって、これをアナスに挿入し三日月の手前の端は、ゴム

が花蕊を挟んで押付ける様にし、従ってその中間は二枚の花びらに触れる位置にある。此のバイブレーターを固定してスイッチを入れると、やがて彼女は悲鳴をあげ乍らイモ虫の様に文字通りノタウチ廻ったのは誠に見ものであった。其の日終ってから「あれはヒドすぎて身体に悪いわよ」と何処かへ隠して了ったので、残念乍ら一回しか使わなかった。しかし、小道具を自作するのは仲々の楽しみで、貞操帯も今までにいくつとなく考案して製作した。日本では貞操帯はあまり多くの人の関心をひかぬ様だが、私は学生の頃西洋歴史の十字軍に関して貞操帯の写真を見てから異常な興味を覚え、しばしば女性にこれをつけさせる空想をえがき、いつか実現したいという夢を持っていた。私のSMに対する傾斜は貞操帯に始まったのかも知れない。

雑誌でみると大変な灌腸ばやりの様だが私は殆どやらない。ただ灌腸薬を入れておいで交接すると彼女の便意が高まって催すたびに肛門筋を締めるのが膣の周囲の筋も緊めることになるので、これが次第に強く頻繁に繰返される様になって彼女のものを名器の様にするのと「もう駄目、たすけて」と青い顔に歯を喰いしばり冷汗を流し乍ら私を見上げて



訴えつづける彼女を見下してするのは、一種強姦している気分も沸き私にとっては最高の時だが、彼女は「ほら、下痢の時電車の中で我慢してるのと同じで苦しい丈よ。とてもマゾなどの快感などないわよ」だそうであるが、これは人によって違うのであろうか。お互の合意の上に成り立つSMセックスだから一方的な欲求のみを追うのでは我々の様に長つづきしなかったであろうと思う。

唯一つだけ私が一方的な意志で勝手に強行してやったことがある。結果的にはそれによって彼女は心身ともに完全に私の所有物になったのであるが。

さきに述べた様に、私の方が彼女の口技によって果てて了った時は、私も彼女の満足するまで同じ方法で攻撃を行うことになっているが、それはオペレーション（手術）と称して、彼女を食卓に張りつけて行うのである。テーブルは位置が高いので私が口や手を使うのに都合のよいこと、昼間なら陽の射し込む、夜なら煌々たる電灯の真下で、すっかり身体を開き、それどころか身体の奥まで覗き込まれるのは彼女にとって大変恥かしい「マゾ的」雰囲気なのだ。左右の脚の分れ目が丁度テーブルの縁になる位置に身体を置き、両脚を充分開いてテーブルの脚に渡した横棒に固定し、

首の位置にはテーブルに明けた穴を通して首輪の鎖を引張っておく。腕は伸すとテーブルからはみ出て了い不安定なので通常は背中に廻して縛っておく。写真④（自製手術台に固定、逆光のためカーテンの影が写ってる）

彼女の性感帯については私は本人以上によく知っているので、指、筆、バイブレーターそして最後にはクニリングスによって失神するまで攻撃するのだが、腰を激しく上下左右に動かすので写真⑤の如く固定金具を製作した。テーブルの端に固定した垂直軸に、上下の位置と傾斜角を自由に換えられる横棒が取付けてある。横棒は太さ、長さ、振動可能

の有無等各種のものが出来ている。写真の棒は径一〇耗、先端をふくらませた丸棒でアナスに挿入し固定する。

以上の様に極めて被虐的な束縛をうけた状態で与えられる強烈な快感であるから、このオペレーションをうけると彼女は大抵連続的に到達し最後には失神状態になって了う。

またカテーテルの挿入も試みた。大変痛がるが、こちらは医学書を十分に調べた上だから心配なく作業を行った。女性の尿道は長さ三、四糎位であるから先端が膀胱に達するのは実に簡単で、面白いのは溜っている尿が自然に流れ出して来ることだ。カテーテルの一端をクリップでとめておき、はずすと尿が走り出す。これをコップに受けると時によって殆ど無色透明の、また或る時はリングジュースの様な、また朝の一番には番茶の様な色の液がほとばしり出て何れも実に美しく、尿である事をつい忘れて思わず口にして見たくなる程である。

さてある土曜の夕刻いよいよ長年の計画の実行に入った。土曜を選んだのは土、日とクラブが休みであるためだ。先ず例の如く彼女に口技によるサービスをさせ、私のミルクを充分に飲ませてから、彼女を手術台に固定し

た。口直しに——あのミルクは苦みがあつてあまりあと味は良くないのでココロ等を口直しに飲ませるのを習慣にしている——ココロを飲ませてからいよいよ今日は私が全力を尽して攻撃するという予定に従い、指戲バイブレーター等の小道具は勿論、クリニクスを主力として総攻撃を継続した。彼女の発声（書くときとポルノ小説になつてしまう）、身体とくに下腹部から大腿にかけての痙攣の連続状態から最早彼女が全面降伏したことを確認して兵を引いたのであるが、彼女はいびきをかいてねむり始めた。先程ジュースに混入しておいた一・五瓦のプロスワレル尿素も利いて来たものであろう。そこでオキシフルで局部を消毒して「手術」に着手した。左右の唇の上下方向で中央の位置ふちから約一糎内側に径二耗の穿孔を行ったのであるが、あの唇は引張つて光にすかして見ると薄くなつて血管の位置が判るので、これをさけ、かつキンロカインを充分塗布したので、出血もすくなく、痛みも殆ど感ぜられなかったらしい。左右の穴に夫々二耗径のステンレス針金を通して輪とし、出血が完全に止るのを待つて貞操帯を装着した。これは多数所有する帯の中金属製のクラシックな型で前には小孔、

後方にはクローバ葉型の排便穴が明いている。カテーテルを通し排尿させた後貞操帯の小孔を通してカテーテルの先端をクリップでとめた。手術台からベッドまで抱いて行つてねかしたのだが、それ迄全く眼が覚める事なく、五割増の睡眠剤を飲ませているので多少心配になり、しばらく模様を見た上で帰宅した。翌朝はゴルフと称して早朝に家を出て彼女のマンションへ行つて貞操帯の鍵を脱してやつたが、貞操帯の跡が真赤に膚に残つていた。

少しづつ太い針金に変えて行つて三ヵ月程で穴の径は三耗以上になった。よくアフリカ土人などが耳とか唇などに大きな穴を明けているのを見る様に、一度穴が開いて了うとこれを大きくするのは簡単である。此の左右の唇の穴が出来たため我々のSMプレーは大変レパートリーが広がった。読者諸兄自身此の穴の利用をいろいろ考案されたい。私の元来の目的はワギナに鍵を掛けることにあつたので、小型南京錠を左右の穴に通して施錠したのであるが、プレイの時はとも角、外出やお店に出る時はとてもそのままでは無理な事が判った。そこで知合の貴金属商に依頼して金製のリング、長径十二耗、短径五耗の階円型のもの二箇を作らせ左右の唇に一箇づつ取



付けた。リングのつぎ目は専門語で言う「アリ」になっていて両端を合せてペンチで抑えると最早脱れない。左のリングには私のイニシャル右には日付を刻ませてある。写真⑥(刺環記念撮影、部分が公表できないのは残念)

例の様に彼女を手術台に張りつけて其の取付作業をしている間さかんに「何をしてるのよ」といつていたが、出来上ってから鏡で見せてやると「とうとう私もこんなにされて貴方の奴隷になって了ったのね。その代り一生

面倒を見てよ」という。私は私で今こそ彼女が本当に私の所有物になった様な気持がした次第である。此の小さな二つのリングが二人の関係を根本的に変えて了う力を持つとは予想しなかった。彼女の側からいえば、それ迄の私との関係は彼女自身選択権をもったもの、いやなら何時でも解消出来るもの、対等な立場での(人間として)つき合であったのが、それによってこそ女性であり得る器官の入口を私に封印された時、今や彼女は私に精神も肉体も完全に支配されることになったのだ。則ち私に対して最早対等の立場でなく、奴隷の状態に落ちて了ったのだという自己暗示に掛ったのであろうか。それ迄はセックスの時にもSMプレーとしてのお互に役割であったのが、これ以来彼女の行動は純粋なマゾのものになった様に思われる。それ迄は、被虐的なアクションに対しても自分の要求を持出したりしたもの(例えば、この手はこう縛って呉れとか)、全く受動的になって、従来は痛い、とか苦しいとかをオーバーに表現してこちらの行動にブレーキを掛けたりしたのが、されるままに苦しい姿勢にも肉体的の痛みにも只管耐えて行こうとする。またその苦痛の中によろこびを感じはじめたらしい態度に変

って来た。SMプレーにおいてはむしろ想像が主役であった、例えば秘部を大きくさかれて固定されているとき彼女は、大勢の見知らぬ男達の前で今晒されており、やがて輪姦されるのだと想像することによってマゾ的な快感を増幅するわけだ。実際、もう何年にもわたって私にはいつもそんな姿態を見られいじられているのだから、最早はじめの頃のあの恥かしさは感ずる筈がない。今や彼女は私に与えられる肉体的な苦痛自体に快感を伴いはじめたのであるから真正銘のマゾになって来たと考えられる。

これから二人の間は一体どんな風に進んで行くのだろうか。彼女が段々被虐度を増すにつれ私は次第にサド度を増して行くことだろう。やがては、過去においてただ空想にすぎなかった事がいろいろ実現出来るかも知れない。

以上で私の報告は終る心算であったが読み返して見ると、書かない心算であった或一つの出来事についても、これを書かないなら此の報告は正直な報告としての価値が半減して了うであろうと感ぜられるので、大きな危険を犯してここに追記することにした。この

危険という意味は彼女に知られる危険という意味である。私さえ書かなければ誰も、彼女も知らないことであり、若し彼女が知った場合は何事かの起る可能性についてはこの報告を読めば自ずと見当もつくであろう。

自分の恋人が他の男と寝るのを喜ぶ奴がいるだろうか。それどころか、彼女が店で他のお客に寄りそってサービスするのを見る丈でも面白くなかった。そんな私の気持がS Mプレーを重ねるにつれて彼女が大勢の男に嫖られ犯されている有様を想像し乍らするのが私の快感を高めるように変って来た。そしてやがてそんな事を何とか実現出来ないかと考えるようにさえた。

ところで私が身許引受人になって或るレストランに入った男の子がいたのだが、この子に次の様な話を持ちかけて見た。

「実は俺は糖尿病で家内を満足させる事が出来ないんだ。可哀そうだが浮気されるのは困るんでね、これから君が時々俺に代って慰めてやって呉れんかね。しかし条件があるんだ。お互に顔を知らないように彼女に眼覆をしておく。彼女が自分から進んで俺以外の男を迎入れるのではないということのために彼女を強姦する形とする。そして俺の前で行為を行

うこと」

以上の様に条件をのべると彼は「ひとの前でやるなんて恥かしくて嫌だ」というので、お札にオートバイを買ってやるという直に承知した。何しろオートバイが欲しくて欲しくて仕方がなかったのだから。

彼女とは時々ホテルで夕食することにして、いるのだが、「今回はホテルで一戦をまじえてから食事しよう」「昔を思い出すわね」「お互にまだ純情だったものさ」という次第で日取も決め都内一流ホテルの部屋もレザープしたのである。

さて当日の午後、男の子にホテルのロビーへ来る時間を指定しておいて我々は彼と顔を会すことのない様に充分余裕を見て早くチェックインした。

ゆっくり入浴後のビールを飲み乍ら、久しぶりで取りとめもない会話を楽しんでいると何か二人の間の情感も新しくなった様な気がした。男の子の到着した頃を見計らって、

「さて今日はストーリーをきめてプレーしよう。君が此の部屋に休んでいると突然男が入って来て、手足を縛られ眼覆、猿轡、それに耳栓までされて箱に閉じ込められて何処かへ運ばれる。箱から出されたのは東京か香港か

売春組織のアジト。そこで身体を大勢の手に限なく検査され、大勢の男に味見された挙句S Mショーの女として買われ毎日ショーに出されたまにお客に買われれば上の口も下の口も提供せねばならない。というわけだ。さあ始めるよ。これからは僕でなくて知らない男だよ」

ブラジャーとパンティストッキングに靴だけの姿で後手に縛られる頃には彼女もすっかり自分で芝居に没入していった様子なのを、眼かくし、猿轡、耳栓（デパートの旅行品売場に良いのを売っている）それに両足首も縛って、衣裳簞笥へ放り込んだ。

ロビーに降りて男の子をつれて来ると、お相手はどこに居るのかと不審に見廻すので「まず風呂へ入りなさい、その間に準備しておく」といってバスへ入れ、彼女を簞笥から出して頭から用意した皮の袋をかぶせ首のところで袋の口をしめて錠を掛けた。もう絶対に顔を見られる心配がない。但し眼も口も二重に覆われたわけだから、あとで暑苦しくて仕方なかったとこぼされた。

此の姿でベッドに転がされた女を、バスから出て発見した男の子はもう腰に巻いたバスタオルに TENT を張り始めた。ろくに女の裸

も見たことがないのだろうに、此の様な異常な姿を見たのではさぞ激しくコーフンした事であろう。ブラジャーもパンティもとっちゃっていいよ、と言うとそれこそ生つばを飲み込み乍ら忽ち作業を完了して、武者震るいしてシャフトを突込んで行つた。と思うと往復運動もせず果てて了つた。まあ誰でもはじめの頃を思い出せば同じだろう。また彼女はすでに充分潤っていたから良いものの、本当の一方的な強姦だったら女の方が怪我する事も多いだろうと思つた。後手のいましめを一度解いてからヘッドボードを廻した紐で万才の型に縛り直し、脚は夫々別の紐で左右に割つて紐の端をベッドの脚で押えて大の字に固定した上で、さあ今度は女性の構造を教えてやろうと男の子をベッドの向う側へやって両方から二人で彼女に触り始めると、此処ではじめて彼女は複数の人間がいる事に気が付いたのであろう、ギクツとしたかと思うと必死になつて身体を動かし始めたのだが何せ手首足首を押えられているのだから、彼女を見慣れた私にさえ一段とエロチックな眺め、まして男の子にはたまらない景色だったろう、忽ち砲身を天に向けて発射準備の完了を示した。これがクリトリス、これが尿道口、これが小

唇、これが膣といちいちおしえてから彼女をベッドから降して床に頭をつけ尻を高くあげる姿勢をとらせ彼に後の穴をよく見せた。そしてその儘の形で今度は背後から男の子は彼女を犯したのである。その間私は彼女の頭と両腕を抱込んで押えつけていた。

今はすっかり虚脱状態にある彼女を二人でバスルームへ運び彼に指図し乍らワギナから栗の花の匂の高い白濁液をすっかり流し出させ、前も後も石鹸で洗滌してベッドへ戻した。男の子が部屋を出てから、顔部の袋をとり眼かくし猿轡耳栓を脱してやったのだが、汗で髪がベツタリと貼りついた顔で、何とも恨しそうな眼付をして私を見上げた彼女は何も口を利かなかつた。

これは私が彼女の花びらに金のリングを取付ける丁度一年前の事であつた。読者の誤解のない様に念のため、彼女というのは、私の妻でなくて本報告の主人公のことである。また男の子は彼女の生んだ子で、仕事の都合からずっと彼女の郷里で彼女の母親の下に置いていたのが、高校を出ると進学のすすめをきかないで上京し、キャバレーのボーイ見習になつていたので私が頼まれて、すでに述べた様に或るホテルに保証人となつて就職させたも

である。

つまり彼女の実の子に、彼女を犯させたわけ、私の感じた興奮は誠に異様なものであり、彼が彼女の中で果てた時は私も同時に、果てて了つた程であつた。

半年後私の買い与えたオートバイで、彼は東名高速で事故を起し即死した。縁の薄い親子であつたが、或は最も深い契を結んだ親子といえるかも知れない。

よく息子の事をこぼし乍らも、いつかは親子でレストランでも開く心算だった彼女は息子の死以来一層私に対する傾斜を強めて来て、あの二箇のリングを取付けられてからは、前にも話した様に身心共に全く私の所有物になりきっている次第である。

また何年か経つたら私の話の続きをするチャンスがあるかも知れない、それが何如な話になるかは今の私には全く判らないのだが。しかし、それも、こんな下手な文章でも自分が雑誌に出してやろうという様な奇特な編集者があつたとすればのことである。以上

耽溺のコレクター

独悦記

森山周一



逆さ吊り・伊吹真佐子
(K. K誌分譲フォト)

その一 総論

SM誌はなやかな昨今ながら、一方KK誌(奇譚クラブ)の如きSMの草分的雑誌が休刊となつて久しく、ユニックなものに御目にかかれず、マニアとして? 何となく満されぬものを感じて居た。たまたま先日SUN & MOON誌を店頭に見、而も地元東京とあつて、急に身近なものを感じさせられた次第である。イニシアルを取るとSMで、うまく名付けたものだと思うが、昔からのマニアの一人として、息の長い事を願う事切なるものがある。例え細々であつても良いから……。

振返つて見ると、余りはつきり云うと年が判つてしまふが……本格的にSM誌として出直した昭和二十七年(三十一年初)のKK誌時代がSM第一期とすると此の頃のKK誌を軸に、少なからざる人数のモデルに誌上で接し、自らの好み、傾向を反映させて、Sの血を燃やして来た事もマニアとしてのなつかしい、思ひ出の一つとならう。

その頃は、SMとは如何なるものかは、そう深く考えてもいなかったが、こんな雑誌も出て来たと云う、それも今の様に何種類もではなく、目立たない書店の隅にひっそりと置

かれてあった丈に、始めて手にした時の気持はちよつと表現出来ないものがあつたと思う。初めは急に買うのもためられるものもあり、客の絶え間にあわてて購入した事もあつた。若い頃丈に図々しさもなかったのだろう。偶然のきっかけで本格的なSM誌の読者となつた次第だが、KK誌が小判になる以前は、大判で、間々SMがかった小説例えば吸血女流



クロス装「美しき縛しめ」昭和28年12月刊
頒価500円、当時では高価

画家喜多玲子画などをのせて居た事を記憶している。縛り写真も時々載せていたと思う。その他戦後のカストリ雑誌の生き残りと思われるものに時々SMめいた記事、写真等を見る事があり、うまくぶつかった時などは、宝物？を発見した様な気もしないではなかった。それにしてもKK誌が本格的SM誌となった前後は、まだ此の種のもののはひそやかにと云



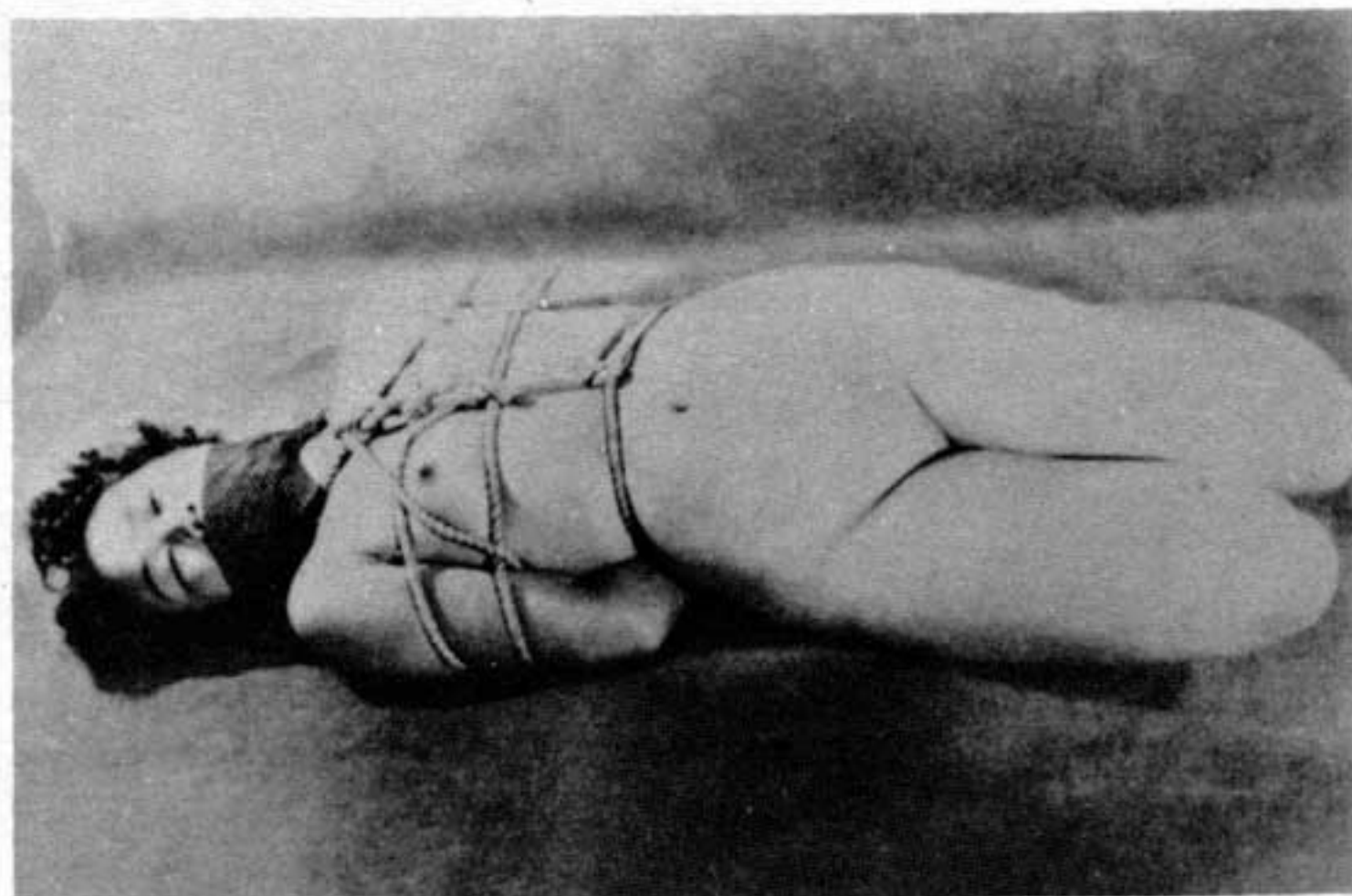
「美しき縛しめ」の扉

う感じで、それを見つけ出す方にも、秘密めいた楽しさとスリル？の様なものもあつたと思う。

この様ないきさつでSMの道に本格的に？のめり込んだものの、ませていたのかどうか小学生の頃から多少Sの芽生えはあつたかも知れない。少し脱線するが、さかのぼって話せば戦前のものは何も手もとに残ってないが、少年倶楽部とか幼年倶楽部にも結構今でいえば縛りの場面もあり、何がなし妙な気になつたものである。憶えている題名では「帰らぬ京子」「電気鳩」作者は忘れたが、何れも布施長春の少女少年の縛り画がのつていた。怪人二十面相、妖怪博士等もそんな場面があつた等で、更にはキング等大人の雑誌の江戸川乱歩物など大暗室、妖虫、盲獣など今に持つて来ても可成りスリルのある描写だと思う。特に美女がとらわれ自由をうばわれなどのくだりに何となくあやしきをおぼえたもので、ませたガキだと思われても仕方ない。

尚、大正末か昭和初期に犯罪科学と云う雑誌があり此もあの時代としては可成りの内容で、SMについても可成りの記事があつたが此も親の目をぬすんで誰かが置いて行ったらしい五六冊を読破したが、一度見つかつてえ

らく説教を喰った事がある。こんなていたら
くではその気があるといわれても仕方あるまい。
昭和二十五年前後バイブル物で性犯罪と何
とかのバイブルだったか名前はあやふやだが
雑学のシリーズ物の中でSM記事のまとまっ
てのっているものもあった筈だが、此は親に



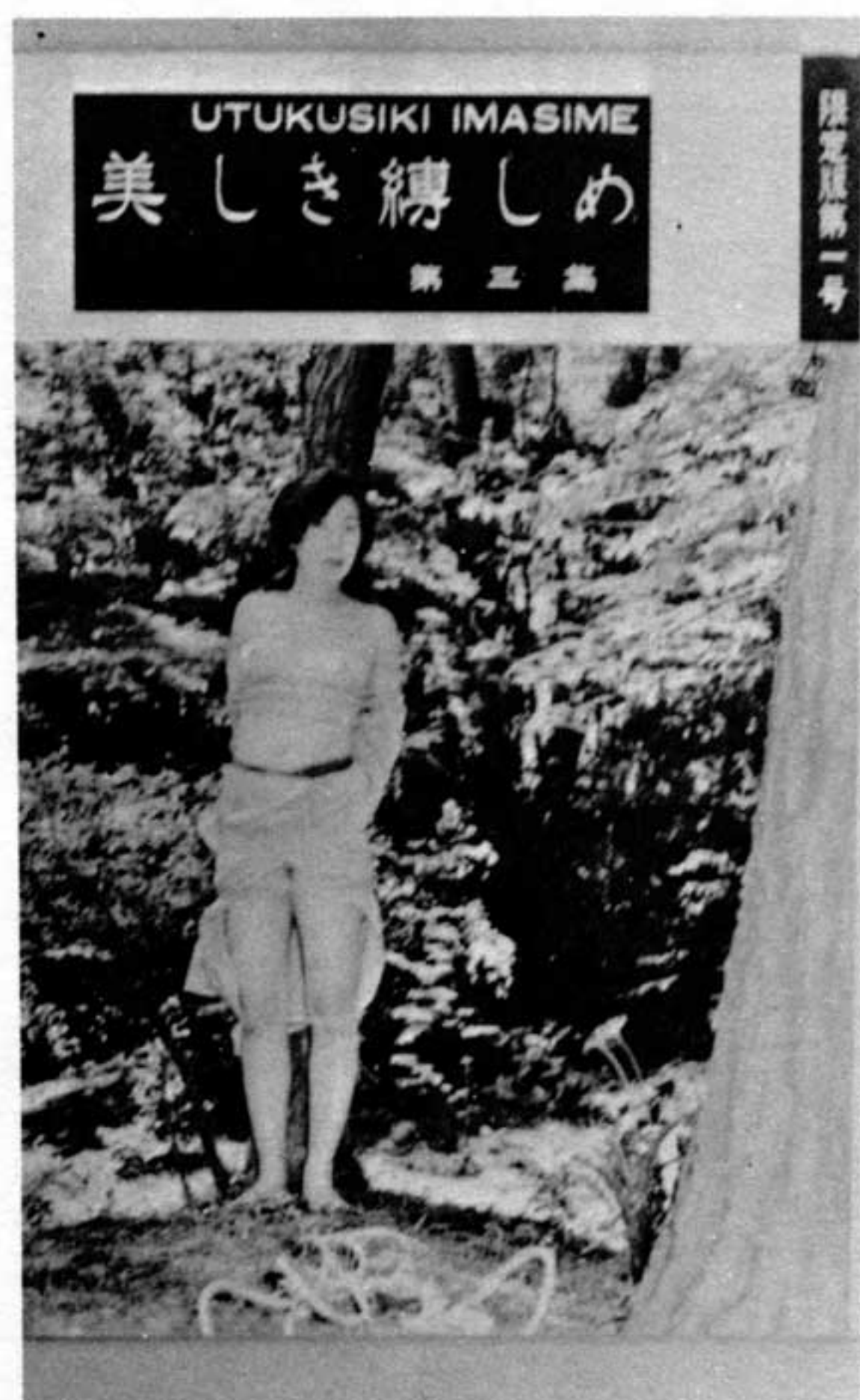
見つかつて捨てられてしまった。以来此種の
集収保存は充分注意を払って来た次第。

この前後に伊藤晴雨の縛り絵など、或は写
真などチョイチョイ見かける様になって来た
が、未だ本格的に集める気ではなかった。

余談だが晴雨の絵は殆んど独学と云う事で
あるが、有名になった縛り絵より、風俗画と
云うか、静物を含め明治大正の色々な風物を
画いたものの方がすぐれて居ると思った事
がある。事実史料価値も高いと云う。

大分道草したが、火種さえあれば、SMの
血が燃え上る素地は充分過ぎる程あった訳で
SM専門誌としてのKK誌の発見で火をつけ
られたといえよう。

思いつくままにKK誌を中心に、好みのモ
デルの懐古でもとつたない筆を走らせてみる
事としたがKK誌の場合モデル名がはつきり
しているの………勿論仮名と思うが………比較
的とりつき易い事もある。但し文章は生来苦
手とあっては、まともに読めるものでもない



奇ク初期のモデル川端多奈子（上）
普及版「美しき縛しめ」昭和39年2月刊
頒価1000円

と思うが、その辺は御許し願う次第である。

その二

昭和三十年の春頃までは、SM誌と云つても、KK誌が中心で、一時風俗草紙と云う雑誌も併行して出ていた。何れも百円前後、今古本屋で見ると何千円の値のついている所もあるが、グラビアも白黒と云った程度のもので現在のSM誌とは思ひもよらないものであった。その頃のKK誌のモデルの草分は川端多奈子であろう。此頃のモデル嬢の集大成は「美しき縛しめ」と云う写真集があり、此に大体その頃のKK誌のモデルは、殊に川端嬢以後のモデルは載っている。赤表紙のアルバム式の写真集である。尚KK誌とは別にKK通信と云う、小冊子？があり、此に写真集の紹介、本誌グラビアの色づけ、より身近な読者通信等がのつていたものです。

さて初めの中は、KK誌を月を追って購入、バックナンバーを揃える事に始まったものだが、次第に病何とかに入るで、分譲フォトに手がのびるのは自然の勢と云うべきだろう。「美しき縛しめ」などはその手はじめと云うべきものであつたらう。尤も昭和二十八年八月か九月号に分譲フォトの何集か二頁にまた

がり細かく何十葉か焼付けされていた筈だが、その頃の写真を持って居られるマニアは少いのではなからうか。私の手もとには一時期2、3枚位はあつたと記憶しているが、何分保存が良くないので……と云うより、周囲の条件からじっくり整理出来ない状態で今以て確められない。

何れ適当な場所さえ提供して頂ければ……マニアの倶楽部の様な形で……雑誌その他と共に整理出来る時もあると思う。

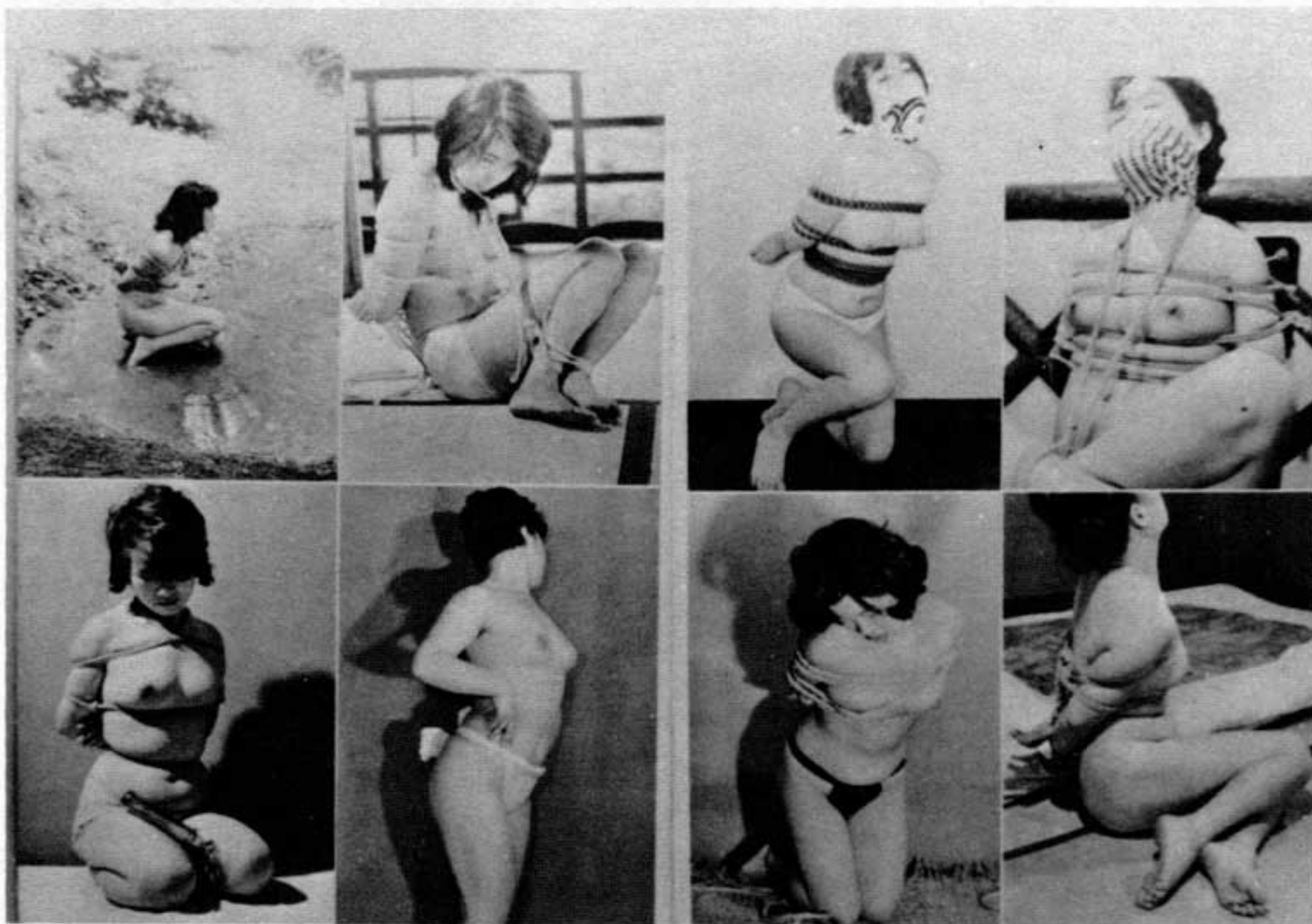
この頃一時期に風俗草紙が併行して出て居り、モデルとしてむしろ仲々アカ抜けした良いモデルを使って居た様に思う。創刊3号目位から4、5ヶ月は仲々良い内容であつたが間もなくしりつばみとなつて行つた。その前後に奇譚草紙など双方の表題から半分づつ名前をつぎ合わせた様な雑誌が一、二冊出て見たり、風俗科学の中の一、二冊にSM記事やフォトが乗つたりして居たが何れも泡沫の如く永続きはしなかった。

本格的に雑誌の外分譲フォトに手を伸ばしたきっかけは昭和二十八年八月号だったか、未だ高校二年十七才と云うモデル嬢の登場であつた。二女連縛の形でグラビアに載つたのが始まりで、ペアのモデル嬢——並木と云つ

たが——は一回丈で消えて行つた。縛りのモデルとしてのプロポーション？は決して悪くなかつたと記憶している。尤も緊縛モデルの良し悪しと云つても、ミス何々コンテスト等の様にやれ八等身の、容姿端麗のとやかましい基準があるわけでもなからうが、顔も体格も並以上であるにこした事はなからう。どちらかと云えば個々のマニアの好み・露骨に反映され、すき嫌いが個々のモデルについてもはつきりするものだろうと思うが……。

さて此のモデル嬢、名前は中富綾子嬢と云う名前で紹介され、色白、しっとりとした餅肌、若いながら成熟した……と云う表現通り、当時の不完全な白黒グラビアでも、縛り栄え？のしそうな体格であつた。私の好みとしてそれまでのモデルの中では群を抜いている様に思えた。二十九年、三十年と単独で時々グラビアをかざり三十年春、一時KK誌が中断する事態となり急いで彼女の分譲フォトをそろえたものだった。分譲フォトとしてはまず当時として最良のものの方で、股間縛り三態などは仲々の出来と云つて良く、これから本当にやみつきとなつたと云つて良い。

KK誌が中断さえしなければ、もっと誌上を賑わしたであらう。事実同年六、七月号位



美しき縛しめ・普及版の緊縛モデル（上）
 曙書房時代の奇ク・分譲フォト
 モデル・伊吹真佐子



にはモデル嬢の素顔というか、誌上紹介がある予定だったとかで、惜しいと感じたものである。

三十年代半ばの別冊限定判のフォト集にモデルの集大成の様なのがあったが、身長一五六斤、体重四十六kgだったか五十六kgだったか、ポッチャリとした体形で、顔も丸顔の可愛い方の女性で？ 私の好みに合うと云うか

……確かに餅肌を思わせる良いモデル嬢であつた。

その頃もう一人、十九才だったか、高瀬忍と云う若干細身のモデル嬢も前後して誌上に

出て居り強いて云うと双壁とでも云えた。川端多奈子嬢が、モデルとして決定的な？活躍する以前にもグラビアでは、二十七年の誌上になるが、仲々縄の栄えるモデルも居た

が、南嬢と云ったか……一度か二度で消え去つた。顔の表情が良かった。

世にSMと云つても、仲々良いパートナーは得難く、恐らく夫婦の間でさえ充分理解してプレイを行える位の人には実際にはそう数多くないと思うが、その頃は未だ今で云う独身貴族、こんな可愛嬢ちゃんを妻にしてSMプレイが出来たらなど、はかない想を致したものである。それ丈に夫婦プレイの出来る人は最高に幸福な人達とも云えるのではないだろうか。

二十八年八月号には当時のモデル嬢数名の座談会も載っていたが、モデル嬢の中でM性も察せられる人もあり面白い試みと思うが、あとにも先にも此種の催しはこれっきりである。モデル嬢も色々でM気のないモデルは商売と割り切っている様であつたが、中にはM気があると云うか、高瀬嬢など、ハッキリと男性に思い切つて縛られた方が良いなどの感想ともらしていたのを記憶している。

人様々と云えばそれまでだが、SMなるものは両性の間の攻撃、受身と云う基本的な性向を形造るものであるとすれば、単純、素朴かも知れないが、我々S人士には女性はすべからずM性であつて欲しいと思う。

只相手の好みは、千差万別であろう。タデ喰う虫も何とやらで、私の好みを云えば、どちらかと云うと若干太め？と云うか肉付きの良い女性が好みで、やせた人はどうも頂けない。むしろ日本人の女性なら足は太い腰から下のたくましい人に健康なお色気を感じる方で、モデル嬢もかくあつて欲しいと思う。その点先にあげた中富嬢はバストも適当に

大きく、ヒップも太股も若い女性と云うか、此から女性として咲き出す前の女高生らしく太めであり私には仲々魅力的であった。

その三

とりとめない事を並べたが、三十年にKK誌が中断するまでを第一期とすると白表紙でひそかに復活してしばらくが第二期とでも云

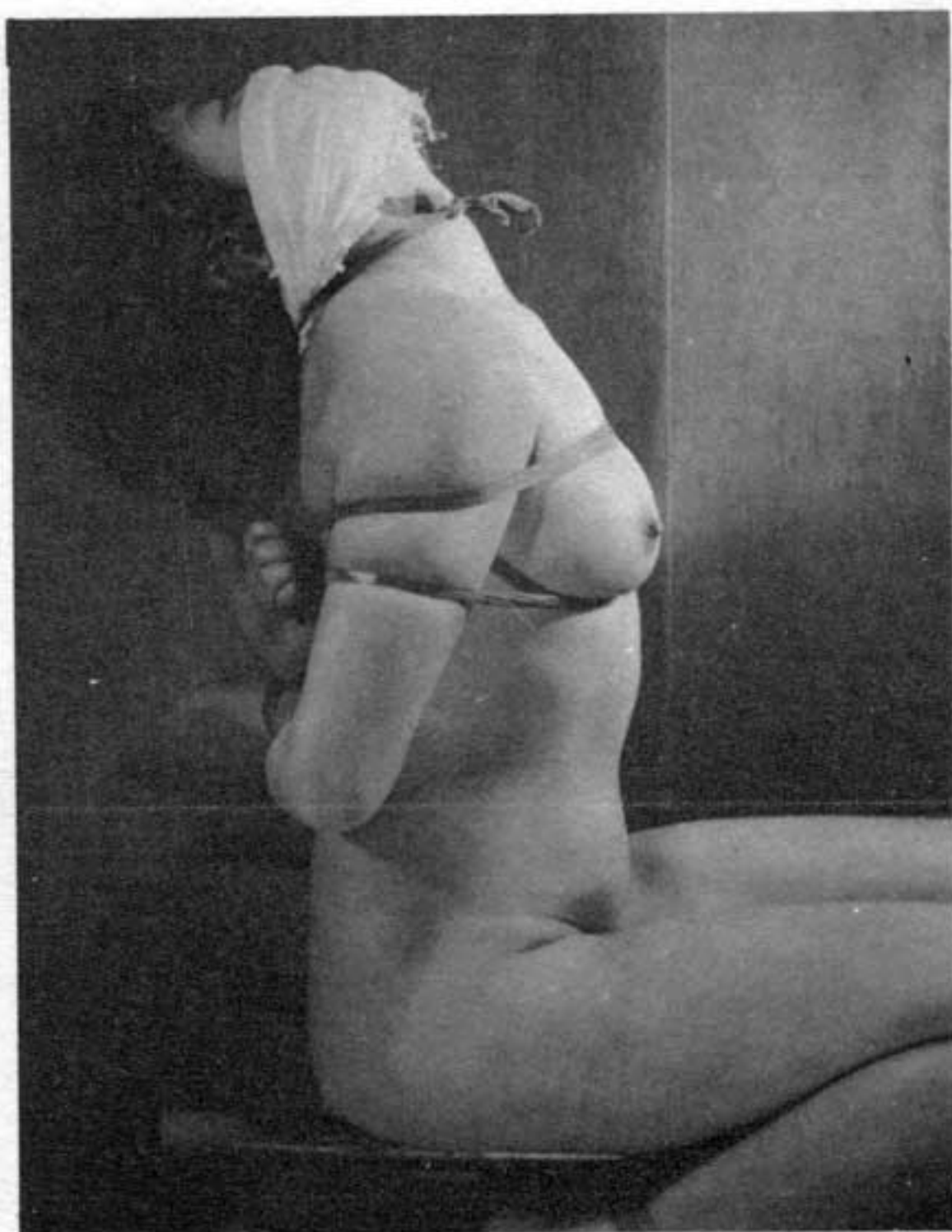
えようか。白表紙時代は、フォトモデル観賞派には何とも物足りなく、淋しい限りであった。その中に本文中に写真も増え、表紙も色刷りとなって来る頃に、裏窓誌とか風俗奇譚誌などが併行して出て来た様に覚えている。

尤も十五年から二十年前の事で、記憶もあやしく何れ蔵書？を整理する時でもあれば、はつきりさせたい。今の所周囲の事情で何ともならない。KK誌、裏窓誌は殆んど揃っている筈だが、正確には、三冊程欠いているので欠番を揃えるためにもチェックしたい訳ではある。風奇は内容的にムラがあり昭和四十年以後は揃えていない。KK誌はグラビアが大部あとになって復活しているが、カメラハントなど内容で勝負していた感がある。この時代は屢々別冊写真集などが出て居り、余り分譲品は集めていない。此は他にも理由があるのだが……。

風奇のモデル中にも時々良い既ち私の好みのモデルが居り特に風奇の前半に多かった。西牧えり子、渥美圭子嬢などである。

分譲フォトの事については余り触れなかったが、本誌と別にと云う事で集める丈に、選別する傾向となり結果として余り数は多くない事になると思う。こつて来ればあり来りの





分譲フォトでは満足行かず、SMのポルノそのもの（と表現しておくが）のフォトを苦勞して入手するハメとなる様だが、今から思うと、随分妙な苦勞をして冷汗をかいだ事もある。マニアと云う人とのつき合いも色々勉強させられたものだが、概して関西の人の方が、サバけている様に思う。

此の種のフォトは一般のポルノと同様で大体出所が絞られてしまうので我々平凡人ではすぐ行きつく所へ行きつく様に思う。

何れ危い橋を？渡っても知れたものと云う訳で、信賴の置ける同好の人とのひそやかなやりとりと云う事になるらしい。

落着く所へ落着くと仲々思う様にハカが行かないもので、結局分譲フォトの方がマダしもと云う事にもなるのだろうか。

SMフォトのポルノ度であるが、昭和二十九年四月号のKK誌のグラビア（勿論白黒）が当局のチェックを受け店頭に出てから回収されたと聞いている。幸い手元に入手してか

らくだんのフォト——坂口嬢——このモデル嬢はバストが大きかった……の股間縛りを見たが、今のSM誌のグラビアから見れば何の問題になる所もないと思われるモノで、昨今の方が余程いわゆるお上の云うワイセツであると思うのだが……。時代が変わると随分サバけて来るものであると思う。

横道へ外れたがこの時代のモデルには、まず大塚啓子、須川文代嬢などが白表紙時代からの活躍を見た代表的モデルであり、表紙が

色刷りとなって来た昭和三十五、六年頃から
は竹野ひろ子、東浦ひかる、関谷富佐子、田
原みさ子、水本茂美、など、又ファンの多い
梨花悠紀子なども此時期の登場で、ややおそ
くなって三好留美、左近麻里子、山原清子な
どのモデルが次々と登場して来ている。

カメラハントと云う記事が始めて載ったの
は、昭和三十九年の中ば頃だった様で、此の

頃から色々のM女性が紹介されて居るが、全
部が全部モデル嬢として、その後のグラビア
に載ったり、分譲モデルになったわけではな
かった様である。

昭和四十五年十二月の別冊増刊号は、昭和
三十六、七年頃からのカメラハントに載った
M女性をピックアップ、その頃登場して来た
モデルまでの集大成の様な写真集となってい



る。KK誌の分譲フォトは中断時代から白表
紙の時代にかけても継続されていたが、前記
のモデルの多くが分譲になっていた様で、関
谷、水本嬢などのものが、手許に若干ある。

尤も関谷富佐子の場合、人妻とかでミスと云
うわけには行かないだろう。これら古い分譲
フォト、別冊写真集などは市販されてないも
の丈に、マニアにとっては、月刊として出さ
れていたもの以上になつかしいものもあろう。

その他の雑誌でもグラビアなどに間々、こ
れは！ などと云うモデルの縛りフォト等発
見すると、その都度保存する様なマニア振り
も發揮して来たものだが、何分気まぐれな事
と、蓄積？が年々ボール箱三つ四つ所でなく
なり子供も年頃ともなれば、家内もとかくう
るさくなり、整理所のさわぎでなくなつて、
フォト共々ただ死蔵するのみと云った始末だ
が、マニアである事にはかわりなく、やはり
性こりもなく集め続けていると云うのも困っ
たものと思う。まあ雀百まで踊り忘れずと云
う事だろうか、とんだSM亡者である。

昭和四十五、六年頃以後グラビアが再び復
活して来たKK誌に併行して小説SMセレク
ト誌などが出揃って来て、途中挫折した団鬼
六氏のSMキング誌などの後、現在のSMコ



レイター、SM奇譚、小判のSMファン、更には遅れてSMファンタジアなど色刷グラビアの現在のSM雑誌全盛時代となったわけである。この他にもSM誌は幾つか出て居り、而も生命の長いものもあるが、風俗奇譚の如く、名前をかえて間もなくつぶれたものもある。こう百花療乱の状況となると雑誌丈でも

追い切れなくなる。下らぬSM誌でも時に迫力のあるものもあり？厄介な事だ。

今の時期はSM誌の第三期と云って良からう。その昔KK誌の出始めの頃に比べて、実に開放的になったものであると思う。

昨今の特長？として、雑誌など刊行物以外に実際の演劇でもSMがかったもの或はSM

そのものの筋書がかなり開放的に上演される様な時代でもあり、マニアにとって良い時代となった様にも見える。然し前にも触れた様なひそかな楽しみもなくなった様で、本来SMと云う若干背德的なものは皆の目に触れる事ない楽しみとした方が良いのかも知れない。SM劇のスター？の中には雑誌のモデル娘も居る様だが、現在市販のSM誌、私はコレクター、SM奇譚、SMセレクト、SMファンの四誌がベスト4と思うが、これらの誌上をにぎわすモデル嬢は、改めて触れるまでもなく、同好のマニア諸兄も、良く知って居られると思う。

唯、此等の雑誌が、通り一ぺんと云う感じがするのは、モデルが毎号変り、良いモデルも居ると思うものの、KK誌の如く長期にわたりグラビアをかざる事が無いと云う事で、此辺が、内容と相伴って、あきたらないものを感じさせられる原因でなからうか。

その点今後のSUN&MOON誌には特長作りをお願いしたいものと思う。芯を一本通して永続する事はマニアにとって切なるものがある。

モデルの話にもどるが、KK誌の休刊前、最後の花と云うべきモデルが昭和四十五年の

正月号だったかに初登場した、女子大生と云う前田真知子嬢である。

初期の花を中富綾子とすれば、前田真知子が最後の花と思っている。特にデビュー初期のものが良く、後期のものは若干くずれたと云うか、年令的な変化もある様に見え、やせて来た事もあり、元々バストがない丈に

少し見おとりがして来た感があった。グラビア復活後休刊まで、誌上をかざる回数も多かった。分譲フォトも多い。

此のモデルと並んで双壁と云えるのは、笠井奈保子嬢であろう。此のモデルは、年も若く前田真知子よりもS人士向の印象が強い。大体KK誌のモデルは、単なるモデルと云

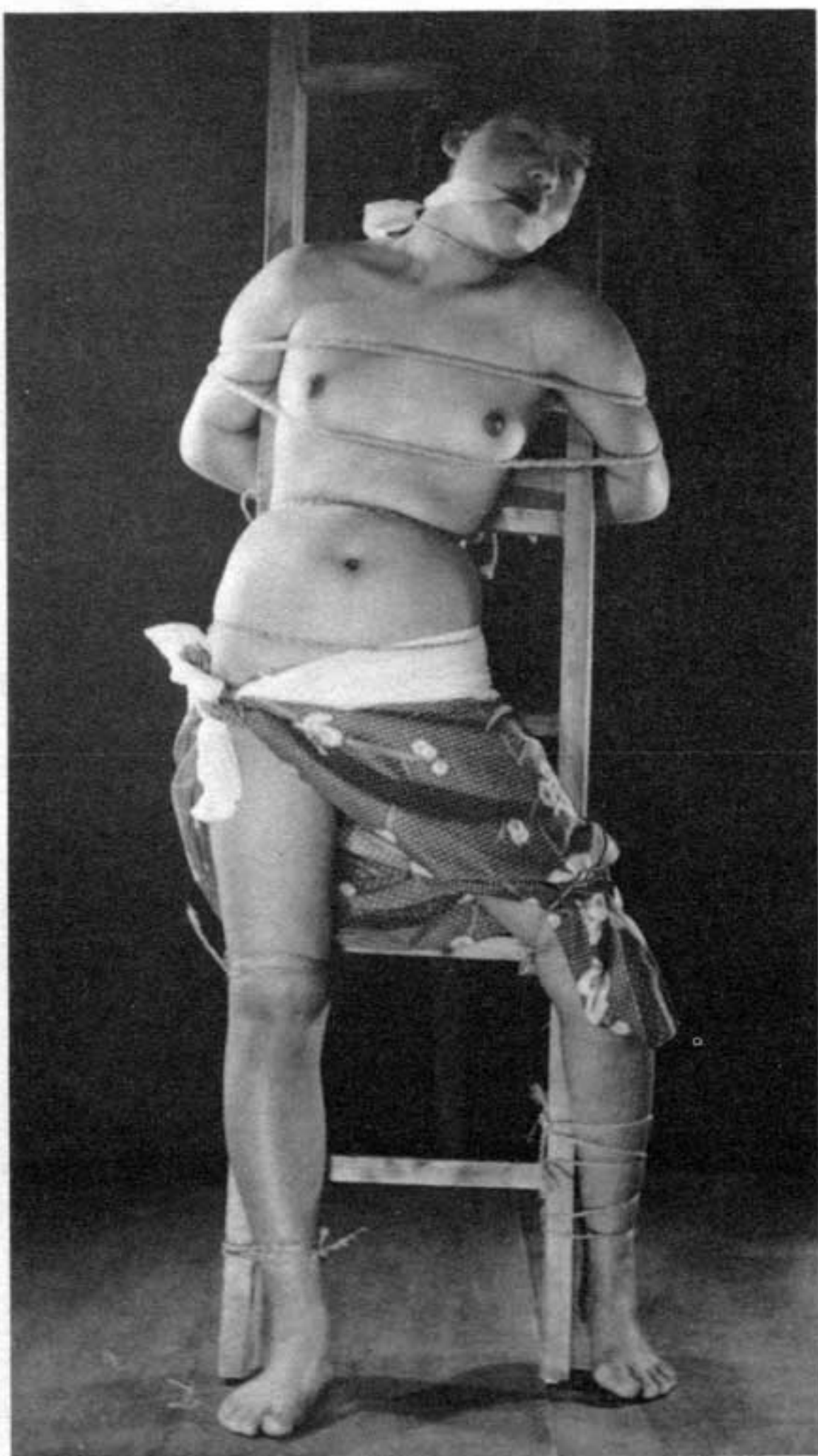


う丈でなく、或る程度その傾向のある対象として発掘している所もあるらしく、自づと写真の感じも他誌と異なる様である。

最近の各誌のモデルについては、見られる通りであるが、KK誌の如くモデル名がないのと通り一編なので、物足りないが、中でSMセレクト誌のみは、撮影記中でモデル嬢との接触をしているのが有難い。余計な事だが好みのタイプとして、五十年十二月号の本田綾子（別冊には高木洋子）、五十一年四月号高沢マキ、同五月号瀬戸かおり、渡辺恵子（あるSM劇にも長谷恵子の名で出て居り同八月号の吊りなど表情も出ている）。九月号あおい良、十月号の濡木人質店のモデルひとみ嬢、十二月号谷小百合嬢などは何回も出て欲しいモデルである。

長々と書き流して来たが、過去の事から話しては、きりもなく、しまらない話なので、コレクターとしての生い立ちのおさらいを先にさらけ出した次第だが、集収物整理の機会を見て、好きなモデル個々のフォト中心に縛りの考察でもと思っている。

一口に縛りと云ってもSの好みも様々、繩のうるさいのは駄目、股間縛りがどうの、サルグツワはかかせないとか、吊りが好みなど



千差万別であるが、小生の好みを云えば緊縛感の強いもの、モデルにも被虐感の出ているものが良く、悪くいえばドギツイのが勿論良いわけで、海老、逆海老、股間縛り等が好きであり、サルグツワもかかせないと思う。

この点モデルの表情も豊かな方が良い。私の推す中富嬢、前田嬢にしろ私の好みのサルグツワをかませたものは少ないが、表情としては良いものも少くない。

然しコレクターとして見る場合、公刊誌、分譲等の範囲では何れ限界もあり、ゆるされ

る丈の範囲でガマンせねばならず、一枚のフォトからその前後の、過程に想い致す事が楽しみと云えば楽しみだが、何とも面倒な事である。

フォト集めのかたわら、多少絵心もある事なので、責絵なども書いて来たが（一人だけの楽しみとして）此の方は自分だけの閉された世界であり、自由な空想を、絵の上で実現する事が出来る楽しさがある。唯自分でイラストを画いて見ると、存外人体と云うのは面倒で末端の表情をうまく表現する事は仲々の

技術がいる。KK誌の草分の頃は、喜多玲子、滝麗子などの通名のイラストが好きであった。二十八年頃連載され、単行本にもなった「淫火」のさし絵は今でも印象に残っている。

最近のイラストでは、棕陽児のものが良いと思っているが、此の世界でもSMは花ざかりと云って良い様だ。

長々とまとまりのない事になったが、SMもこれだけ見た目にはなやいで見える時代になったものの、本当にその中に浸れるかどうかは、現実の問題として難しきろう。とかく色目で見られ勝ちな分野である丈に、同好のつき合いを大切にし、新しく生れたSM誌を大事に育てて、広く深い信頼の置ける交流の場として戴きたいし、マニアとしてコレクターの一人として切に祈る次第である。

次に御目にかかる時は、何度もくりかえすが具体的に個々のフォト中心、モデル中心に述べてみたいと思っている。

わが輩はドクシンキゾク

桂 敬 紀

世田氏から惠贈された「サン・アンド・ムーン」誌をテレビを消して一気に読破してみると、余りにも「KK誌」……つまり「奇譚クラブ」の廃刊を惜しむ心情がのぞいているのには呆きれてしまった。

これでは私の出る幕はない。私は江戸っ子の身最良のせい、「奇ク誌」よりも「風俗奇譚」の方が好きであった。

好き、といっても愛読したというわけではない。お世話になったし、楽しめたということである。西の「KK誌」が読者通信欄で同好者の交歓を薦めながら、編集者の好みが投書の選択にも現われて殆んど交流の実現が

なわなかつたのに比べ、東の「FK誌」の読者サロンへの投書と回送文扱いはSM耽美人種には期待と成就の夢があった。

実際に私は幾多の同好者と交流することができたし、奇異に見られることをおそれて匹夫匹婦の思いで暮す「善良な市民」たちと意気投合して、人生に曙光を見出すおもしろいになったこと再三ではない。

推考だが、世田氏が三号の「変収興起」の末尾に「知人巡訪は正直なところ疲れます」と書いておられる、その知人たちは「奇ク」ルートで知り染めた同好者ではない筈だ。私同様に「風奇」の読者サロンを通じて、交流



交歓の実をあげてきた方々だと思う。天星社社人には仲介斡旋の労をとるほどのサービス精神はなく、一部の媚びへつらう購読者を除いては冷淡であった。

それでいて「奇ク」の廃刊ばかりを哀惜す



るのは「風奇」が「奇譚」であればなんでもと女装だ、ホモだ、切腹だ等々盛沢山に詰め込み過ぎた上、フェチこそ人生の愉悅とする論客のドグマが見ざわりになって見放され、ただの「読者間交流を果す」だけの方便の場

となつてしまい、愛顧の域外に去つたせいだったのであろう。

「風奇」は「奇ク」の模倣誌であつた。模倣なら模造に徹して対抗すればSM関心事の強い読者にとつて楽しめた物になつたであらうが、東京という雑居性の都会風土をそのまま反映する夾雑さで、支持者を分散させてしまつたのである。それにしても「風奇」の果した隠れた功德には相応の判断が示されてよいものと思える。

私は「サン・アンド・ムーン」誌が、「奇ク」の排他性がチラついたものより「風奇」の「特異人種雲集」の印象がある方に向つて欲しいと思つてゐる。ただし、「さぶ」や「薔薇族」などホモ専門誌があることであり、陰性な連中の侵食は断平許さないでいてほしい。愛というものを邪曲している者は差別して当然なのである。

私は世田氏と知り合つた頃から依然として「ドクシンキゾク」である。日本国語の面白さともいふのか、発声だけで表現すると誤解があつてもそのまま印象が固定するらしく「独身貴族」と羨しがられているようだ。ところが、仮名書きを漢字に置き換えると

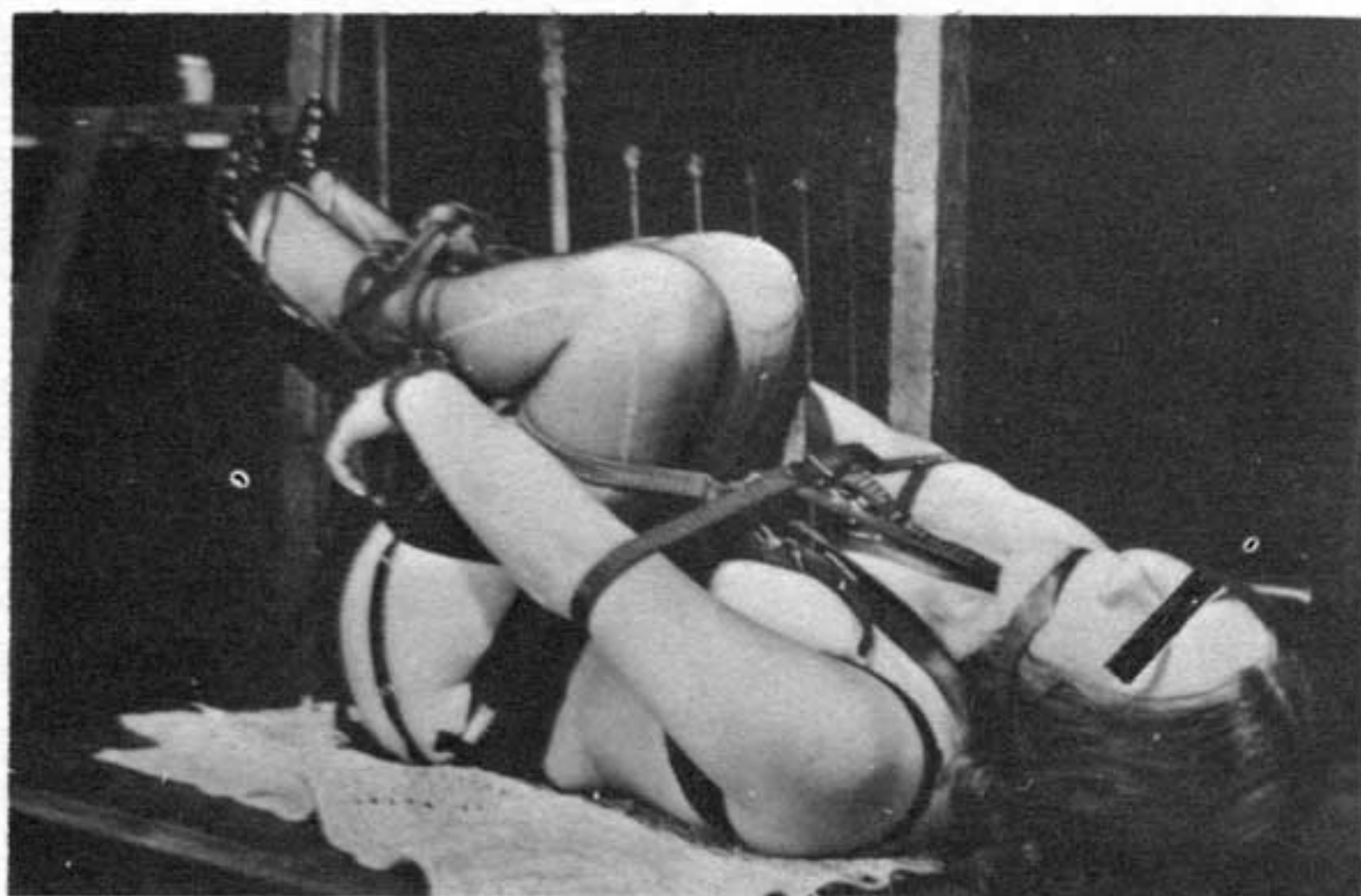
「毒身奇族」となるのだ。……と、まず解説（告白）した上で、愛の漂泊者の旧懷談の筆を進めてみることにする。世田氏がご存知だつた頃の私の生活は確かに「独身」であつたが、今はやや妻帯者に近づいて、「独身」とは云えない変化が起り、毒気の多い身と称している方が似合いなのである。

私のような、とんでもない男に惚れ込んでしまつた「愛奴」は、過去に同棲経験のある女である。彼女の実兄と「風俗奇譚」誌の回送文扱いの手紙で交流しだしてから紹介されたのであるが、一度会つてみると彼女は兄夫婦との暮しを嫌つていたせいか、私をさかんにたより出して、遂にはスーツケース一つ提げて上京してきた。

五年前の晩夏の頃である。

私が母に内密にしておいた恋人が突然「おしかけ女房」のようになつて乗り込んで来たとも思つて驚いている親へ、しどろもどろの釈明をして「東京での家事見習いのお手伝いさんになりたいといつていた友人の妹さんなんだ」ということで誤解はまぬがれたものの、母子二人暮らしの中に若い女性が出現したチグハグな思いは残つていた。

母の頭の中には、私が「得体の知れない人



たちと文通」して、その中の一人を「誘惑」したのではないかという疑いもあったらしいが、即日、彼女を「約束の先方の家庭に案内して来る」と断って外出し、一晚ホテルに外泊させ私が単身帰宅したことにより、疑

惑が晴れたのである。

「先約があったのなら仕方がないが、なんなら家にいてももらってもよかったのに……」

と、後になって残念がる母の言葉は、私が彼女を「誘惑」したのでも、私の隠し情婦でもなかった納得と安堵を示していた。

ところが「毒身奇族」としては心穏かでないられるわけがない。とりあえず都心のTホテルに二泊の予約をして部屋を確保の上、愛奴馴致の儀式をはやばと済ませてしまったのであったから、翌朝平静を装い家を出ると足を真直ぐTホテルへと向けたのである。

「妹をよろしく頼む」と、夫婦にとって邪魔者となっていた実妹の追い出しが成功した山岡氏は、血縁の者を人身御供のようにして友誼のあかしとしたことを得意にしていた。それほどSM興味にのめり込んでいたのである――

「柱さん（桂ではなく誤読して『柱』と呼び、それが慣習になっていた）が、どうしようもない晴美をどうM調教するか楽しみだ」とも云って、私の許にたどりついた妹の確認が果されると、厄介払いが済まされたとかかり彼は私との交流を避けて行くようになったが、勿論その事柄は後日の話である。

ポケットに忍ばせ持ち帰っていた鍵でドアを開けて入ると、晴美は図太く惰眠をむさばっていた。兄夫婦と同居の家の中では、彼女は彼女なりの遠慮気懸があつて、睡眠もままならなかったのではなからうかと思われた程である。

実際、山岡氏の招きで私がSM蒐集資料を持って訪れ、夫婦プレイの一部始終を参観した日は、あとになって「妹が奥の部屋に閉じ籠っている」と聞かされて呆然となった位、夫婦は傍若無人振りを示したのであるから、普段の生活を推理しても狂気の沙汰であり影響も甚大な筈であつた。

晴美が私を頼って家出してくるに当っては兄の知人である以上、義姉が被虐呻吟しているような目に自分も合うだろうという観念か、好奇心もあつたのであろう。覚悟はできていた。

愛の挫折を身に泌みて味わった女の自棄とばかり云えないところがあつて、私は尊大にも晴美の救世主、矯正者になってやろうと気負っていたから、私自身は突然の訪問は迷惑より、むしろ歓迎であつた。そうしたことから全てすることが直截的であつた。



といっても、母の手前は虚勢が削がれてしまったが、それ以外では単純に「棚からボタ餅」風に感じて胸ときめかせていた。

愛車コロナのトランクには常時SMプレイ具が詰め込んであり、臨戦体制は万全であっ

た。豪華ホテルのロビーに立ったことで既に雰囲気酔いまどわされている晴美は、水銀灯に照し出されるアベックのメッカの景観を眼下に見る部屋に通されると一層恍惚の表情で私に全幅の信頼を風情に示すのである。

「今から、君のことを山岡さんの妹だとは思わない。私が飼う牝犬になるんだ」

私は晴美のスーツケースには着換えの服が入っていることを見込んで、コットンのワンピースを引裂いたが、ふた夏以上も着込んでいるような服は、瞬時に裸身を露わにするほど見事に裂け落ちた。

「お風呂に入って来ます」

男と女が密室ですることは、直ぐにセックスとも思ふのか、晴美は足許の破れた服をかかんで拾うと胸に押し当てて、ボーイの教えたバス・ルームへ立とうとした。その肩を押えつけて私は床につき倒し、

「返事の方が先きだ」

と云い放ったのである。

突嗟のことであり、返事といわれても何んのことか判らなかつたらしいのだが、かすかな記憶の「飼う」という言葉を思い出し、仰臥したまま涙を浮かべ晴美はやつと

「私を……飼ってくださいーい」

と答えて、嗚咽しだした。

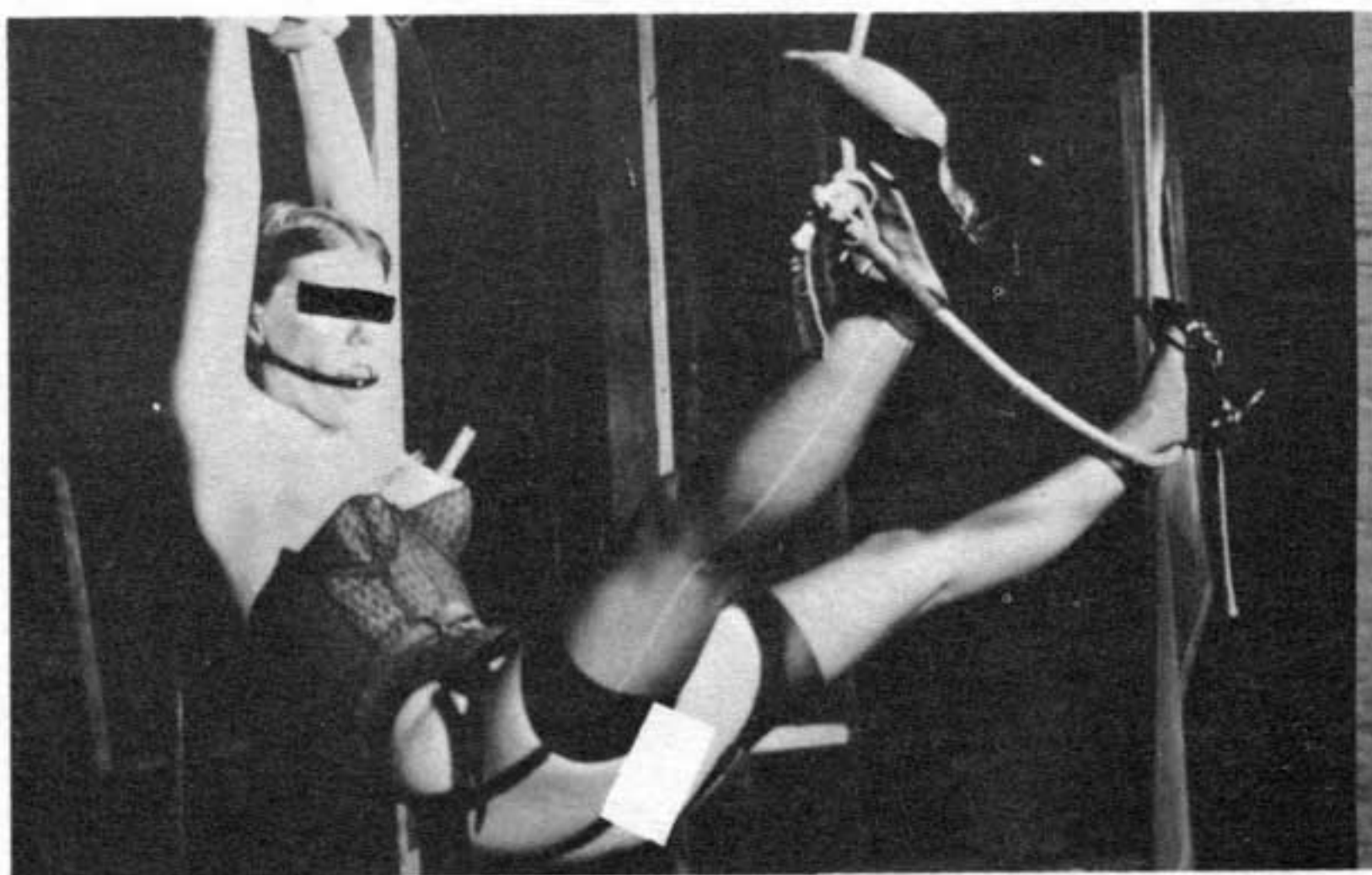
冷房の効いた部屋であったが、私はすっかり汗ばんでおり、女を泣かせた感動に耐えきれずベッドへ腰を落した。

その時の愉悦感を反芻しながら、私が入って来た気配も感じられず寝入っている晴美を見下していると、新婚の初夜を過した夫の立場以上に歓喜が湧いて来るのであった。

私は一夜、晴美をホテルに置き去りにしたのである。しかも異常な状況と状態にしておいてである。

短時間のうちに、絶対服従の誓いをたたせるためのミサは、意識して無慈悲冷酷であった。マゾ志向の女性に出会ったら、と実践計画を暖めていたことのすべてを晴美に適応したのである。その嗜虐満喫は、下手すると晴美は被虐状態で絶命しているかもしれないという不安と裏腹であった。だが、幸いにして椿事をひきおこさずに済んだことで、歓喜が倍增したのである。

尤も「実践計画」そのものは、SM同好者の体験に基く無難な加虐手法の知識を連ねてアレンジしたもので、生命に異常をきたす筈はないものであった。全裸にしてベッドに拘束していても、冷房は止めておいたし、心臓



麻痺を起すことは考えられなかった。

読者は、大手術後の患者が病室のベッドに連れ戻されて絶体安静を強制されている姿を想像して下されば、おおよその見当はつくであらう、と私は考える……つまり晴美はベッ

ドに固着された以上、排尿逼迫してもトイレには行けないのであるから、導尿管を通され膣圧計を嵌入されて、成人用イチジク浣腸で二度排泄させられた全くの空腹状態を見せるへこんだ腹部を曝しながら、ローソク責めの蠟涙を体の前面ほぼ全域にのせて涕泣叫喚したままの姿で寝入っているのである。

口に含ませる突起のついた皮製猿轡は、鼻責めの鈎具の牽引で上口唇をのぞかせ、ずれたようになっていたが、施枷した時のままである……そして何よりも気になる膣圧計周辺は剃毛したあと口紅で赤く彩色しておいたせいでカーテンを閉めきった薄明りの部屋では黒光りしていた。

晴美が目を醒したのは、廊下を往き交う人の足音が一旦頻繁に聴かれたあと鎮まって掃除機の騒音が聞えてきた頃であるから十時を過ぎていた。私は一時間程度隣りのベッドで眠ってしまったのである。

部屋はホテルの建物からすると西側で朝日の直射は受けていないのだが矢鱈とむし暑かった。僅か一時間の熟睡で私は寝汗をかき、はっと気がつくとなちまち目が冴えて、桎梏からの解放を懇願する晴美に対して威厳をとりもどして立臨んだ。小型バイブレーターを

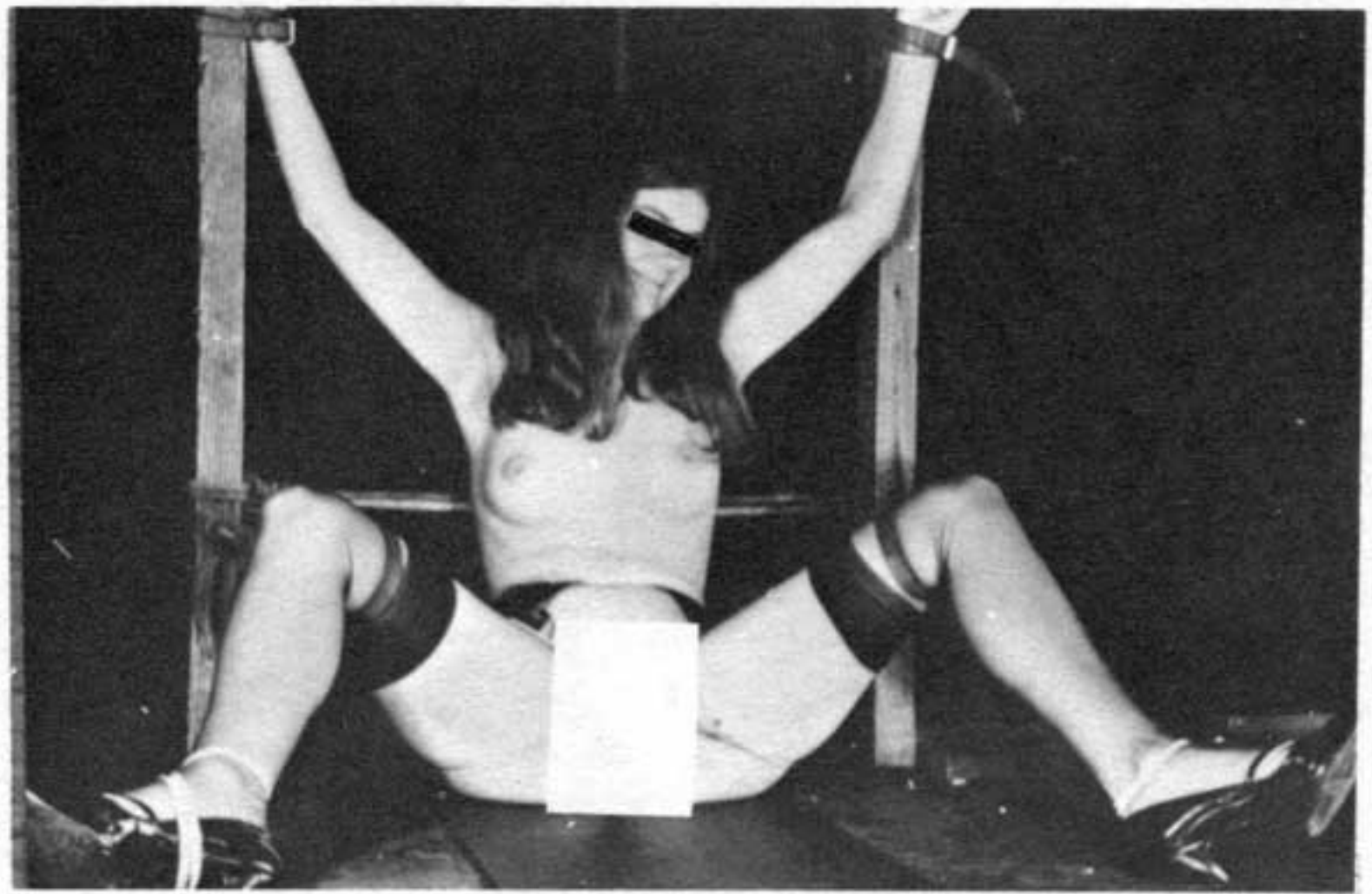
とり上げると同時にスイッチ・インして、快感堪能の名独唱を再演させたのであった。蠟涙のあとは飛び散り、鼻責めのおし拡げられた鼻腔から鼻水が溢れ出た。それは享樂失神の寸前の現象であった。

好きな男に、愛されていると信じ相手に求められるまま体を許してずるずると同棲生活を二年送った晴美は、その男の性欲処理の道具に過ぎなかった。

男は晴美を『女』として育てる至愛を見せなかったばかりではなく、別れ言葉は「燃えない女なんかつまらん」という捨て台詞だったのだ。男の頭には『女は楽器』という興味ばかりがあつて、媚ながら悶え果てるものの幻想が離れなかったものであらう。晴美は男との間にエクスタシーを感じることなく『冷感な女』と思い込む結果となって別れたのであった。

だが私に見せた熱情的喜悅の顕現は、淫樂耽溺が陶酔となる体であることを示している『未開発』ではなかったのである。

晴美にとって、上京二日目の昼夜もまた飼いい犬仕込みで明けくれて、外気の暑さを思うと外出することが億劫になるのを幸い、ホテ



ルの建物の外へは一步も出ずじまいで終日畜化女を傍においていた。

私と十二違いの若い晴美は、なにしろ気力回復が早かった。地下の「ショッピング・アーケード」を楽しげに歩く姿は、つい先刻まで

パイプレーターによって吟呻させられ、体力を消尽したようにベッドからよろけて立った女とは別人のようであった。

「どんな小さなアパートのお部屋でもいいですから、私のために借りて下さい……私、働いてお金は返しますし、経済的なことではご迷惑かけないつもりです」

「それ以外では私の世話になりたいと希nderのか」

と、意地の悪い質問をする私に、

「本当は……もうどうなってもいいんです。

そばにいて暮せさえすれば、奴隷になってもいいんです」

晴美は自分の運命を自ら選んで悔いないと落着いた言葉でいいきった。

飼われることを好み、私から苛責され過去を清めようとする女は、「予定していた就職先きの家と待遇の折合いがつかなかった」ことを理由にして我が家に住み込ませた。

親も「家にももらえばよかった」と惜しんだあとだけに、引留めができたことを喜び姉たちが嫁ぐまで自室として占有していた禁男の部屋を晴美の個室に明け渡してくれたのである。

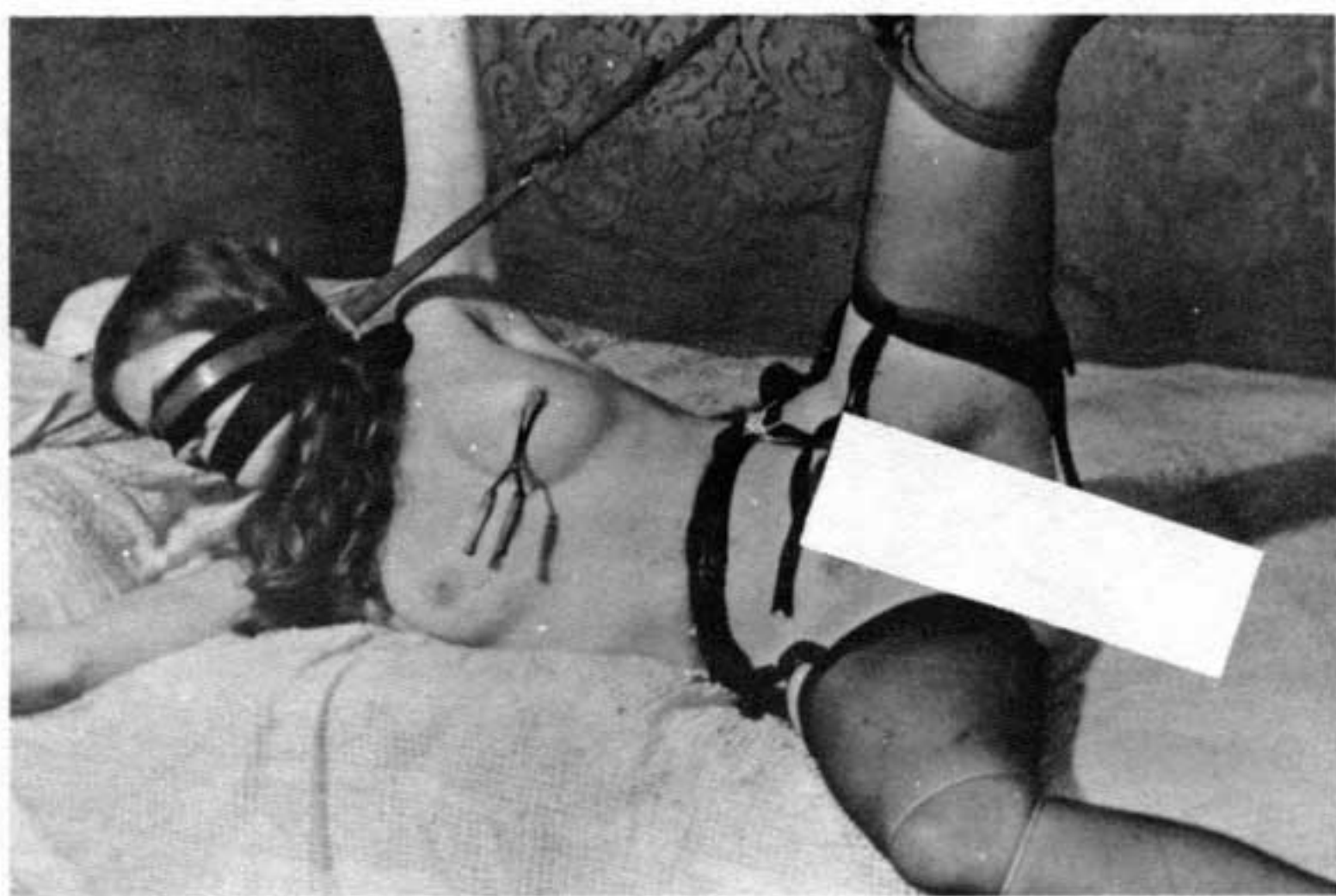
三人姉弟の末っ子であり「長男」でもある

私は、嫡子の権利をほしいままにしていたせいで、晴美が女中に化けて同じ屋根の下に暮すようになってからも動揺を感じることはなかった。むしろ親の方が「知人の妹」にこだわって、家庭的待遇に気を遣っているようであった。私は性的調練の方にだけ力を注ぐが、母は「良家で家事見習いを修得した娘」といわれるにふさわしく育てようと気を配っていたのであるから、愛奴に磨きがかかるのは自然の成りゆきであり、居心地の悪いわけもなかった。

母が近所の噂として耳に入る晴美の評判にしても、「今どき仲々雇えない別嬪のお手伝いさん」であり、「長男さんのお嫁さん候補なのではないか」と囁かれているというような、私としてはまことにくすぐったい思いにかられる事柄であった。

このことからしても、人は環境によって変わるものといえ、「奇ク」に記述されるもの――「奴隷牝」「被虐妻」などの表現があるもの――には、生理的に拒絶性が強まってきた。私は自分の愛奴を得意気に他人前に連れ出したいとは思っていない。カメラハントの素材に提供するとか、S研の実験台に使って欲しいと申し出る男の気がしれないのだ。それに正直

なところ、同邦のSM愛好人士は不明朗で姑息で飢渴タイプが多く、信義欠如な者が目立つ。私はエゴイスチックと他人から云われるかもしれないが、愛奴“晴美”を飼育すること、SM同好者との交際は次第に整理して

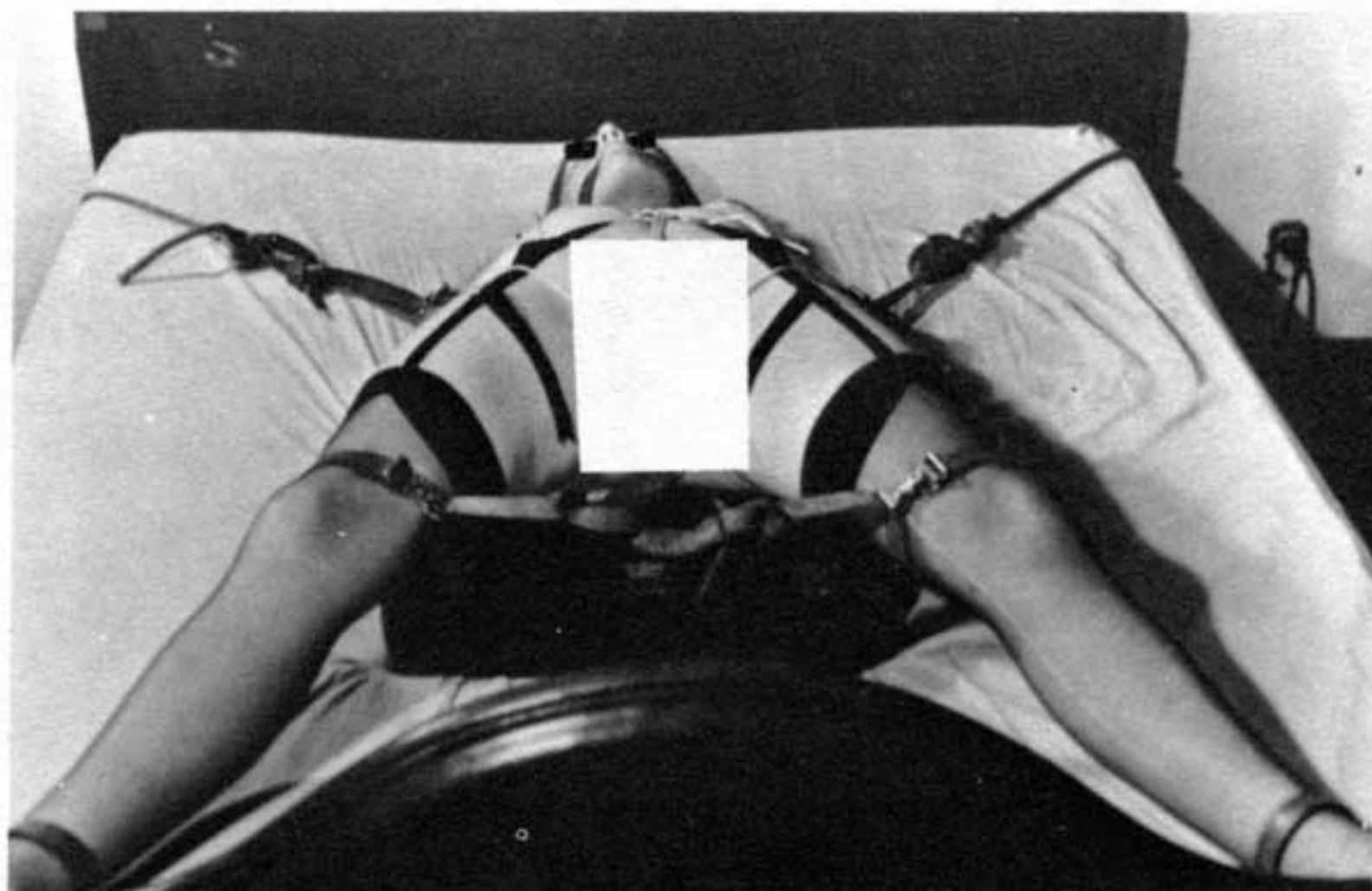


しまい、かつての熱狂性は他人に見せなくしてきた。

親しい人（世田氏を含めて）が訪ねて来られても、わが“愛奴”はお手伝いさんとしは見られないようガードしていたし、相変らず続いている蒐集癖に関する話題に絞って談笑していたわけであった。

「ロマンスグレーの“独身貴族”で羨しい」といわれれば、そのイメージをこわさないように合槌を打ち、気さくに振舞っていたのも、つまりは国内のSM族ばなれを意図していたからなのである。

私は「緊縛された女」の写真には興味があった。しかし、一向に進展しない“縄目の興味”に終始しているSMの自称マニア達には愛想が尽きていた。「奇ク」をなつかしむ人達には自分には開拓出来ない道があり、その先の花園に遊ぶ恵まれた人を羨やみ、あやかりたいという気持が多分に働いていたと思う。特にM女といわれる虚像に吸い寄せられ魅惑が未だに網膜に焼付いているのではあるまいか。私は実像を掌中におしくるんで、狂奔するマニア族から離脱し、「奇ク」とも「風奇」とも新興SM誌群とも無縁になった。



SMプレイは方法論でも観賞・批評するものでもなく、生身の人間同士が実践し興趣に耽けるものであってこそ至味といえる。縄による「緊縛の図」は私の好みではなくなつて、そのオンパレードを売りものにしてゐる雑誌



は不必要であった。「毒」が回っている身は、もっと多彩な歓楽が必要であり、「奇族」の孤高を保つ上でも「嗜虐」に徹する資料をコレクションに加える方が望ましく思えてきたのである。

私の海外文通仲間、アルフレッド・ヒチコックというおどけた人間がいる。といっても巨匠といわれる映画監督ではなく、私と同職の商業デザイナーで、本名は別。レター署名がA・Hなのだ。彼は私のコルレス契約には恰好な人物であった。

「よう、君。日本じゃ手に入らない面白い物を収集してくれよ」

「OK。具体的に云ってくれ」

「スレイヴィツな物だ」

「お、君にもそんな野心があったのか。あれはいいぞ、疲れた体がスカツとする。自作のものでよければ謹呈する。」

「君となら、私のと交換してもいい」

「ヨッシャ……ヨッシャ。楽しみがふえた」
物分りがいい相手に、まず私の収集品の中から選んだ「緊縛写真」を書籍の間に挟んで持ち帰ると、帰国するや否や手配した航空便が届けられた。

（親書なる奴隷主義者K、この娘は私のオフィスで働いているが、それは家内に対するカモフラージュであって、サド侯の寵愛を受けている淫売である。抱え桜は……と自宅所在地を書き）お立寄りの際はヒモなる私にチップ多額（資料豊富に）お手渡し下され）

と、自筆の文面と数葉の写真が現われた。最初の一葉などは、私が五年前に晴美をTホテルに置き去りにした時の光景と酷似している、思わず噴き出した。

その夜、私はひさじさに晴美に縄をかけた……愛奴飼育の中間記録を残す為ではなく、縄に「縛絆」の思いをこめての感興をふるいたたせる行為であった。五年前の「女を泣かせた」感動をよみがえらせていたからでもある。

「縛絆、縛絆か……」

と、しみじみ味わう口調でいった言葉に、わが愛奴も肅然と佇んでいた。

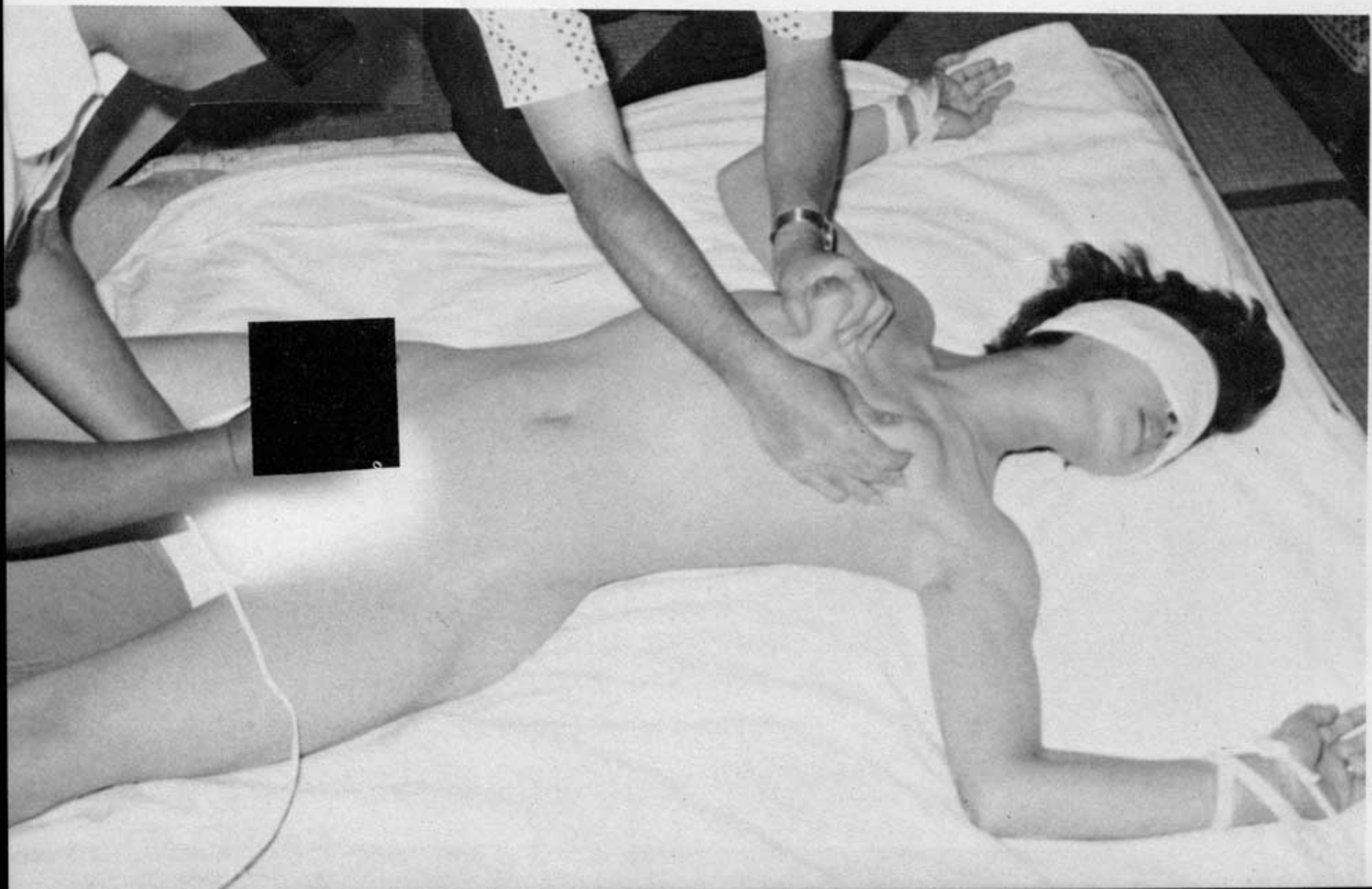
私は「サン・アンド・ムーン」誌が、真実愛をみつめる雑誌に育って欲しいと希っている。愛の漂泊者がたどりつき、そこで反省するなり発奮するなりして迷いを払拭できるような世界を創り出してほしい。私は寄稿者諸賢ほど積極的にはなれないが、海外情報を時折り提供する程度に参画して行くつもりである。わが心境御賢察願えれば幸甚である。





祭壇

S M スワップ初体験





マニア秘蔵写真集

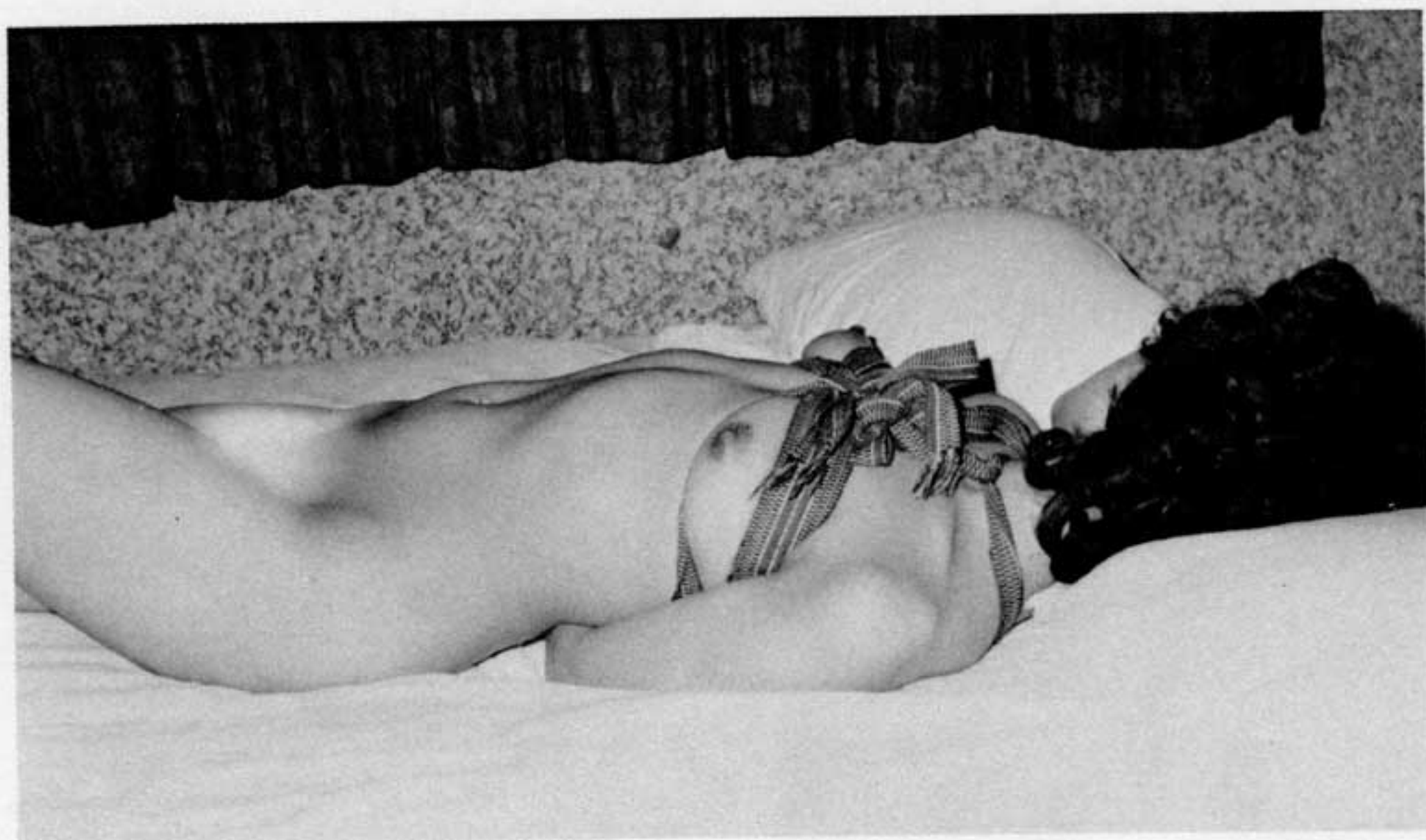




志摩紫光

愛奴





西に棲むM女

T

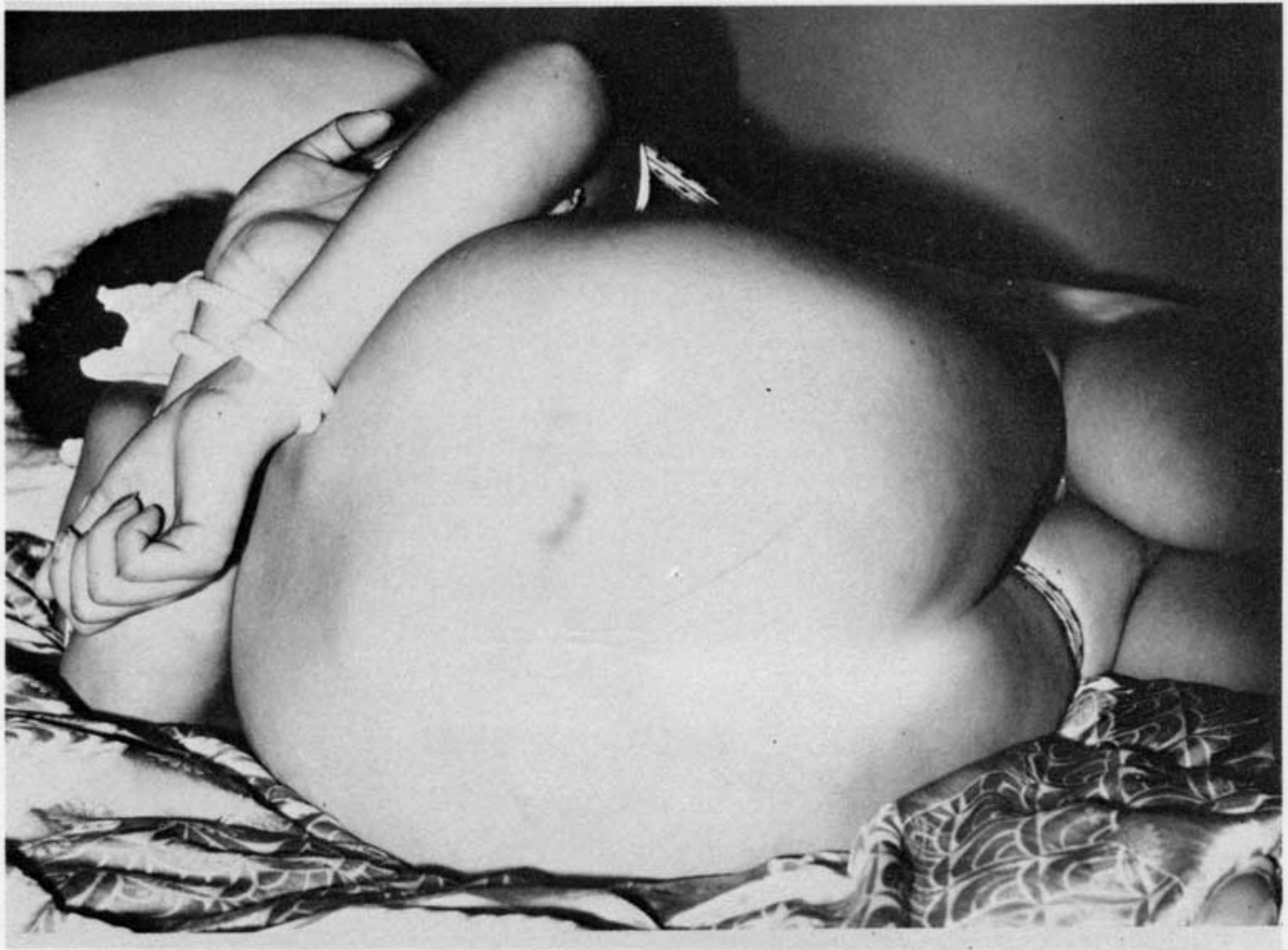
PART

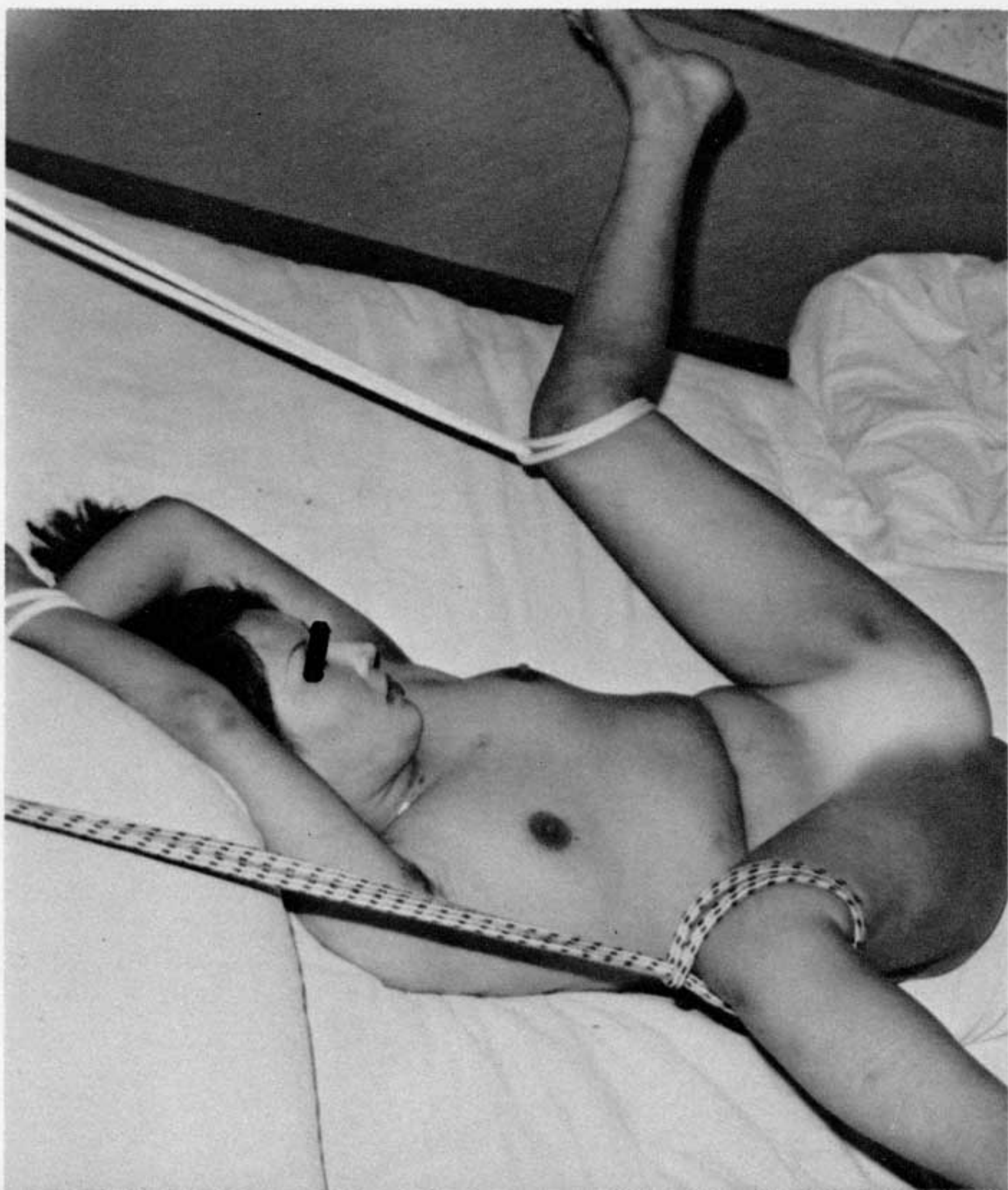
2





葉村繁樹 涉猟アルバム①





YY生 提供
特訓序奏



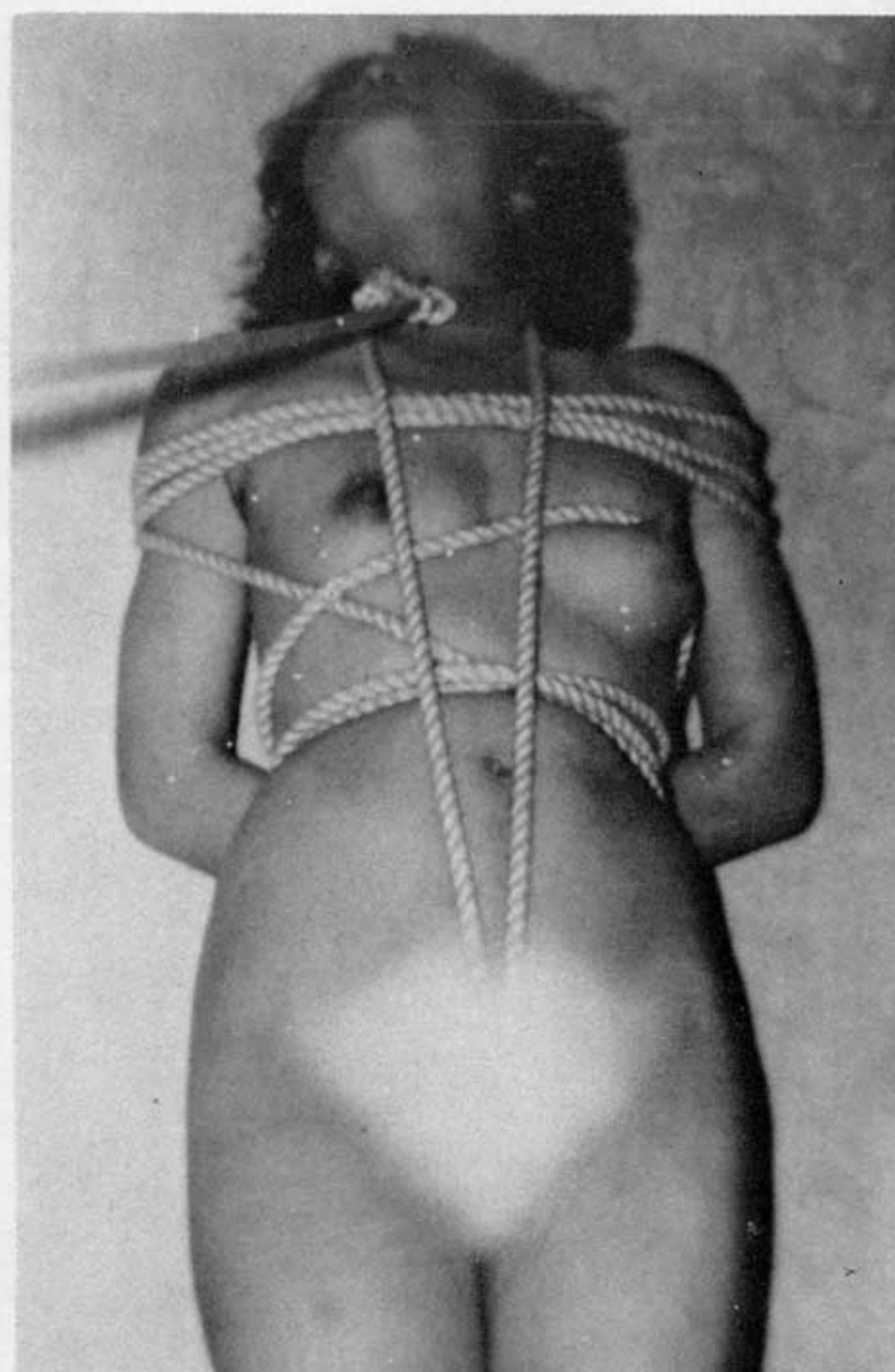


読者投稿フォト

一の瀬莊志

提供





スクランブル

|| 本誌特写



ロープに拒否反応を見せた彼女も
皮革拘束には応じた……これは、
本誌のスクランブルによる特写で
ある。



眩い生理帯

睦月笛一郎

月経が書物に登場するのは極めて旧く、古事記の日本武尊の頃に既に現われる。但し、経血の手当は？ となると想像の域を出ないが、多分、垂れ流しのままだったろう。

そのために、経血は神秘であり、恐怖にも繋がり、不浄観となっていたようだ。近世まで火家とか別火とか謂って分娩は勿論、生理期間は特定の居住区で生活していた。

江戸時代末期になると、やっと木綿が出廻り商家の女達は丁字帯に布団の古綿や反古紙などを当てたようだ。しかし、貧乏人は放たらかしだったらしい。

農家では藁を打って柔らかくして局部に当てたり、植物の広葉を利用した。中米の現住民にも月経帯の使用が認められるという噂が

這入ってきた。

（原始の裸が生活をしているのに、文明人並みに生理帯を使うのだろうか？）

疑問に思っただけ調査した処、呪術的な腰紐であって生理帯ではなかった。

ナプキンの発達が生理帯の変革をうながして、ひと昔前のゴムを張ったものは全く、姿を消してしまった。余談になるが、終戦後、進駐して来た米軍から「ナプキン」の注文が製紙業者にあった。早速、数万グロスのナプキンを納入すると契約担当の女中尉が真赤になって（オウ、ノオ!!）と、喚めき立てた。

そして、自分の左手を上げて局部に当てる仕草をする。納入業者の方は意味も分らず、ポカンとした顔をして中尉を眺めると、益々

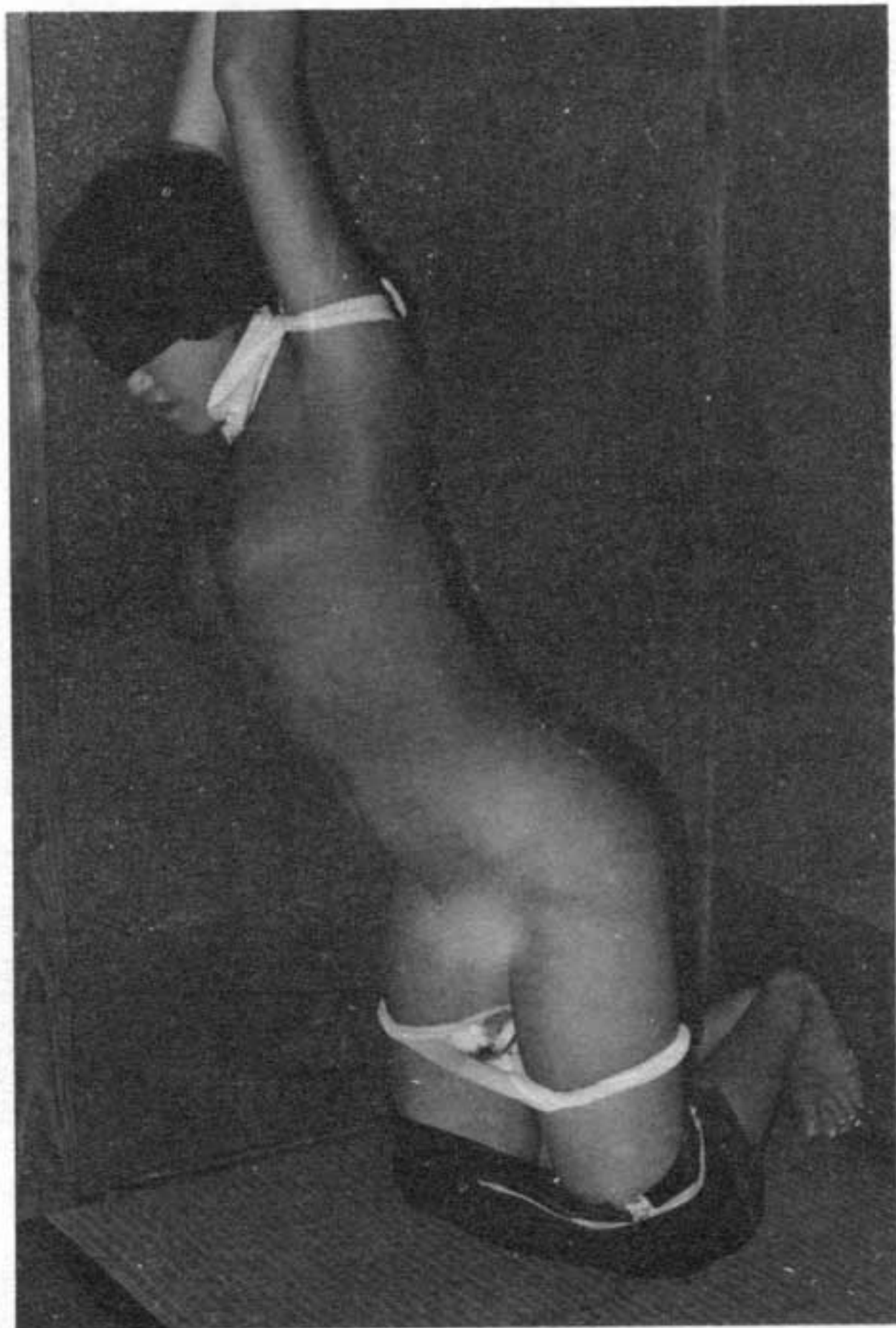
いきりたった。通訳を間に挟んでのやりとりで分ったことは、日本人が考えていたテーパーナプキンではなく、米軍のナースやワックは生理用ナプキンを使用していて、その注文だったのだ。それでも、脱脂綿しか知らない日本人は理解がゆかず、家に帰って妻に話した。

「へえ、アメリカさんも案外、吝嗇^{けち}ねえ。紙を代用するなんて」

と、妻はいう。当時、脱脂綿を節約するために下部に鼻紙を敷いたのから、連想したらしい。日本でナプキンが普及し始めたのは四十年を過ぎた頃だから、生理用品に関する限りアメリカより二十年は遅れていることになる。

しかも、ゴムを使用しない生理帯のお蔭で鼻を衝く異臭が消えたことだ。生ゴム張りの生理帯時代に電車などに乗ると、夏や雨の日などは月経がゴムの通気性の悪さのために異様な臭いを発散させていた。

女性が赤ん坊のように経血を垂れ流し、武骨な月経帯を当てた処は男性フェチストのアブ感触をそそるが反対に、湿った局部に生ゴムがびたりと密着した場合、女性と執っては地獄だろう。



プレイにとけ込めないパートナー、彼女は生理がはじまっていた……

だから、生理帯フェチは男性だけのものか
と、思っていた。処が、旧式の月経帯がたまら
なく恋しい女性がいる。古いズロース型の月
経帯は大腿部の付根を経血が洩れないように
強く緊めるのが先ず、快感を持続させるとい
う。これは女性の場合、付根の内側を子宮円
靱帯（性感帯）が走っているので納得できる。
そのうえ、経血で濡れた替ゴムがびたっと
皮膚に張り付いて、むず痒さが神経を刺激す
ると蹲踞（ふみくみ）りたい程のエキスタシイを覚えると

ひとりの主婦は述懐していた。
その女性は、いまだに黒い綿の月経帯を使
用している。替ゴムは、既に消耗しているの
でゴム問屋でゴム布を買ってきて、自分で替
えゴムを作るというフェチ振りだ。
この女性の年齢が四十五、六歳であるので
古い月経帯に対する郷愁は判るような気がす
るが、もうひとりの女性は三十前で全くゴム
を使用した月経帯など縁がない筈なのに、毎
日、ゴム張りの通気性の悪いものを穿いて通

勤している。

筆者の「何故？」という質問に対して「理
由は考えたこともない。只、穿いて行きたい
だけ」と、答えた。

この女性は病気でもないのに産婦人科の検
診台に仰臥し、両膝を上げられて支脚器に固
定されたいという性癖があるし、ゴムのオシ
メカバーフェチで筆者から、屢々ニシキのオ
シメカバー（現在、市販していない）やダン
ロップ製のオシメカバーをねだるので純粹な
生理帯フェチとは言い難い。

つい最近のことであるが全くの偶然から女
性の生理帯フェチを又、発見した。家庭販売
のセールスマンは、その家が裕福であるかど
うかは洗濯物を見よと、教えられる。いくら
外見を飾っても、日常使用しているものに本
音が現われるという意味である。

筆者も団地内を通るとき、ベランダに干さ
れている洗濯物を眺めることにしている。女
性のパンティなども昔の白一色と異って、随
分とカラフルになってきたものである。五十
を過ぎた主婦が派手なピンクやパープルなど
を使用しているのを発見したが二階の端のベ
ランダでは洗濯物の中に必ず黒いパンティが
一枚干してあった。それからは毎日、特に注



頭かくして尻かくさず……生理を口実に
プレイを拒否したM女……メッシュの
ゴムびき生理帯が傍に……

意して眺めると黒い下着はどうやら生理帯である。距離があつて判然とはしないが股部の間から黄色いゴム様のものが覗いているようだった。それから、ドアの前に立って氏名を調べたり、御当人に逢つてみたいという衝動にも駆られたりした。

しかし、機会は先方からやってきた。日曜日の午後、女性の声で電話が掛けてきたのである。

「先生が毎朝、私の家の洗濯物を眺めて歩い

て行かれるのを承知していますが真中に干してある生理帯に興味がありますか」

筆者が肯定すると、電話の女性は少女時代に使用したゴム張りの月経帯が忘れられず自分で各種の型のバンドを作つて、毎日穿いているとのことだった。更に重要なことは、毎朝、洗つて干した月経帯を好奇の眼で眺める男性がいると想像しただけで性の昂奮があつたと、いった。

生理帯今昔

受胎能力の証明である初潮をみると、女性には誰でもが生理帯のお世話にならねばならない。戦前の初潮平均は十三・六歳であつたものが最近は一十一歳。九歳から生理帯を使用する早熟児もいるというから、愕かされる。

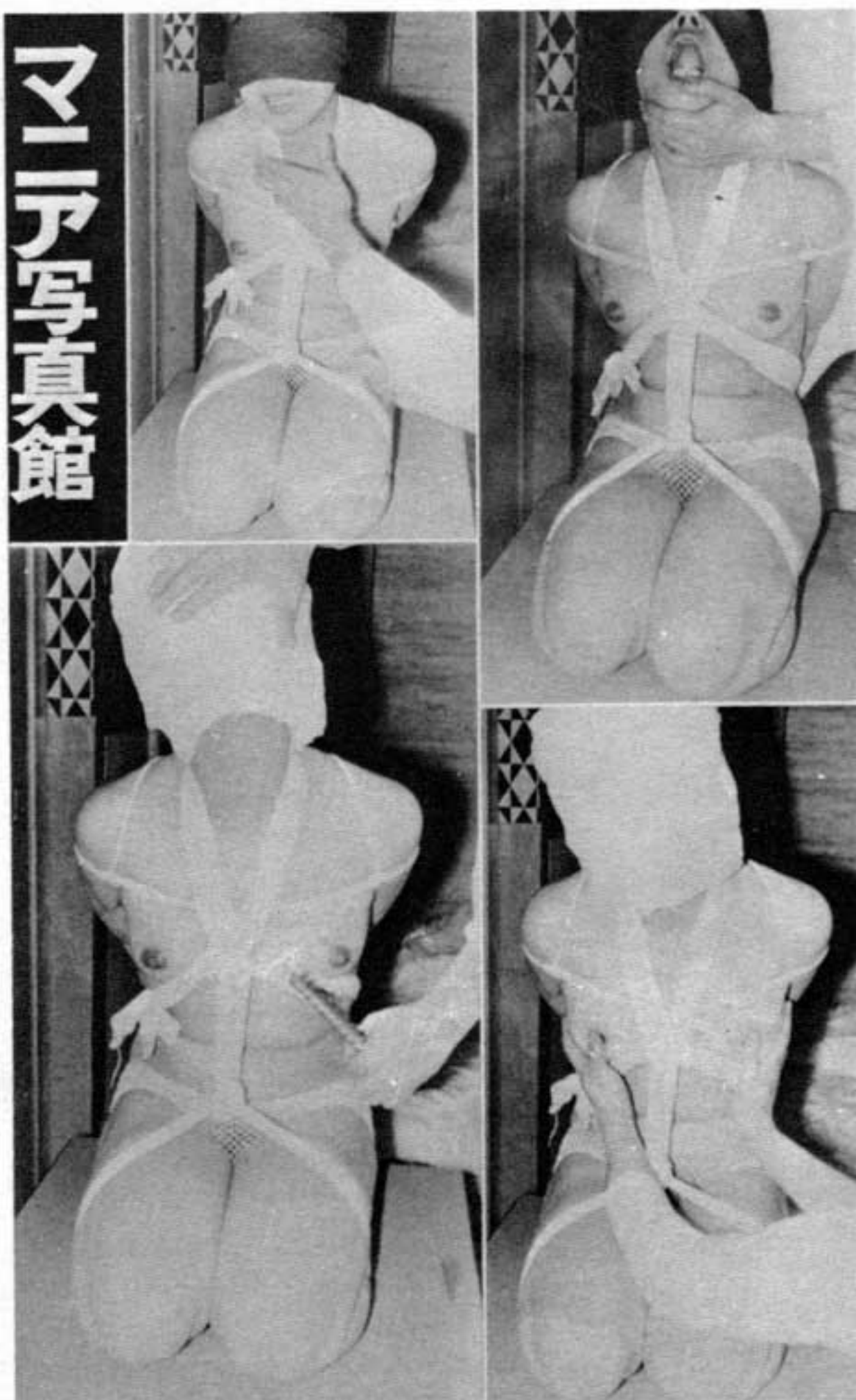
月経周期は二十八日型が標準で期間も三〜四日が多数で、中には一週間に及ぶ女性もある。例外では、イタリアの主婦で双角双経子宮の持主は月に二回、月経があつた。

世間には、生理帯フェチが案外多い。フェチ度の進行も、パンティから生理帯へと謂うのではなく、最初から生理帯に渴仰を懷しむのは不思議な現象である。

その生理帯フェチは例外なく、オシメカバーフェチに変貌してゆく。生理帯フェチになる最初の緒口は、風呂場の金具や便所脇の垣根などに蔭干しされた母親や姉妹の生理帯を偶然に見つけて以来、病みつきになったというフェチが多い。処が、生理帯フェチは年配者が殆どで若い人は極端に少ない。居つても女性願望者が多少、蒐集する程度だ。

これは、以前の生理帯と違って外見内容と

マニア写真館



75年4月号SMセレクト誌に掲載されたアンネパネット着用のM女……プレイマニアにとっては「生理」は忌避の理由とはならないのであろう……珍しいフォト集である。

もに普通のパンティと殆ど変りがなくなったのが原因のようだ。当時は月経帯と謂って、生理帯に変わって来たのは昭和三十年代の後半になってからのことだ。

日本に生理帯が輸入されたのは大正初期のようで、海峡植民地で製造されたものを持ち込んだり、神戸のゴム製造業者が模作した。そのため、メンゼスバンドを直訳して月経帯と称した。

初期の月経帯はベルト式でボタンやホック

でゴム膜を執けたり、丁字帯の底部にゴム膜を貼った極めて簡単なものだった。大正末期には数十種の月経帯が市販され、昭和に入るとフレンドバンドやビクトリアバンドなどの在来品に加えて婦人世界や主婦之友に広告を載せるようになった。

ビクトリア月経帯は普及型綿極上キャラコ製、局部前面ボタン開閉自在、腰部は巾広ゴムを片側にてボタン留め、着脱簡易。ズロー型は綿高級トリコット製、前開きボタン付

局部開閉自在、胴廻りピッタリのダブルゴム式と紹介されている。

また、フレンドバンドは（飛んでも跳ねても安全第一）の惹句と特許二重ゴム式を売物にして、一号は高級メルトン地製、純良ゴム製、取替ゴム付、罐入、一円三十銭。二号はポプリン地製、一円。三号は改良純白フランネル地製で七十銭。純ゴムを使用したせいはいずれもブリキ罐入りになっていた。

このほか、毛糸地のセピヤバンド、米国式

ズロース型月経帯シーズンバンドなどがあつたが知識層の占有品で庶民は丁字帯を愛用していたようだ。

医事資料を見ると、生理帯を製作販売していた会社は昭和三十年の四百社二千数百種を頂点に現在の三十社八十種に激減してしまつた。これでは、最近の若いフェチストならずとも生理帯愛好者は生理帯の種類と反比例して、激減するのも無理かわぬ話だ。

筆者の友人で精密機械の輸出入商であるA氏がいる。A氏は戦後、自動車の部品商の一員から刻苦して成功。道楽は一切やらぬ真面目な男だが何の因果か、若い頃から月経帯に取り憑かれ、蒐集に浮身をやつてきた。

結婚してから、夫人が生理になると仰臥させて経血を拭い、脱脂綿を花芯に当てがい月経帯を穿かせるのが常だった。勿論、使用後の月経帯の洗濯も夫人にはさせず、乾燥させたゴムにパウダーを打つのも氏の愉しい仕事だった。

最初、夫人は死にたい程の羞しさと屈辱にさいなまれ、随分と抵抗したのだが根負けをして、A氏の為すがままに三十年が過ぎてしまったという。

A氏の場合、現在の生理帯には全く興味が

なく、月経帯はゴム底・替ゴム付でなければならぬ。日本から所謂、月経帯が姿を消してから取引先の東南ア諸国で旧式に属するゴム張りの生理帯を求めて来ることにしているということだった。

また、医師であるD氏は大学生時代、所蔵している月経帯の中から数枚を画鋏で留めて暫くの間、眺めては疲れをいやした。

「何故？ て、理由はない。こんな詰らぬものを買ってと反省するけど、薬局の前を通ると衝動的に吸い込まれてしまう。」

D氏は同棲していた女性が生理になると、下半身を剥き出しにさせ赤黒い筋が黯い洞穴から滴って内腿を伝わるのを痴呆的に眺める病癖があつた。

生理帯フェチとしてのA氏、D氏は例外的で殆どのマニアは自分で穿いて密めやかな愉悦を得る。それも多様で経血で汚れたバンドしか使用しないもの、生乾きの生理帯を好むもの、女性と同じようにパットを併用するものなどがある。

嘶は脇に通れるが、昭和初期の主婦之友などには和装時の粗相を防ぐために、マモリエプロンと称するお尻を覆う程度の大きさの生ゴムがあつた。生理帯にゴムを使用している

時はムレて、酷暑に満員電車などに乗ると異様な臭いが鼻を衝いて誰が生理帯なのか、直ぐ判った。

生理帯ではないが産褥バンドと称するものがあつて、分娩後の出血、悪露の洩れるのを防ぐために前開き式、ゴム曳きになっている。産褥バンドも以前は黒色木綿地で生ゴムが張ってあつた。前面もボタンで着脱可能だったが現在ではマジックテープ式でゴム地。色は白、水色、ピンクの三種で一着五百三十円。購入希望者は大印本舗へ注文するか、池袋西武のマタニティコーナーで求めればよい。大味だが？ 前開き式ゴム張り生理帯の代用にはなる。



夢みっづけて、今は……

川辺 征也

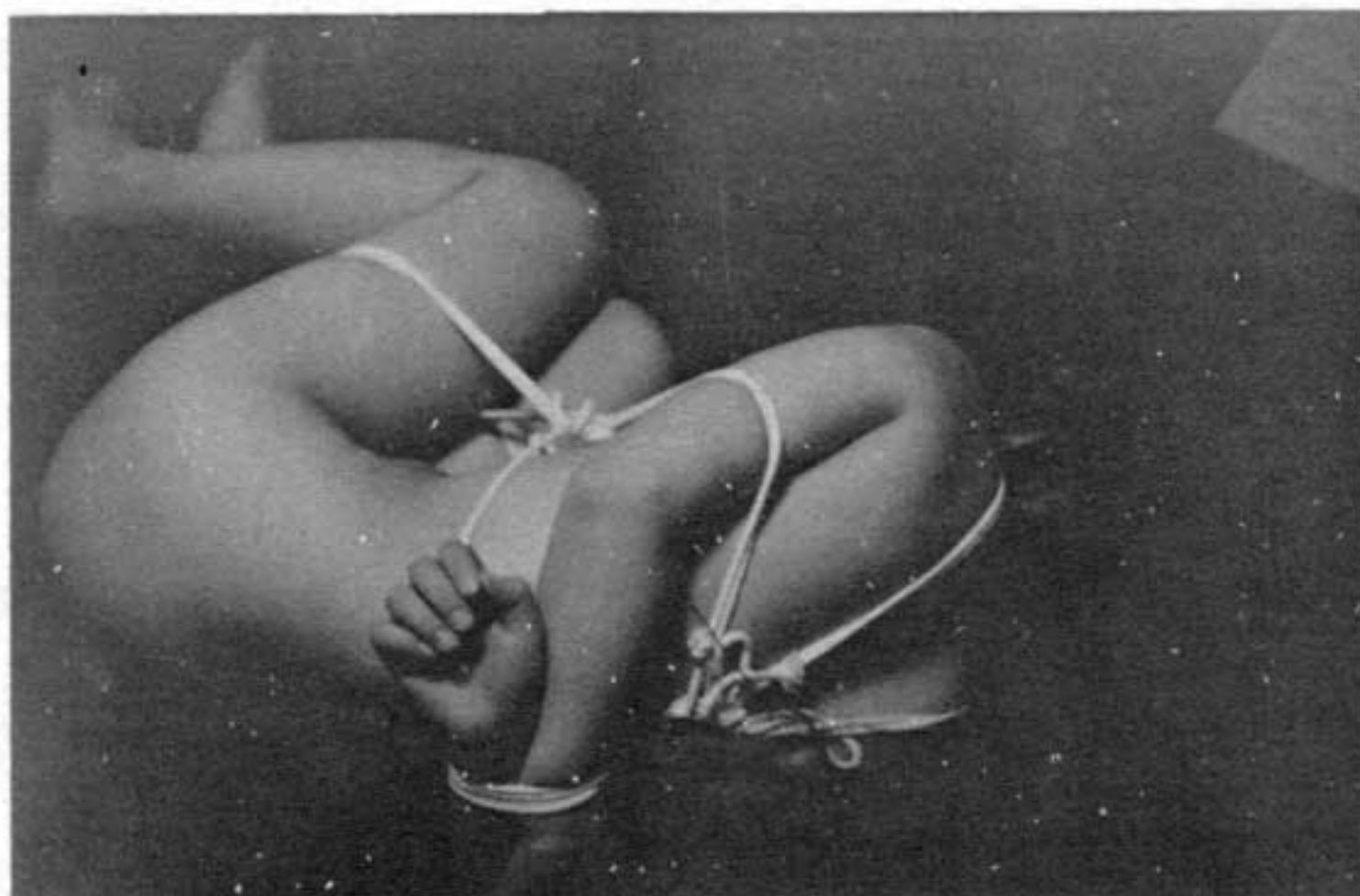
私が初めて緊縛写真に接したのは、今から十五年程も前のことです。

いつもは素通りの古本屋に立ち寄ったのがそもそものきっかけでした。古本屋独特の匂いを嗅ぎながら、おおまかにしか分類されていない本棚に並んでいる書籍の背表紙を眼で追っていた時、ふと眼を落したところにあったのが「奇譚クラブ」。その「奇ク」の題名と、白表紙の中に挿入されている写真風な絵画に興味を覚え、頁を何気なくめくった途端に、眼に飛びこんできたのが全裸の女性の縛られている写真でした。

一瞬、私の頭から足元にかけて電気が走ったようなショックで体の機能がすべて停止したかのような錯覚に陥入って、「奇ク」を開いて持ったままでした。

時間にしてみれば、ほんの数秒間でしかなかったでしょうが、その棒立ちになっていた時間はずいぶん長かったように思い出されるのです。その時目撃した写真に写っていたのが「大塚啓子」というモデルの緊縛姿だったのです。

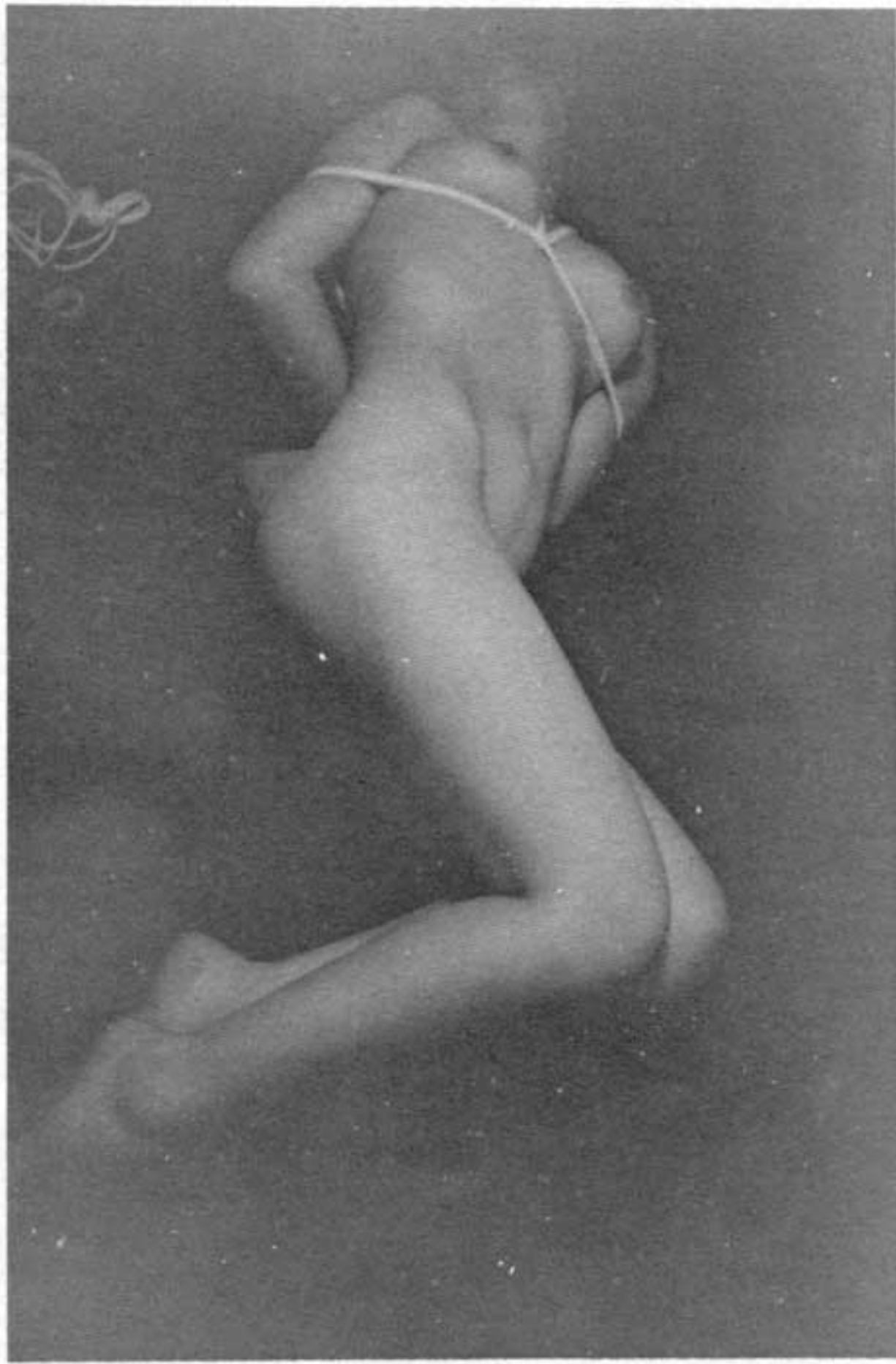
どちらかという豊満気味な体で、色の白い肌に喰い込んでいる黒い縄と、その縄に上下を挟まれて突き出し気味にされていた乳房が奇妙なコントラストを描いていたのを、今でもはっきりと覚えています。また、同じ号の中であつたかどうかまでは記憶にありませんが、同じモデルが立ち姿で縛られ、身につけている物は縄とパンティだけで、全裸に近い



い姿で晒されているそのパンティに、釣り鉤がつけられ、更におもしろ金がついているために、次第次第にパンティがずり落ちてくる仕組みを撮った写真で、彼女が必死に身をよじってそれを防ごうとする姿が妖しく表現されていたものなどに出会ったことも忘れることが出来ずにいます。

以来、縄の持つ魔力と、全裸の女性を縛り上げる楽しみに加えて、縄られた女性が一樣にかもしだす不思議な雰囲気の魅力を感じ、幸いに獲得確保した女性とプレイを続けている私です。

前置きが長くなってしまいましたが、同封の写真が私の現在のM女知恵子（二十四才）とのプレイ中に記録したものです。（編集室注



—本誌三号「読者投稿フォト」も参照—

身長一米五十五糎と割に小柄ですが、裸にすると無駄のない良くしまった身体をしており、乳房も張っていますし、足首もしまっています。M女としては理想的な肉体をしている方だと思っています。

手前味噌になりますが、どういうわけか私を慕ってくる素振りが見えだしたのは約二年前でした。彼女の方で職場恋愛の気運をたかめていたといえます。その証左に、仲間と連

れだってコンパに飲みに行った時も格別誘いはしなかったのに一団の中におり、その帰りには殊更私と二人きりになるよう同じ方向に足を揃えるのでした。

やがて仲間は散りじりになり、彼女の思い通り二人きりになったとき、突然

「私をあげる。自由にしてい……」

と、手を握ってきたのでした。

既にその時には私は意中の人があり、予期しない彼女の言動に面喰って

「冗談はやめて帰ろう。送って行くよ」

と、体かわしする平静を装った言葉で諫めたつもりなのですが、却って激情をたきつけることになったのか、

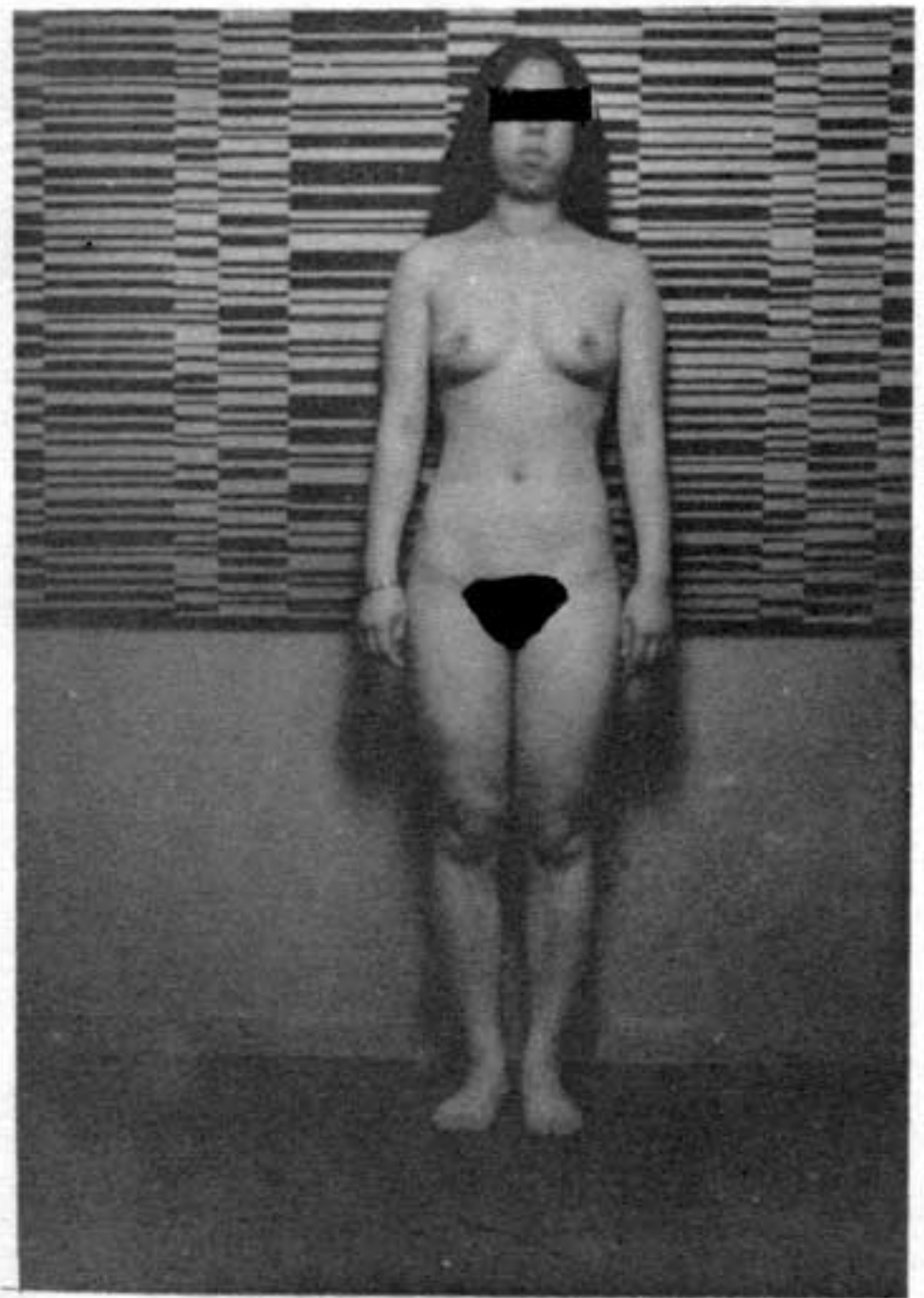
「イヤッ、もらってくれらるまで帰らない」

と、今度は私の腕を掴んでくる始末でした。

こんなやりとりを人気の余りない路上で数回繰返えした後でも翻意の様子が見えないために、もて余し気味と裏腹にM女化野心が湧いていたものですから、ものは試しと彼女の耳元に

「これから云う『三つのこと』に服従すればもらってやるが、ひとつでもできなければあきらめるんだぞ」

と云いきかせました。彼女は、



知恵子のプロポーション
正面と側面

「何でも聞くわ」
の返事でした。

夜の十時半頃でした。私たちは国電S駅の近くの旅館に向い、腕を組みながら歩いている間中、私は（困らせてやれば、あきらめるだろう。言うことを聞けばテストに合格したことになる……M女として飼育できる）と考へ期待をつのらせていたのです。

満室のためとはいえ、目指した旅館で門前払いをくうといやな気分になるものです。ですが彼女は黙ってついて来ます。それだけでも熱心があるようでした。

（やれやれ、初めから此処に来ればよかった

……）と、ホツとしたような気持ちで旅館の部屋に落着いた私は、自分だけ椅子に腰をおろし、

「なんでも言うことがきけるんだな」

と威圧的に念をおしました。

「ハイ」

「俺の目の前で、服を全部脱げ。それがひとつ目」

乱暴な口調をわざとつくり、一呼吸おいて「できないだろう。サア、帰ろう」

と元の普段接している時のような優しい口調に戻って言うと、急に彼女は唇を一文字にして服を脱ぎだしました。

上着を取り、セーターを脱ぎ、ブラウスの段になると手が止まりました。

「やはり無理だろう。やめて帰ろう」

その私の言葉が引き金になったのか、又しても急にブラウスのボタンを外し出します。そのままランジェリーまでパンティを残してほとんど一気に自分の体から取除いて行きました。

でも、それまで俯向きながらでしたが、

「これも脱ぐから消して……」

と天井の電球を見上げて云い出した願いも、「ダメだ」

の一言で、観念しました。俊巡はしましたが

やがて「ひとつ目」の命令を全部果したので
す。

ブラジャーのホックを外しにかかった時に
正面から見ていると、一瞬、後手縛りの姿に
映ったのは、私の中にM女としての知恵子が
既に出来あがりつつあったからでしょう。

ともあれ、丸く突き出た乳房、さほど濃く
もない下腹部を私の前に晒して、次ぎの命令



を待っている姿になりました。

私は知恵子をそのままにしておき、自分の
服を脱ぎ浴衣に着替えました。煙草を吸うの
にしてもじっくり味わうような吸い方です。
吐き出す紫煙の彼方に全裸の知恵子が佇んで
いる光景は、良い体つきをしていると確めた
後だけに落着いた征服者の風格と、怖々しい
伺候者の対比を描き出していたに違いありま



せん。

「では、ふたつ。知恵子は今から俺の奴隷に
なるんだ。俺の前では常に裸でいること。な
にひとつ付けては駄目だ。わかったか」

の声にも「ハイ」と頷き、私は同伴者用の浴衣
の帯紐をとって一段と乳房が盛り上がるよう
にした残りで両手首を後手に縛り上げたので

す。裸になって縛られることが、慣例になるデ
ートを拒否しない奴隷の身になることの理解
はそれでついたのです。

乳房を揉みしごくようにした後で、

「これでお前は俺の奴隷になったのがわかる
な。さあ、ひざまずけ。眼を開けたままで知
恵子の前にあるものを口にくわえるのだ。そ
れが三つ目の命令だ」

と、自分でも不思議な位落ち着いて言えたの
は、ここまでくれば、M女としての素質は充
分あると考えられたからでしょう。事実、知
恵子は言われるままに口にくわえ、「舌を使っ
てきれいにするんだ」の頭ごなしにも従順で
した。

これは彼女のワナなのかもしれない。男性
争奪を目論んでいて、私の意中におく女性を
知り、拍車がかかった姿なのかもしれない……
……という意識は口舌奉仕を続けさせている間



79頁の二枚と上の写真は同一姿勢
で持続耐久のトレーニングを示す

り、M女の
成長にも目
ざましいも
のがあるの
です。

なるべく
写真を撮っ
て記録に残
そうとは思
いますが、
いつもは大
胆な姿を晒

に思ったことですが、
「知恵子はもう俺のものだ。絶対ついてくる
んだ。わかったね」
と抱きあげながら言った私は、M女（奴隷）
を獲得した満足と、飼育することの意地でみ
なぎっていました。

縛ったままの知恵子を抱擁からSEXへ移
行し、手荒な愛撫を加える最中に拒否反応が
でるかどうかが確認することを兼ねたのも、M
女境遇に甘んじさせておくことが出来るかど
うか判別するためのものでした。

以来、月に二三度、同じ勤めの中にいても
合図一つでSMプレイが続けられるようにな

しながら責められるのを喜ぶ知恵子ですが、
写真を撮るとなると、開股での責め光景は抵
抗して写させようとはしません。まだまだM
化調教が完全だといえないことなのかもしれ
ません。

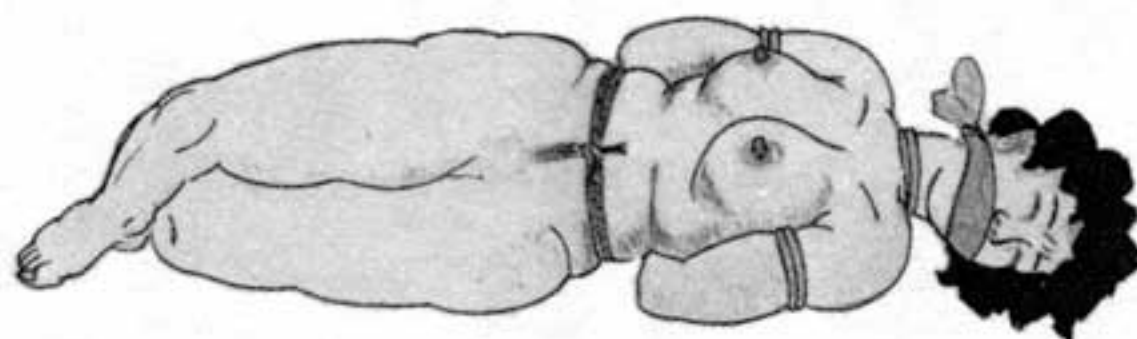
今後は一段と「特訓」して、同好の先輩諸
兄に伍して行けるだけの成長をご覧に入れた
と思います。どうかよろしく御教導下さい。
文通とか資料交換もこの誌面をおかりして
お願い致しておきます。

筆者の明確な連絡先をお知らせください。
お待ちしております。

—編集室—

投稿について

SMについての実体験、レポート、手記など
のほかにフェチズムや今日の性風俗を広く
考える情報、ご意見などもお寄せください。
また公刊誌として掲載可能なサシエやカット
も歓迎します。



縄と革の美

稲山民夫

右の表題の下にSM美の考察をなさんとするも、もとより厳密な概念規定より論ぜんとするのでなく、内なる個人の美的体験を反省し眺めてそれを大雑把に纏め略述せんとするものである。小生浅学甚しく縄と革の美の異なりについて論ぜられたものを未だ知らず、従ってこの一文もその範囲を出ないものである事を了解せられたい。

ここに言う縄と革とは勿論責具であるが、小生にとっては全然その美が異なっている。

先ず縄とは物を固定する単なる道具に非ざることは無論、ここではこの道具に吾人の生と愛との霊が吹き込まれているのであり、それは生きた一つの呪物であり、そして兎に角、縄は日本のエロチシズムの主的象徴なのである。縄は土、植物、水、木、竹等の日本風土の総体を表すのだが、就中縄がその代表となるのはそれが責具として一等基本である緊縛の役をなすからである。つまり日本的SM美は緊縛が基本であり、最終のものである。

縄には元々戒む、法度、無涯等の意味があり、悪を縛り戒め世を正すを言うのであろうが、これは動に対して静の生命を言うのである。縄の材料が無加工な枯れた植物に過ぎぬのを思えばその静と清浄さが領けようし、縄を作るのに必要なのは人間の手と汗のみなのである。革や金属の様に血とナイフと油と加工とを必要にはしない。而して縄が無涯であると言うのは植物を継ぎ絡ませ行くも限り無く、つまりそれは縄が本来的に無涯の生命を有するものだからである。静を強制する縛りは生と死と言う絶対的強制への復帰なのであり、自我の放棄である。つまり緊縛された縄の両端は単なる切れ端などでなく、究極にその両端は一体なのであり、縄は円相——宇宙の姿であり、畢竟縛された肉体と心とは一つの曼陀羅だったのである。

SMを単に好色の対象としてしか行為せずその宗教性、普遍性を自覚せぬのでは決してSM行為の奥義に適う筈はなく、それは結局一時の流行のお追従に過ぎないとも言える。生と愛とは互いにあざない作られる縄の如く不離な吾人の限界なのであり、縄には吾人の生死の怨念の一切が叩き込まれているのである。

次いでに言うのと静なる繩は定住と変化の少ない働動を強いらる農耕民族の間にこそ生まれたのであり、従ってその材料は藁が一番良いのである。藁繩は水分の含み具合一つでも緊縛に非常に微妙な変化をもたらす事は周知の如くである。伊藤晴雨はこの事を一等良く知っていたのであり、取りも直さずそれは晴雨自身がその肉体風土に誠実であり深く自覚していたからではなからうか。中には細太の藁繩はあっても余りに土着性が強烈すぎると言う人士もあるかも知れぬが、周知の様に藁繩は古くから用便後の尻拭きにも使用されて来たのであり皮膚への当たりも頗る優れているのである。

さて革責具について述べる段であるが、主観的には皮革に対して余り興味を持たず、従ってこれについて述べる情熱も薄いのだが現今の日本SM状況を見聞するにつけどうしてもこれを述べねばならない。だが初めから白状してしまえば小生には革の脂ぎった感触にもその有限的物体性にも全く意気消沈してしまわざる得ないのである。

革は西洋の狩猟民族の移動と変化を強いる

生活の中から生まれた変動性の責具であり、動物、金属、石材等と言った西洋風土のエロスの代表として皮革があるのである。革責具の哲理は前の繩と対照的なので自と明らかであるが、兎に角、皮革は西洋人のあの豚肌にはぴったしなのだ。繩の根本が縛りであったのに対して革は鞭打、マスク、衣装等がその機能であり、被責者の固定には金属性の具が多く用いられ、従って西洋SMには緊縛と言う様式は無いと言って良いのだ。

鞭は動く対象を自由に狙い打ちすることにより対象と自己の上に変更に変化を生み出そうとするのがその狙いであり、従って被責者は完全に固定されていてはならないのだ。マスクや衣装としての効用もその人間性の否定と動物性の誇示にあり、どちらにしても皮革の魅力は結局その脂ぎった動物性とむさ苦しさにあると言える。つまり西洋のSM美は全く動的なるものなのである。革が出来るだけ遠



くへ遠くへと志向するのに比して繩は退き退くのであり、革は加工へと進み、繩は天然自然へと退歩するのである。繩が完成されているものであるのに対して革は過程にすぎぬのである。

現今では日本人の痴呆性からやたらと革、金属等の責具を用いているが、これは主体性の無い西洋への猿真似にすぎない。僭越では

あるがここに注意を促したい。革等の責めを未来に向けて試行するのも無駄とは言えないが、自己の風土を自覚した上で吾人の手を下した後でなかったら、それ等をやたら使用しても何の感興も湧かないのは自明の理である。美しい被責者をやたら滑稽にしてみらいたくないものである。要は己に誠実であり自由でなければならぬのであり、又それがエロス

の生命の筈だ。よくよく「他^ハ是^レ不^レ吾^ニアラ^ル」の金言を忘れてはならない。

「繩」「皮革」の素材の違いを拘束した時の状態で、美としてとらえるか、行為実益の手段で考察するか……この小論には種々読者の判断が示されるものと期待します。ただ「日本人の痴呆性云々」と断じておられるのは、実践を伴わない方の嗜好と極つてであると考えられ、現代の人間の遊戯願望には洋の東西の差異がないことを附記しておきます。

世田

——参考写真二点は六本木薫氏の作品——



美しきものの 隷従教育

志摩紫光

私と美枝子の関係は会社に勤める者同志であり、強いていえば私の机の斜め前に座っていた同じセクシヨンの女性であっただけである。もちろん、仕事上の話しの他に冗談のひとつとも言ひ合うことはあったが、特別な感情を抱いていた訳でもない。それが一夜の出来事を境に美枝子との間柄は大きく変化していった。無論、会社の同僚はそんなことがあった

などと知る由もない上、二人とも何気ない顔で出勤し、仕事も普通にしていたのだから気付け、という方が無理かもしれない。ただ香りに敏感な人間がいたのならば私の体から美枝子の香りがしていたのを感じとっていたであろうことは想像がつく。幸い、そこまで目覚めるとい人間はいなかったようだ。

その日一日、私は美枝子をどのように調教





していくかを計画立てていた。一晚の出来事とはいえ、美枝子にとっては初めての体験であり、終始後手に縛られたままで電灯のついた旅館の部屋で男の命ぜられることをひとつひとつを全身を使って実行させられたのだから、第二回目以降については拒否される可能性もまったく無いとはいいたい。また、私に抱いていたイメージとは、まるで違っていた。

た面を何の予告もなく、いきなり見せつけられたのだから、感情に変化があらわれることも考えられたことから、一日おいて翌日に会う約束を会社から帰る仕度をする為に更衣室へ行こうとした美枝子にさせた。

美枝子はコックリとうなずき、小声で「愛してます」と告げると小走りに更衣室へと消えていった。「愛してます」の一言は心配や懸

念を一掃するにふさわしい言葉だった。この言葉に私は自信を深め、家へ戻り、久しく使う機会のなかった綿の黒ロープを押入れの片隅に置いてある責道具箱から取り出し、通勤に使っている書類入れの下に忍ばせた。この黒いロープは七mの長さがあり、細身の丸いロープは手に触わる感じも良く、柔らかく私の一番好きなロープである。

私をこの世界に引き入れた「奇ク」の写真の中にも、黒いロープを駆使して縛り上げた女体が数多く写し出されており、白い裸身に黒い縄のコントラストがひととき鮮やかだったことを思い出す。その魅力に誘われるように私も愛用していたのである。

その当日、同僚に気取られない様に別々に退社した美枝子と私は新宿の喫茶店で待ち合わせをする事で了解していた。時間は午後六時半ジャスト。私が目的の喫茶店に着いたのは六時二十五分だったが、美枝子はまだ着いていなかった。そして約束の六時半を二分程過ぎて美枝子があらわれた。「ごめんなさい電車がドア故障で止まっていたので遅れちゃったの」の言葉を庶切るように「お前は約束も守れない女なのか！ 言い訳をいうな」と一喝。「約束を破った以上はお仕置きをしなくて



はいけないな」と言葉を続けた。「でも、電車が……」「約束は約束だ、破るために約束はあるんじゃない!」「……ハイ」に「まずトイレへ行つてパンティを脱いでくるんだ早く行つてこい」と自分でも不思議な位、スムーズに言葉が出た。

しばらくはためらっていたが、思い切ったように席を立ちトイレへ消えて行つた。そのとき的美枝子は白い花柄のブラウスに黄色のミニスカートのパンプスを履いており、正面に座り、足を心持ち開けば、パンティが見えてしまう挑発的といえはいる服装だった。そのパンティを脱げば必然的に私の前で座つたときには花芯を見せることになるのを、叱りながら計算したからにはかならない。

トイレから出てきた美枝子を私の前の椅子へ座らせ、抱えていったハンドバッグを「見せろ」と半ば強引に引つた。私は、中に小さく折りたたんであったパンティを取り出し、私の背広のポケットへ押し込んだ。「あつ、それは、返して」の声を無視して、まだ一口も飲んでいないコーヒーをそのままに、美枝子を急ぎ立てて、その喫茶店を出た。

そのまま喫茶店にしばらく居て、美枝子を恥ずかしめていても良かったが、ミニスカ

トのままの美枝子を連れて新宿の街中を時々美枝子の花芯に触れてみるのも一興と思つたことと、下半身、ミニスカートだけで街中を歩かせられる美枝子の「とまどい」と「恥じらい」を感じとる方が心理的な責めになると考えたからである。案の条、ビルの谷間に舞う風の勢いや方向に氣をとられ、足が遅くなりがちになり、組んでいる腕をスカートの脇に置き、手のひらを広げて、上から押さえながら歩き、顔を上げようとしない美枝子の姿は必死に耐えている女を十分感じ取れた。そんな美枝子を横に置きながら、人通りの隙を狙つてはミニスカートをたくし上げてみたり暗がりに入つては花芯に指を入れてみるなどの痴態を楽しんでは美枝子の反応を観察してM女としての調教にはいつていった。もちろん一時的な拒否はしても拒絶ではなかったことはいふまでもない。

途中、食事をして旅館にはいつたのが十時頃。ホテルにしないで旅館を選んだのは美枝子を責める為に使う柱や鴨居などがあるからで、その点ホテルは柱や縄をつなぎ止めるものは無く、固定できないところが多いことから、敬遠をすることになっている。

余分な神経を使つていた為にグツタリして

いる美枝子を立たせ、有無をいわずに裸にした後、浴衣を着せた上を愛用の黒いロープを出し、縛り上げた。それでなくとも丸く張っている乳房の上下を挟むように縛られた為に乳首の周囲にまで、ふくらみが伝わったように、あくまでも円い孤を描いている。その縄尻を持ち、椅子に座らせ、浴衣の前をはだけて乳房と花芯を履う茂みが目の前にさらけ出されるようにしてから目隠しをし、美枝子からは私が何をしようとし、何をし、どこから見ているのかわからぬようにした。これも不安からくる心理的な責めのひとつになるようだ。事実、どこをさわられても、その度ごとに、ビクン、ビクンとしているのが伝わってくる。

最初に私のモノを口に含ませて、私への忠誠を確認した後、乳首をやわらかく揉み、乳首が硬直した時に親指と人差指で挟み、力を加えてひねり上げる。それも左右の乳首両方を上へ、下へ、左へ、右へ、とである。乳首の動きに連れて乳房も変形してくるのもわかるが、同時に下腹部や大腿部の筋肉がビクッビクッとし、痛さを全身でこらえているのが手に取るようにわかる。次に平手で乳房への往復ビンタである。若くて張りのある乳房へ

のビンタをする音はビシッビシッと音も高く見る見る朱を浴びたようになってくるのをながめながら「さあ、もう一度口にくわえて、忠誠を誓うんだ」というと「ハハイ」と息をはずませ、口を開き、くわえる姿は見えていても満足感を覚える。

「舌を使って周囲を舐めるんだ。もっと口全体を使え、そう齒を当てずにだ」の命令に合わせ、見えぬ目でさぐるように首から上を必死で動かしているのを見定めながら、わざと腰を引いたり、右へ、左へと移動させては口にくわえたままではいられないようにしては「何やっている、こんなことも満足にできないのか」となじっては空いている手で髪の毛を掴んで美枝子の口深く押し入れたり、頬に当てたりを繰り返す。

ときには美枝子の唾液に濡れているままのモノを上下を縄に挟まれ、張っている乳房の周りに這わせ、不意に乳首の上から押し当てては乳房の中で一番柔かい部分の感触を試してみる。乳首の周囲だけは特に敏感な部分であることを知っている私は当たらず触らずの微妙な位置で止めるなどの工夫をしては美枝子の裸身をどのようにして責めるかを考えていた。





どちらにしても椅子に縛りつけておくだけでは責め方も限られてくることから椅子から縄を解き、改めて浴衣の上から縛り直した。

どちらかというと三角形に近い形をして張り気味な美枝子の乳房は黒い綿のロープを駆使しても絞り出すように丸くは出ず、脇から

見ると縄に挟まれていないときよりは若干大きくくなっている位で肉体に縄目が埋もれてしまっている「緊縛」にならないのは残念な感じである。とはいえ、美枝子にしてみれば男の力で絞めぎみに縛られているのだから緊縛には違いないのだろう「手首だけでも縄を緩めて……」と声は哀調を含んでいる。

「それ位我慢しろ！」の声に観念したのか手首を動かす程度で縛られるままに身をよじっているにすぎない。

上半身を縛り終えた私は余っている縄を持ち、罪人を引き廻す役人よろしく部屋の中を歩きながら美枝子を小突く。「浴衣が邪魔で見えないな」といいながら、裾の方をたくし上げ、後手に縛った縄の間に入れ、美枝子の固くしまった尻が歩く度に左右にゆれるのを見ては縄尻でその尻を叩いてみた

叩かれる度に歩が乱れ、足がもつれる美枝子の姿を楽しみながら、ときには縄尻を持つたまま横になっては下腹部を見上げやすいように正面に据えてみる。

「足を開けるんだ。顔をそむけるんじゃない。そっちじゃ逆光で見えないだろう、反対側へこい」と命令口調を変えずに言う。どちらかというと硬い毛の美枝子は風呂へ入っても手

ざわりに変化がない。

膝立のままで思わず腰がくだけそうになる美枝子の乳房を掴み、片手で押し上げ、片手は秘奥深くに責めつける。

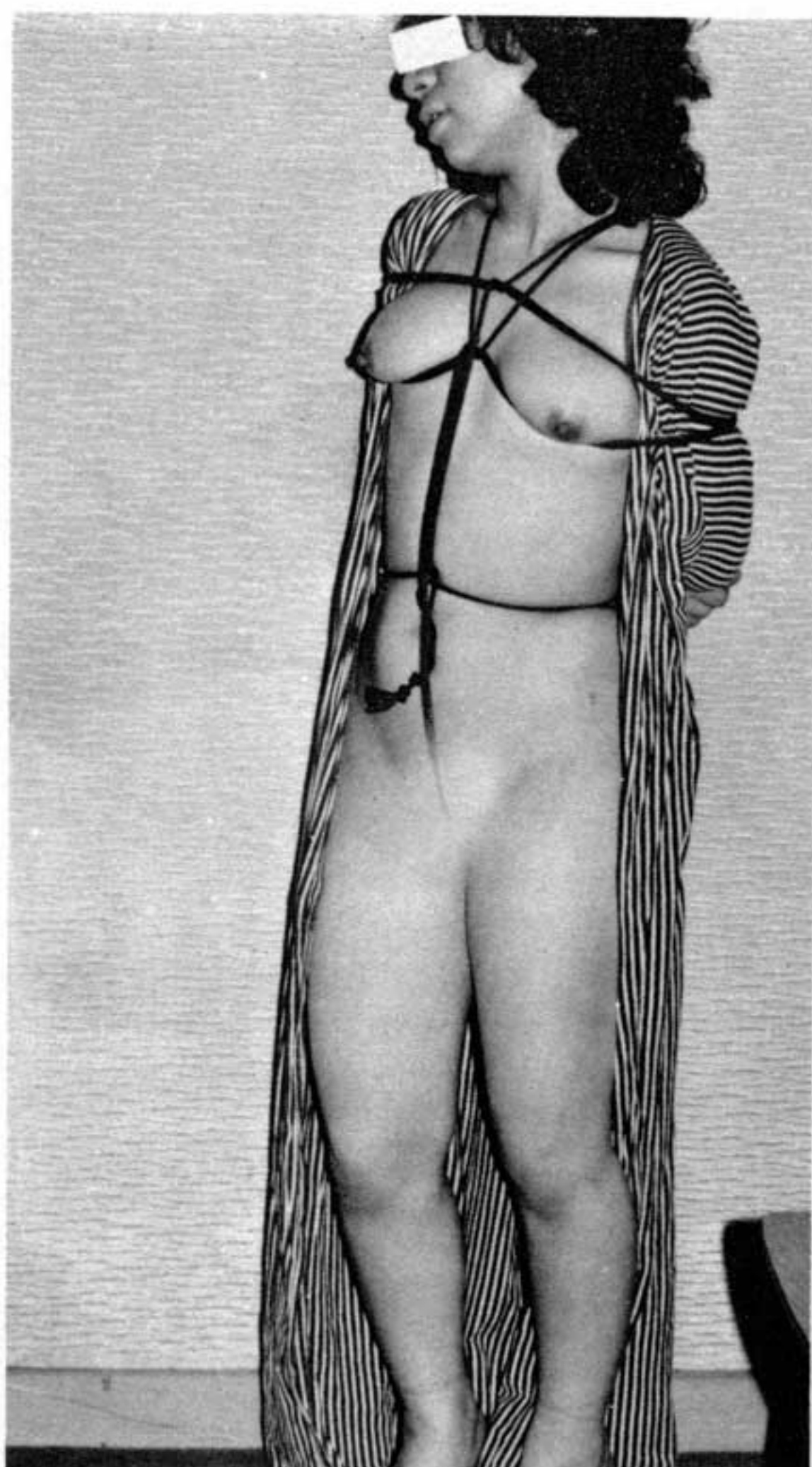
……………

絶えず動かし刺激を与えると、もうどうになってもいいといわんばかりに上半身が大揺れとなり、膝はブル、ブルとふるえ、顔は前後へと大きく動く。美枝子の体を支えている手に美枝子の体の重みを感じてきた私は乳房を掴んでいた片手を乳首へ移し、思いきりつまみ上げる。

「イタアーイ」の悲鳴に近い声と同時に、今にも倒れそうな体が一瞬、シャキンとし、責めの手が入っている箇所筋肉もしまり、その動きも制約される位なのには驚いた。

やはり競技を行なうクラブで活躍をしていただだけはあるのだな、と理解しながらも、責めながらSEXにはいる先のことを考えるとワクワクする思いである。

しばらく、そのままの姿で乳首と秘奥を責めた後にふやける位にまで濡れている美枝子を立たせ、バスへ引き立てた。



手首から先が冷たくなっている美枝子の手に血を通わせるにも風呂は効果があるので、若干、手にかかる縄をゆるめて血の流れを回復させようとしたが、思うようにならない上浴衣のこともあり、一端縄を外して浴衣を脱がせ、再度改めて縛り直した。

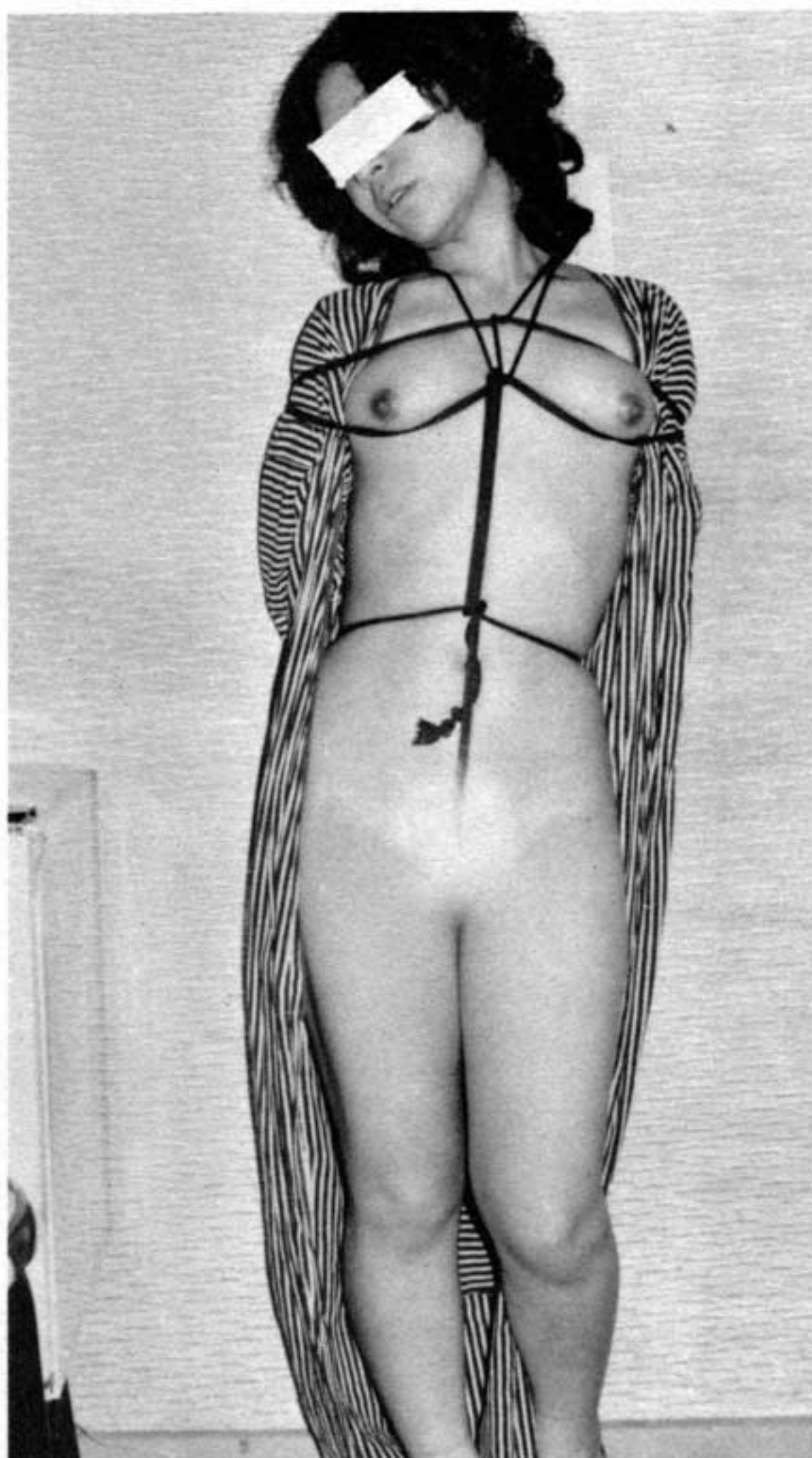
私は自分で考え出したと思っている縛り方である。まず手首を後ろに組ませると大抵、尻の上にくるようになる。手首をまず縛り、次に腰縄というのでしょうか、腰骨の下、つ

まり、英字でいうYの始まる部分、ヘソと下腹部の中間に縄をまわします。二重にまわした後から手首を縛ってある縄目を通し、右大腿部も同様に二重に縄をまわし、次いで左大腿部も同じように縛るわけですが、直接に縄を左大腿部へ持つていかずに、腰縄と後手首縛りをしてある縄目にまわしてから縛るわけです。これを正面からみると、下腹部を中心に逆三角形に近い形に縄があるわけです。

この縛り方の特長は乳房、尻、下腹部をどのようににでも責められる上、手は後ろの尻の

上で固定されているため、仰臥させると下腹部が一段と高くなり、あえて枕や、座布団を使用しなくとも手首がその代わりをするので、まともに秘奥をさらさざるを得なくなる。更にSEXにそのまま移行もできる点も見逃せない。一見、緊縛とは程遠いが、実用的な縛り方であり、縛りに手間をとることもないメリットもある。

同好の諸兄を前に蛇足な説明を加えてしまったが、美枝子をこの縛り方に変えた私はシャワーを浴び、湯舟へはいる。その間美枝子は洗いの壁へ立たせたまま正面を向かせていた。湯から出た私はタオルを美枝子の口にくわえさせ、私の体をふかせた。もちろん満足にふけるわけではないのはあたりまえ「体をふくこともできない美枝子はお仕置きをしなくてはいけないな」と笑い、美枝子の口からタオルを外すと、私の体の湯滴をふきとった後、適当に水気を含んだタオルを二つ折りにして、美枝子の乳房を交互に打ちすえた。体をかばうように前かがみになった上半身を引きおこし「足を開け！」と命令。秘奥めがけてタオルで打つ。今度は座りこんだ美枝子にシャワー責めである。シャワーの口金を外し、微湯にし、水の量を多めにしたホースの



吹き出し口を親指で押さえ、水圧が強くなるようにした後、その先を美枝子へ向けて発射する。顔、乳房、下腹部、尻、脇腹、とむやみにはなく、一ヶ所ずつ時間をかけてのシャワー責めである。さすがに顔は息がしにくくなることから執ようにはしなかったが、乳房、特に乳首と秘奥へは時間を十分にかけて、水圧の洗礼を受けさせた。

先程も書いた通り、後手首で縛ってあるだけで体は自由に動くことから、狭い浴室の中を汗をかきかき逃げまわっていた美枝子も、

二十分を越える頃から動きもにぶくなり、しまいには秘奥へシャワーホースを入れられても拒む力はなくなるほどになっていた。

文字で書いてしまえばどうということもないが、旅館へはいってから三時間半以上も立て続けに責められている美枝子は、私から見れば「良く耐えた」の一言につきる。

風呂場に横たわっている美枝子を抱え、布団の上に投げだした私は小休止である。

煙草を吸い、冷蔵庫からビールを取り出してコップに注ぎ、私の口に含んだまま美枝子

の脇に座り、口移しにビールを流しこんだ。

ゴホッゴホッと多少むせたものの、二口目三口目と口移しに流しこむときにはスムーズにいき、コップ一杯が空になる頃には美枝子も元気をとり戻してきた。

「よく耐えられたね。これで本当に俺のものだ」の声に、コックンと首を振る美枝子は本当に愛しい以外の何物でもなかった。

「まだ頑張れるかい」の問いに「あなたをくれるなら」とSEXを意味する答えが返ってきた。それに対しては何んの異存も、ためらいもないが「あなた」と呼ぶことには抵抗を感じた。美枝子と私はフィフティ・フィフティではなく、私が主人であり、王であり、大げさにいえば生殺与奪権を持つ絶対的な君主に対し、美枝子はそれに従う女奴隷であり絶対服従の女でしかないのが本当である。そう考えていた私は「お前は俺の奴隷なんだ、俺のいうことはすべて聞く約束のはず、俺を呼ぶときは『御主人様』というんだ。会社に居るときは別だが、二人だけのときは主人であり、奴隷だ」と訣別を与えた。

「はい、ご主人様」と多少おどけている美枝子だが、責められることに抵抗を感じず、比較的短期間にM的要素を多分に見せた美枝子

は今までSMプレイを演じてきたどの女性とも異質な感じである。

美枝子の家庭環境は両親共教職にあり、美枝子自身も四年制の大学を出て、教職の経験もあるインテリな上、クールな印象を周囲に与えていたことなどを考えるとどうしてもM的要素のある女とは思えない。まあ強いていえば生年月日に宿る星座が蠍座という「狙った獲物は逃さない、一撃で敵を仕止める」性格を持っていることに起因するのではないかと結論付けている。しかし、そうになると、狙われたのは私であり、私が美枝子の虜となってしまうことになる。Sの私としてははなはだ不本意であり、断じて「俺が美枝子を奴隷にした」と姿勢はくずさない。

そんなことを脳裏に浮かべると「もっと責めなければ」という思いにかられてくる。SEXはまだ後だ、とばかりに疲労の回復してきた美枝子を仰臥させた。

後ろで縛られている両手首が体を持ち上げる格好となっている。私のねらいもそこにある。

通勤用バックの中に忍ばせた万年筆を取り出した。王様のアイデアに売られているような太ペンである。握ると本モノに近い太さが

あることから充分使えることを考えていたのを実行に移そうと、愛撫しながら濡れてくるのを待った。

濡れてくるのは時間を要さなかった。濡れた部分にペンをあて、一気に責めた。

美枝子は苦しげにもだえるが「そのままにしてろ」の私の声にギコチなく口での愛撫を続けている。それを見すました私はおもむろに、なおも責めつづけた。片手で太ペンを動かし、その動きを早めてみた。何んの凸凹もないペンの周囲で刺激は少ないように思うが押しつけ気味にこすると摩擦で熱を持ち、刺激をするのだらう。しばらくすると腰を右に左にゆすり出してきた。もちろん愛液は周囲にまで及び、美枝子の香りは強烈に強まってくる。

私は体を美枝子の両足の間へ置き責めに耐えている顔を観察しながら、太ペンによる責めを続けた。

上半身をくねらせ、小さな声を上げながら縛られた後手で布団をつかんで耐えている姿は私を満足させるものだった。ときにはわざと乳首をいたぶり、アヌス責めを加えるなど

の単発的な責めにも敏感に反応する美枝子はやはりM女であることを示している。苦痛に耐えているばかりの表情でなく、あえぎながらも、痛さや刺激に対し拒む態度がまったくないことからいえる。

そんな美枝子の痴態を眼に焼きつけながら「美枝子、このままの姿で自分の口から」私はご主人様の奴隷です。これからも好きなようにして下さい」というんだ」の声に一呼吸置きながらも「私は……ご主人さま……の奴隷……です。これからも好きな……よう……にして……ください……」と誓う声はどんな名曲よりも素晴らしかった。

「よし、それではお前が欲しかったものをやるぞ」と太ペンを引き抜き、私は立ち上がった。

以来、回を重ねるごとに緊縛を中心に責め方を変えては二人の関係は続いている。私が主人で、美枝子は奴隷としてである

馬が翁塞万事人間

真徳日向小

このところ「忙しい、忙しい」と、一向にSM談義に耽ける機会すら設けてくれぬ自称エロストレーターのT氏から、珍しく電話があった。

「奥さん、寝たか」

「うん、今夜は疲れたといって十時にはねちまった」

「じゃあ、写真やってるな」と察しがいい。私は風呂場を暗室にした写真現像の、本焼きに入る前の一服をつけていた時であったし、「酢臭い匂いが伝わったか」と笑ったが、すぐ相手の気慌しさに引き込まれた。T氏は代理人となって、人と会ってこれというのである。





「明日、午後四時……東京駅八重州南口……東名高速バス乗車場前……だね。先方の目印は、ジュラルミン製のカメラバッグ。ふーむ……なんとかやってみる」

一寸したスパイもののヒーローになった気分です。受話器を置いた私は、翌土曜日の午後が

待ち遠しく思われたのはいうまでもない。

当日、朝までかかって仕上げた懸賞募集のコンクール出品作を東京中央局の窓口から出し、その足で八重州口に戻って人待ち顔で立っている、こわいかに……カメラバッグを提げた人の数の多いのに呆れ、急に不安にさられた。幸いなことに彼等は立ち止まることもなく通り過ぎて行く。それを眺めながらますます諜報部員になったような気がしていた……。

同じ楽しみがあるとはいえ、初対面ともなれば緊張がつきものだ。T氏は「代理」など思わず直接接触し友誼へ進展させて行けといってくれただけに、出たとこ勝負の気おおいもあって、相手探しは真剣そのものだった。

出会いの経緯ははぶくとして、以下、関西から上京した尾河氏とのやりとりを、記憶も新たなうちに対談風に記述しておくことにする。私より年下の尾河氏の苦慮は、多かれ少なかれ同好者が経験することだと思われるし、プレイメイトを確保したいと希う人たちにとっても、参考になればと思うからである。

（尾河氏持参のフォートを拝見した後で――

〔編集者註〕提供写真参照）

小 素晴らしいパートナーではないですか……

貴方の自慢したい気持ちが出る

尾 そういつていただけると嬉しいです。本当に素直な娘で、私のいうことは逆らいません。M素質は十分あると思います。

小 なにを基にして、M素質ありと見込んだのですか。

尾 いろいろ参考資料を見せても目をそらしませんし、サン・アンド・ムーン誌二号のマジックなんかに興味深かげに熱心に読んでました。

小 そりゃ珍しいなあ。で、プレイは。

尾 互いに勤めを持っていますから、三月に一回位がやっとな……電話ではよく話し合いますが、会いたいと言ってくれるんです。

小 会えばプレイをすることになるのに、それを承知で、ですね。貴方の誘いを待っている……それは、好意からだと思えますか、彼女自身の好奇心からだと思うのですか？

尾 好意を持っていてからだと考えられます。

小 それに対して貴方は思案投首？

尾 そうでもありません。でもジレンマは感じます。

小 貴方は妻子がある。それが一番の気懸りでしょう。

尾 今までは深刻には考えませんでした、

プレイメイトとして育てて見たいと思うようになってからは。彼女には男友達が私以外にもいるんです。でも彼と交際するより私の方と付き合いたいとはっきり言いますし……。

小 同世代の男性は、恐らく彼女に対して優柔不断でしょう。それに対し貴方はSMプレイの世界まで手引きした訳だし、決断するという男らしさを感じる。彼女の性的冒険心を満たしているといえるのではないかな。ところで貴方は、何を考えているのかな……一つはプレイメイトの自慢、二つ目にマゾ化調教の方法を知りたいこと、三つ目に考えられることは、将来を考えた時の不安からくる責任回避的なバトン・タッチ……？

尾 そう言われても即答できません。入り交っているんです。

小 迷いがあるのですね。私はね、自分に迷いがあって遊びだけで付きあっていたいと考えてるのは、けしからんと思いますよ。貴方はいい娘を見付けたと、得意になっているかもしれないし、こうやってプレイメイトの自慢は果せたわけです。その自慢にしても、単なる紹介で終るのか、日月舎だけではなく、他のSM誌にも売り込んでみたいと考えている……そのコネが欲しい程なのか、その点はど

うです。

尾 日月舎なら、モデルとして使って貰っていいと思っています。協力させます。

小 なるほど。しかし、それは彼女の希望なり了解あつてのことですか。

尾 私の言うことだったらきくでしょう。

小 貴方は彼女に命令して、マゾモデルになったことも、よくやったという反面、俺の言うことをきけるマゾになったと内心得意になつてみたい訳ですか。確かめてみたいんですね、彼女の従順さを。

尾 いろいろ体験させてみたいんです。それがホンモノのマゾに育つことに役立つと思うのです。

小 しかし、体験を積み重ねて、彼女のマゾ性ばかりを伸ばしても、その後のことを熟慮しておかなければ無責任だといわれても仕方がないことになりますよ。パートナー発掘をそのかしていた奇譚クラブの悪影響を受けているようにしか私は思われないんですがね。

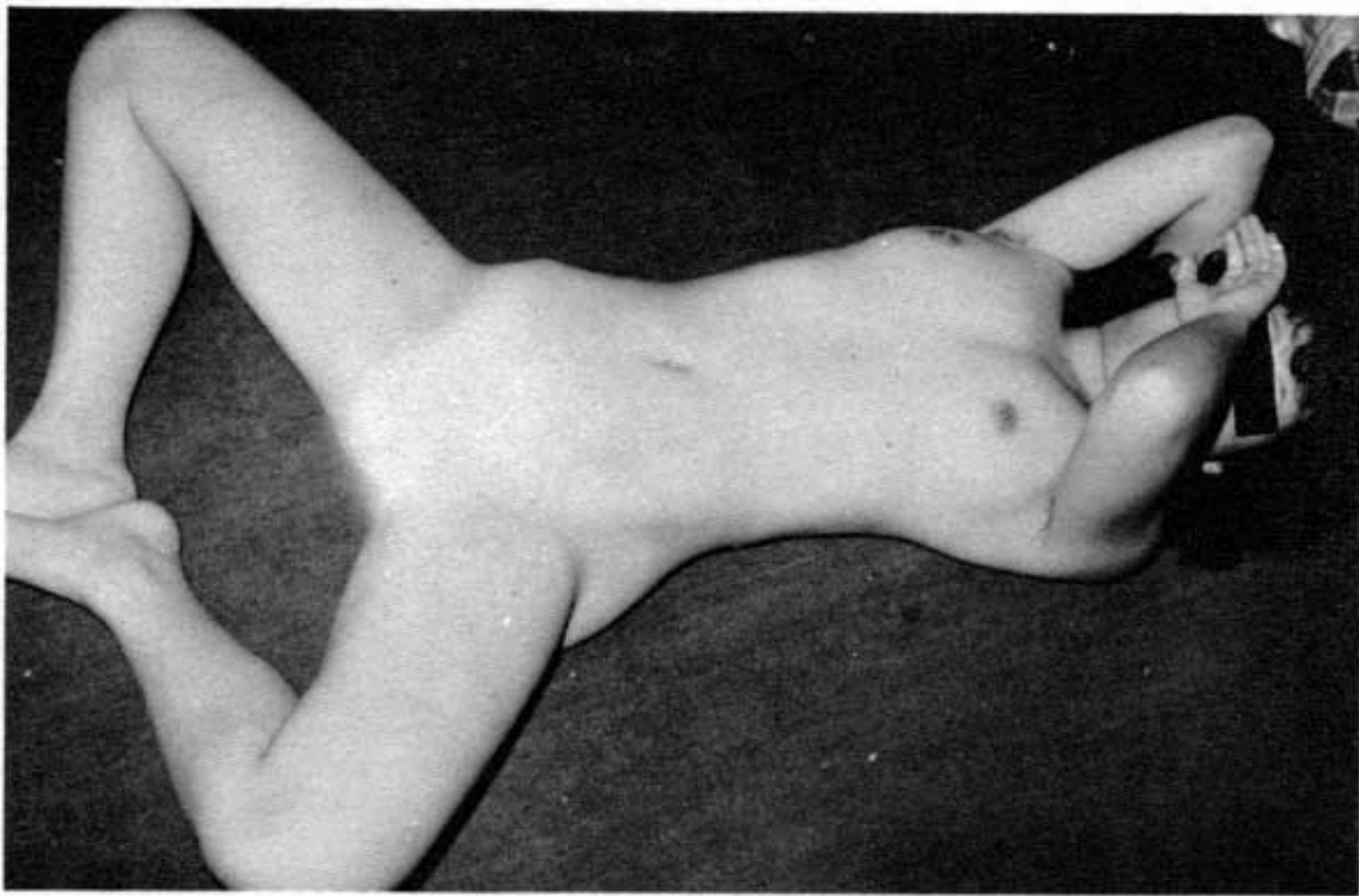
尾 人間は意欲をもてば出来ないことはないという事実の実証になると思います。

小 他人には発奮を促すことになるでしょう……それでいいではないか、というのならそれまでですが、私は貴方の今の説明では不満



です。もっと別の目的を持った方がいいと感じています。しかめつらしく言うようですが他人の一生を蹂躪するようなことはすべきではない。

尾 別な目的といわれたことを聞かせてくれませんか。



小 独自の生き方を追求するための目標をもつこととか、彼女の個性を育てる手段とすることです。既に貴方は彼女に大きな影響を与えてしまっている。知らさなければ一生知らないで過されるアブ・ラブを教え込んだことになるでしょう。彼女に、男にとって都合の

いい分別があるなら、貴方は得したことになるが、それだって危険な橋を渡っていることには変りがない。もつとのぼせないで彼女のためのことも考えなければいけないと思いますよ。

尾 ……男にとって都合のいい分別ってなんですか？

小 彼女の方が、貴方と巡り合ったことを幸運だったと思い、日蔭者でいいから愛情生活を送りたいと希むことです。ところが、えてして本妻の方が妾の存在を知るとつむじを曲げる。トラブルが絶え間なく続くことになる方が多いんです。貴方は一方では愉しみをもちながら、その愉しみが重荷になってくるかもしれないし、二人妻の間で前途に暗澹たる思いを感じ出しますよ。貴方は二人の女性の運命を狂わせてしまうことになりかねない。

尾 うまくとり仕切れればいいことでしょう。

小 出来ますか。

尾 そう努力します。

小 努力しても、崩壊するかもしれないのです、両手に花の一時的な愉楽は。人間感情の支配を掌握するには、確乎たる信念と境遇に甘んじらせる保障も必要です。しかし貴方は非常に曖昧だと思います。何故プレイメイト

を必要としているのか、その前に奥さんに対しても試みておくことがあるのではないかなど。

尾 パートナーとして彼女を確保して行ける柄じゃないと言うのですか。

小 柄をいつているのではなく、はっきり言つて資格ですよ。資格は貴方の財産……つまり金のある・なし……を問題にしているのではなく、我が道を往く、という意志がないことを私は言います。相手は若い、俺にあきれば何処か他所へ行ってしまうサ、などと思えば慕われている間だけをプレイメイトとして利用してやれ、と魂胆しているとしたら甘くみすぎていることになる。また、その時(別れ)になると急に手放したくなくなり、貴方の方が行かないでくれと、彼女に懇願するようになるかもしれない。王者の風格がその瞬間から吹き飛んでしまうわけですね。その後はもう、M女のご機嫌とりに終始するしかなくなる。これは愉快なことではないと思いますよ。

尾 お話はわかるような気がします。確かにそこまで考えていなかったことで、こわさみたいなものを感じてきました。でも、M性を開発された女性は、温和しく従ってくるものじゃないかと思えますけど。

小 それは「虚構話」から貴方がM女生態を妄想し、錯覚しているんです。他人の話は全部嘘だと思いなさいな。裏を読むということをしなさいよ。

尾 するとこの世に、M女なんかいない、ということにもなりますか。

小 そうです。特定の男女間に於いてはSとMとの立場でも、打算的な情実関係があつて、馴れあいではないのです。マゾの血が騒ぐという程の人は恐らく皆無でしょう……なにしろ、日本の女は独立独歩する意志や姿勢は全くない。マスコミでは「女一人の細腕で成功した何某」とかいわれてもスポンサーやパトロンがチャンと背後に控えているもんです。そのことからしても、M女とはなに者かが判るでしょう、かつての「奇ク」などで好奇心な対象になった人のことは。

尾 夫婦でSMプレイしてた人が、奥さんをM女として手記など書いてましたが……。

小 夫の自慢話ですよ。それにしても、もしかすると「内縁関係」かもしれないのです……夫のいいなりになるということが、自分の暮しを死守する手段かもしれないですよ、内実は。ですから顔まで曝されるような発表のされ方をしても、文句もいえない。何処の誰



かも分らない筈だし、いざとなれば家に引籠ってしまえばいいという気になっている。情夫の機嫌のとり結びだけに腐心している状態だと思いますよ。ですから、「こうまでして貴男に尽した。それを裏切られたら……」と無言の圧力を加えているかもしれないし、実際「裏切られた」という事態になると、これはもう新聞の三面記事ものですな。M女は

被害者意識から過去を清算する意気込みで男にダメージを与える豹変を敢えています。

尾 ……プレイメイトを持つことは難しいですわね。

小 難しいと思うのは、無責任を自ら表明するようなものですよ。貴方は私と話してガツカリしたかもしれない。しかし、T氏にしても、或いは私以上にもっと辛辣な批判をした



かもしれないんです。彼は「SM浮かれ族」を極端に嫌っていますからね。ひよっとすると、貴方を忙しいから欲待出来ないといった事は、中途半端な同好者とは会いたくないといっている事かもしれませんねえ。私と彼とが旨く馬があうのは、SM用語になっている「調教」とか「馴致」の方法や「M女飼育」の目標が、ほぼ共通しているからです。お互

いに妻子があり不測の事態に対処する責任の認識ももっているつもりですからSM談義にしても堂々巡りということはない。俺たちは「山中鹿之助」だなど笑っていますよ。

尾 ……………?

小 「吾れに七難八苦を与え給え」と、わざわざ困難を克服する興味に憑かれているみた

尾 M女飼育の理想があるわけですね。

小 あるのは基本意識で、あとは夢でしかないですよ。だから相手選びも慎重で、これは駄目だと思えば、すぐ引っ込みも叶うわけ。その面だけを見ると消極的人間ですね。貴方がこの若い女性をマゾ馴致する……そのお手並み拝見は非常に興味がある。その興味も露骨に示すようにしては、貴方を刺激しそののかすことになるだけで、これもまた無責任なことですよ。だから具体的試案を見せていただかないと、貴方の相談にも取組めないわけですよ。

尾 この娘の将来をどう考えているかということになりますね。

小 一番身近かな点でしょう。具体策のうちでも。

尾 完全なマゾにしてみたいです。その目的は、彼女のためにもなると思うからです。

小 貴方以外にこの世には男はいないと思わせてしまうわけですね。

尾 それを望んでいますから。

小 だが、この人の年令で、その希望が絶体的なものであるとはいえないでしょう。行く末、奥さんをつきのけてでも一諸に暮したいと希みを変えるかもしれない。

尾 そうなるかもしれませんねえ。

小 私だったら、こうしますよ。「私を通して『男』を知れ。知って自分で最高だと思える男性を見付け出すようにして、大きくはばたいて行け」と仕向けます。彼女を一生涯、独占隷属させておくのではなく、個性に磨きをかけるために一時的な完全庇護者になるわけです。性的エネルギーをスポーツなどで発散させれば年少者の非行は防止できるなんて、老人人間が言うのは全くの誤り。性希求は順当に消化した方がいいに決っています。その面倒見の良さを、S地位の特権意識に変えてごらんなさい。境遇の激変が起こっても恨み合うことなどしないで済まされることになりますよ。説教じみたことになりましたが、SMプレイは相互の「人格淘汰」でしか認められるものではないというT氏の意向と私の共鳴は分っていただけたと思いますが。

尾 はい、もっと考えてみます。

小 この女性を、有名にしてみたい、レディに育てたいとの野心が貴方にあれば、私たちもバックアップして差し上げられますよ……T氏は演劇界の人だし、私は楽壇人。エロストレーターは趣味的なもの、婦人科カメラマンぶっているのも趣味です。野暮ったいパト

ロンになるのが望みではないですから、若いこの女性をM女の面はあってもそれを強調するのではなく、むしろ隠しおとした上で、個性的な生き方をする女性に育てたいくらいです。私のいったことが参考になり役立てば嬉しいですが。

尾 ええ、お話をうかがえて、もっと真剣に今後のことは考えて行くようにします。

二人の間での会話は、この程度のもものではなかったし、これで終わったのでもない。もっと煮つめた形で討議されたといってもいいのだが、尾河氏は彼なりのレポートを纏めてみると約束し、別れた。私はT氏を飛び越して尾河氏と友誼を深めて行くことになるかもしれない。しかし、それを許容するT氏の度量の広さには感謝し畏敬の念を深めるばかりである。

尾河氏よ。貴方のレポートに先立って、頂戴したフォトを使い清水嬢の麗姿を誌上紹介したことを許し給え。清水嬢は見守り方次第で、メンズ・マガジン紙のトップを飾る美麗なモデルに成長する可能性がある。大事に育てたい素材だと思っている。編集子は腹を立てるかもしれないが、耽美族のアイドルにす

るより、多くの男性の憧れにさせてみたいものである。
妄語多謝



私のSMプレイ テクニック

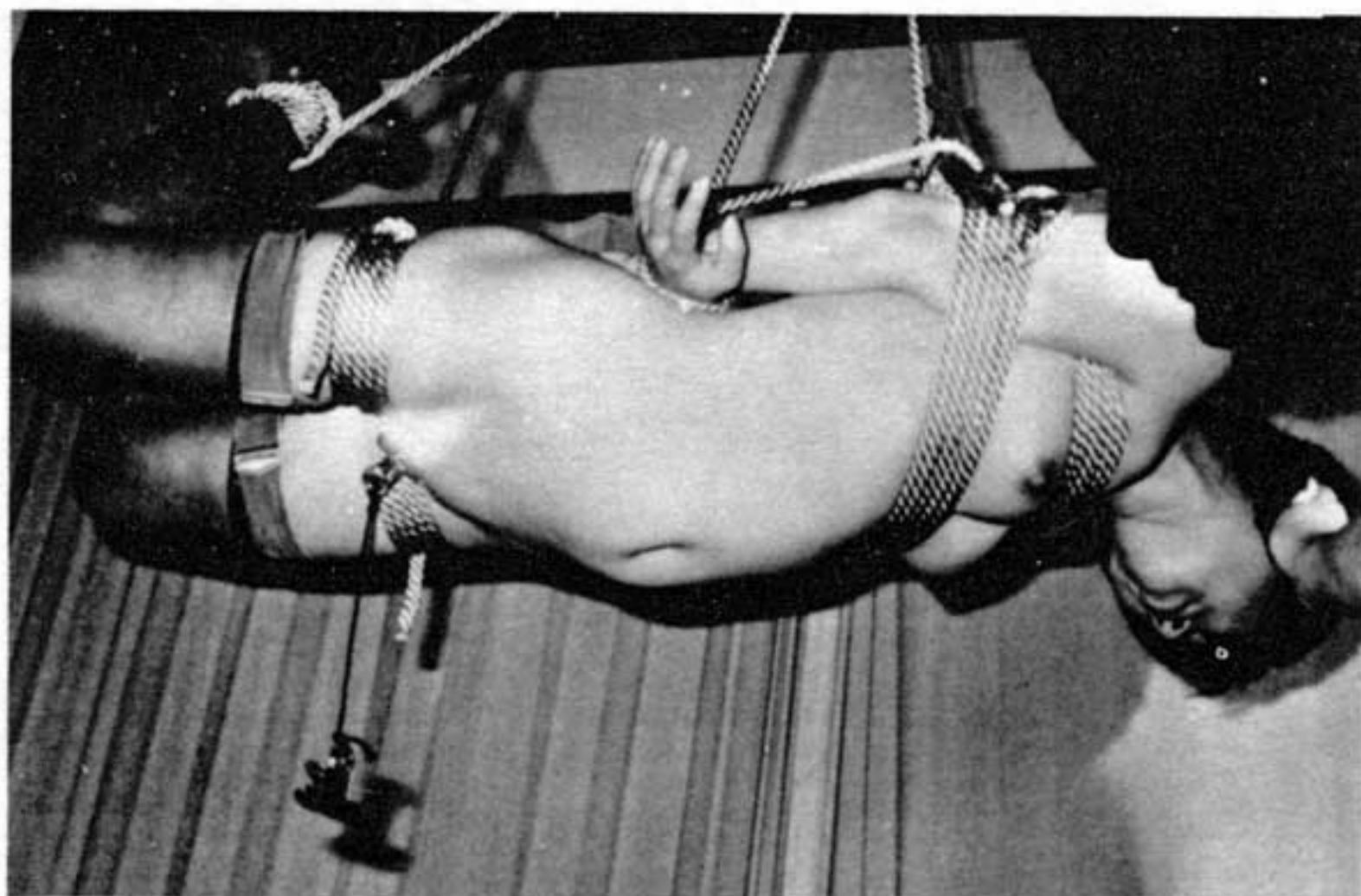
ロマン派生

奇譚クラブ残党の皆さん、長い間御無沙汰致しました。奇ク廃刊のためすっかり御無沙汰してしまいましたが、おかげで元気に相変わらずポツポツとプレイを続けております。このSUN AND MOON誌の創刊を知り真先にはせ参すべき所を、大変到着が遅れ失礼致しました。これから少しずつですが、例のロマン派調の駄文と写真を寄せさせていただきます。

第三号及び別冊の佐野みさ子さんは相変ら



ず素晴らしいですね。何回も何回も私のプレイメイトをつとめて頂いた佐野さんですが、他人の手にかかる写真を見ると、一方では宝物をなくしたような残念さと、一方では妙な快感とが混ざって複雑な心境です。レポートされた丘野俊雄氏の文章はわかり易く、しっかり情景が描写されていて大変名文だと思います。またお人柄もソフトで我田引水すれば、ロマン派に属する方のように、我が党の士を得たという感じと共に、強力なライバル



が現れたので大いに頑張らなくてはならないと発奮する次第です。

さて、これから五、六回をメドに、このテクニックシリーズを連載させて頂くつもりですが、標題のように、これはあくまでSMP（Pはプレイの意味）で、鈴木広一氏のいうS

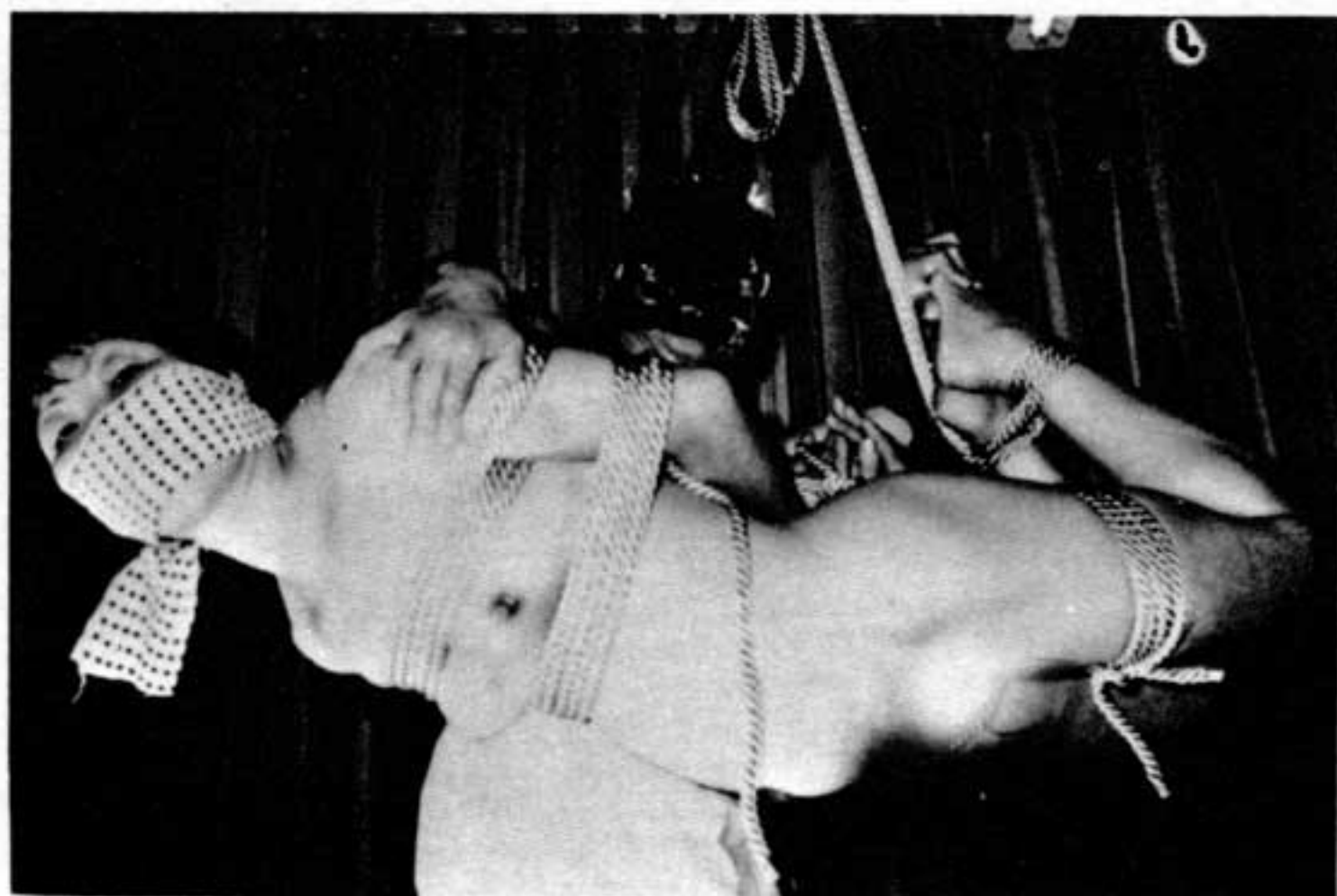
MG（Gはゲームの意味）ではありません。PとGの違いは必らずしもよくわかりませんが、私としてはロマン派イコールソフト派イコールSMPと考えています。したがって、私のプレイテクニックは、第一にプレイメイトに怪我をさせたり、あまりにひどい苦痛を与えないこと、第二に出来るだけ美しくかつ可愛らしくなるように責め立てること、第三に、あまり大がかりな道具や、極てむずかしい専門的技術なしに出来ること、等を条件にして実行して来ました。これからお読み頂くほとんどすべての事柄は、実際に私がやってみたことばかりですから、説明の通り丁寧にやって頂けば誰にでも安全にかつきれいに出来ます。一つ皆様もやってみて、その結果を御報告頂ければこの文を書いた甲斐があるというものです。

例によって書く順序は思いつくままであまり系統的でないことはお許し願います。

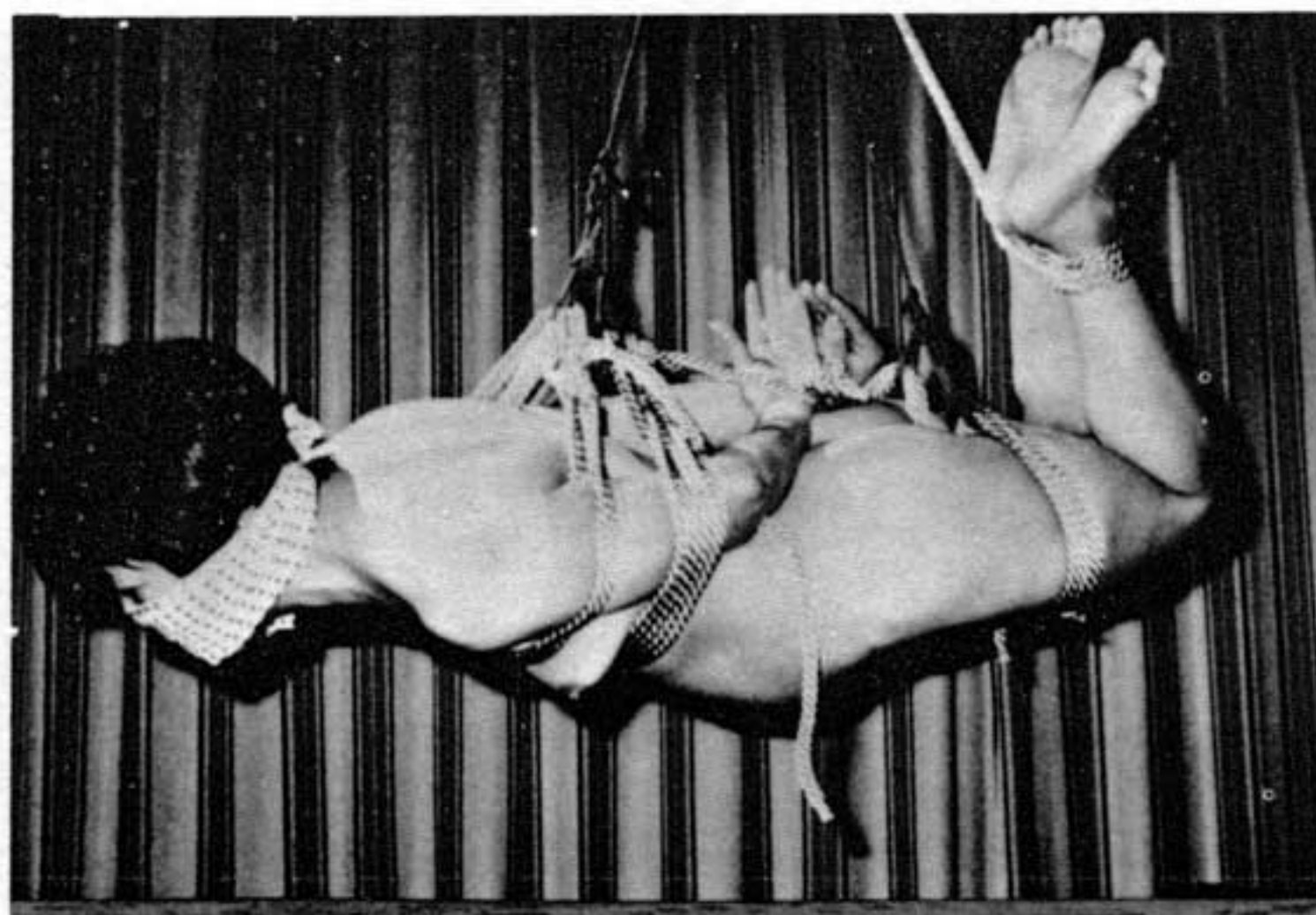
前置きが長くなりましたので、この辺から文体も改めて本文に入りますよう。

一、駿河問ひ

まずしよっぱな、一発迫力のある奴をぶちかましておかないと今後読んでももらえないと



不可ないので、秘蔵の写真を持ち出し、度胆を抜こうというわけだが、第二号グラビアの片足吊りを見てしまうと、あれには一寸及ばない所がロマン派のロマン派たるゆえんで、ま、こんな所で我慢してもらうより仕方ない。駿河問ひとは、昔々矢部駿河守とやらが考え



出した最も惨憺な拷問ということになっていく。女囚の四肢を背中側にまとめて縛り、身体を水平に宙吊りにし、グルグルと回転する拷問である。仲々カッコがよいので、〇〇拷問刑罰史などという類の映画で何回もとり上げられたが、仲々本当に素晴らしいものはない。それは、映画の撮影では着衣の下な

どに吊すための器具を仕掛けてあるため、その部分が不自然にふくれ、縄の締め具合に迫力がなくなるし、それが顔の表情にも出て来るからではないかと思う。そうかといって何かの仕掛けなしに手足を縛った縄だけで吊したら、よほどきたえた人でかつ軽量な人でないと脱臼してしまうに違いない。私はかつて、某誌の写真で、手首と足首を布のようなもので縛り、そこからロープで吊した本当の駿河問ひを見たことがあるが、残念ながら、この人は男性だった。男性は身体が硬いが、逆に、こういう時、筋肉の力で頑張ることが出来るらしい。女性は苦痛に対する我慢が強いといっても身体が柔らかくフニャフニャなので、後に廻した手足の縄だけで吊すことは、一寸無理ではないかと思う。本誌一号のグラビアを飾り本文にも登場した彼女（名前を書いてくれなかった編集部がうらめしい）あたりだと、小柄で軽量のようなだから、あるいは本当の駿河問ひが出来るかも知れない。

さてそこで、身体にも縄をかけ、それで吊ったかどうかといえば、これは不可能ではない。挿入した写真のようにちゃんと出来る。御覧のように、何等の補助器具を使わず縄だけで吊ってある。今回は、この駿河問ひを一

人でやるテクニックを大公開するのが主題である。我々がSMプレイをする際、ほとんどは一对一でやるので、一人で安全に縛り、吊し、写真を撮り、かつまた、降せないといけない。

まず縄をえらぶ必要がある。やや太目の縄で肌ざわりの良い物が良いが、そうかと言って布のような縄では迫力が無い。荒縄だと、見た目にはよいが、丈夫さに不安がある。吊すのだから、万一切れては困るので十分強いものが必要である。それで私は写真のような装飾用の柔かいロープを使っているが、これは肌ざわり万点だけれど、少し優美すぎるくらいがある。やや太目のロープが丁度良いようだ。長さは、二メートル位のものと二本と、四メートル位のものと二本がまず必要である。この四本の縄を写真①のように乳房の上下と、左右の太腿に、きちんと重ならないように巻いて、しっかりと縛っておく。もちろん短い方が太腿で、長い方が胸に来る。写真の乳首に喰いこんでいるクリップはこの際関係はない。後手の手首はこの四本の縄とは別の縄で縄尻を二メートル位余して縛っておく。次に別の丈夫な縄（登山用のロープなどがよい）を二本用意して、一本は背部で乳房の上下に



かけた縄と連結する。この際、女体を水平に吊った時、胸の縄に均等に体重がかかるように慎重に縛る必要がある。そして縄尻は二メートルほど残しておく。

次にもう一本の丈夫な縄で、両太腿にかけた縄をくぐして、これも水平吊りにした時、体重が左右均等にかかるように丁寧にしつかりと縛る。この縄も二メートルほど縄尻を残

す。かくて三本の縄尻をひいて、女体は駿河問ひを待つばかりとなる。

さて、これから縄つき女を吊す場所に引立てて、テーブルとか、椅子の上に立たせる。この台の高さは三十センチから一メートル位まで、事情がゆるせば高い方がよい。この台の上に立たせたら、次には、太腿の方から伸びている縄尻を上ので鴨居などの吊すべき場所に来るだけ高くゆるまぬよう縛る。女囚につま先立ちさせる位がよい。次に胸の方からの縄尻をとってこれも鴨居に固定するのだが、この時は女囚を前屈させ（深くおじぎをさせる）太腿から吊った縄と、胸からの縄の長さが上手く釣り合って上半身が水平になるように調節する。この時両足はまだ台の上についているので、あわてることはなく、ゆっくりと長さを加減すればよい。完全に水平になるより、わずかに頭が低い位の方が迫力がある。さて、高さが上手く調節出来たら、女囚の足を台から一寸浮かせ（これは女囚自身が足を曲げればよい）、身体はどこかに局所的な痛みがないかどうか確かめる。これはあまり痛くないし、女囚自身の不安もそれほど強くないので、一回テストしておく、その後の作業がはかどる。テストでどこも痛い所がなく、

縄がゆるんだり切れる心配がなくなったら、最後に女囚の両足を持ちあげ、背中側に屈曲させ、手首の縄尻をいったん鴨居を通してから下に降し、足首に巻きつけ、いわゆる逆えびの形にする。この縄は出来るだけ短かくして、手と足首が接近している方が美しい。そして台をどかす。これで駿河問ひが完成したので、後は好みにより、ぐるぐると水平に廻したり、クリップ責めでも、ローソク責めでも、時にはおしやぶりをさせることも出来る。かなりグラマーな女囚でも、それほど苦しい縛りではないので、十分間は十分にもつ。軽量な女ならば三十分位もつから、あわてて写真をとって失敗したりしないように、ゆっくりと駿河問ひを満喫してほしい。女性も逆吊りほど怖がらないものである。

さて十分に満喫したら降ろしてやるわけだが、その手順は、まず足をのせる台を用意する。次に手と足を結んだ縄をゆるめて足を台につかせる。そして身体を起して直立させれば、後は全く問題はない。

この駿河問ひ実施の上での注意事項は、一つには、吊す場所が十分な強度があるかどうか調べておくこと、次に、腹部の縄で吊らず必らず胸部と太腿にかけた縄で吊ること。更



に、繩の強度とか、結び目がゆるまないように十分注意すること、等である。

手首と足首だけで吊ることは、身体のパランスと、手足にかかる力の方向とを十分に考え、軽量のモデルに恵まれれば出来るかも知れないが、よほど自信のない限りやらない方が無難であろう。

私の駿河問ひの特徴は、太腿で吊ることと自分で台の上で立たせてから前屈させる所に工夫がある。この手順が文章と出来上りの写真だけでわかって頂けるかどうか不安で、出来れば、順序よく写真をとっておくか、あるいはイラストでも入れるとよいのだが、そこまで準備していなかったのも、なんとか賢明な読者は判読して欲しい。尚、私が実際に吊す部分に使った繩は紺色だったので、白黒写真ではよく見えないかも知れない。特に太股から吊った繩が見えないと、文中の説明がわかりにくいと思うが、足首から吊った繩は実際には飾りで、太股に重さがかかっている。写真のモデルは⑤は御存知佐野みさ子だが①から④は秋野英子である。秋野さんは知人ぞ知る、奇クの塚本氏が「みだらな指の秘密」と題してレポし、口絵にも登場したことのあるスタイルの良い美女である。現在もしばしば坂本信三氏のきびしいお仕置きを受け、一層そのマゾ的な美しさにみががかって来ているが、時たま小生も記録係としてプレイに参加しており、この写真は坂本氏の了解を得て投稿したものである。

今後もこのシリーズでその美しい肢体をさらす予定なのでどうぞよろしく。

尚、駄足ながら、責める側が二人、三人と

居れば、もっと別なやり方も出来る。例えば初めから逆エビに縛っておいて二人位で抱え上げて吊すとか、あるいは、滑車を使って吊り上げるとかである。しかし、人手があっても安全性を考えればロマン派方式の方が勝れていると自信をもっているのだが……。

今回はこの辺で終わりにするが、次回は、逆吊りのテクニクを御紹介する予定なので、期待して頂ければ幸いである。



まちの中のエコー

まちの中のエコー

まちの中のエコー

「サン・アンド・ムーン」創刊以来、思いがけないほど多数の賛辞やご批判を頂いてきました。それらを「まち中のエコー」として、到着順序はまちまちですが、誌上公開してみます。

編集子は極力ご投書下さった方々には返書申し上げるようにはしてまいりましたが、いかんせん、住所不明・無記名のご投書には拝見するにとどまっております。

この「エコー」欄は、SM雑感の頁といったしたいと思います。読者から寄せられる「読者通信」の内容に建設的なご助言またはご叱声もあつて、単なる交歓・交際希望でおわるご投書と区別し記載する方がお互いに有益だと考え、設置してみました。

弊誌収載の本文が実践耽美派のひけらかしであると思われる各位は果敢なる野望派としてご意見をご発表願いたいと思います。

ます。

「エコー」は立ち消えてしましますと空しさばかりが残るものです。どうか、誌上討論をお続けになるお気持ちで、身辺雑記などをお寄せ下さい。

(世田)

『マダム・ザビエラ』に魅せられて

神戸 バロン S

御創刊おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

『奇譚クラブ』が消えてから、ほんとうに寂しく思っていました。ことに真のSM誌「サン・アンド・ムーン」の誕生で、まじめなSM道のファンにとっては、久しぶりにニセモノからホンモノ誕生に喜んでゐる次第です。今後『奇ク』に負けない本格的なSM・バ

バイルのようなお手本をみせていただきたいものです。人間の性の深層心理学に、人間の衝動領域に専心し、新ジャンルを開発してほしいものです。今後ともホットな快楽体験を集め載せてください。

私はSMに興味をもってから二十数年になります。職業は会社員で三十八才です。『奇ク』に依って覚えた趣味で現在もSMの資料

を蒐集しています。SM小説、フィルム、写真、雑誌、海外誌文献などです。SMプレイ歴も少々あり、M女性とのプレイは五、六人経験しました。その体験談は後の便りで告白しようと思っています。

最近読んだ小説で、アメリカ実話へ高級コール・ガール日記『マダム・ザビエラ』(原作ザヴィエラ・ホルンダー、訳・山根和男)が私の興味をひき、特に変態・同性愛客の治療という所などは読後もお頭から消えません。

小説を載せないという貴誌が、実在の人物の告白記を大いに採り上げて行く上でご参考になればと思いSM情報としてお知らせしま

した。

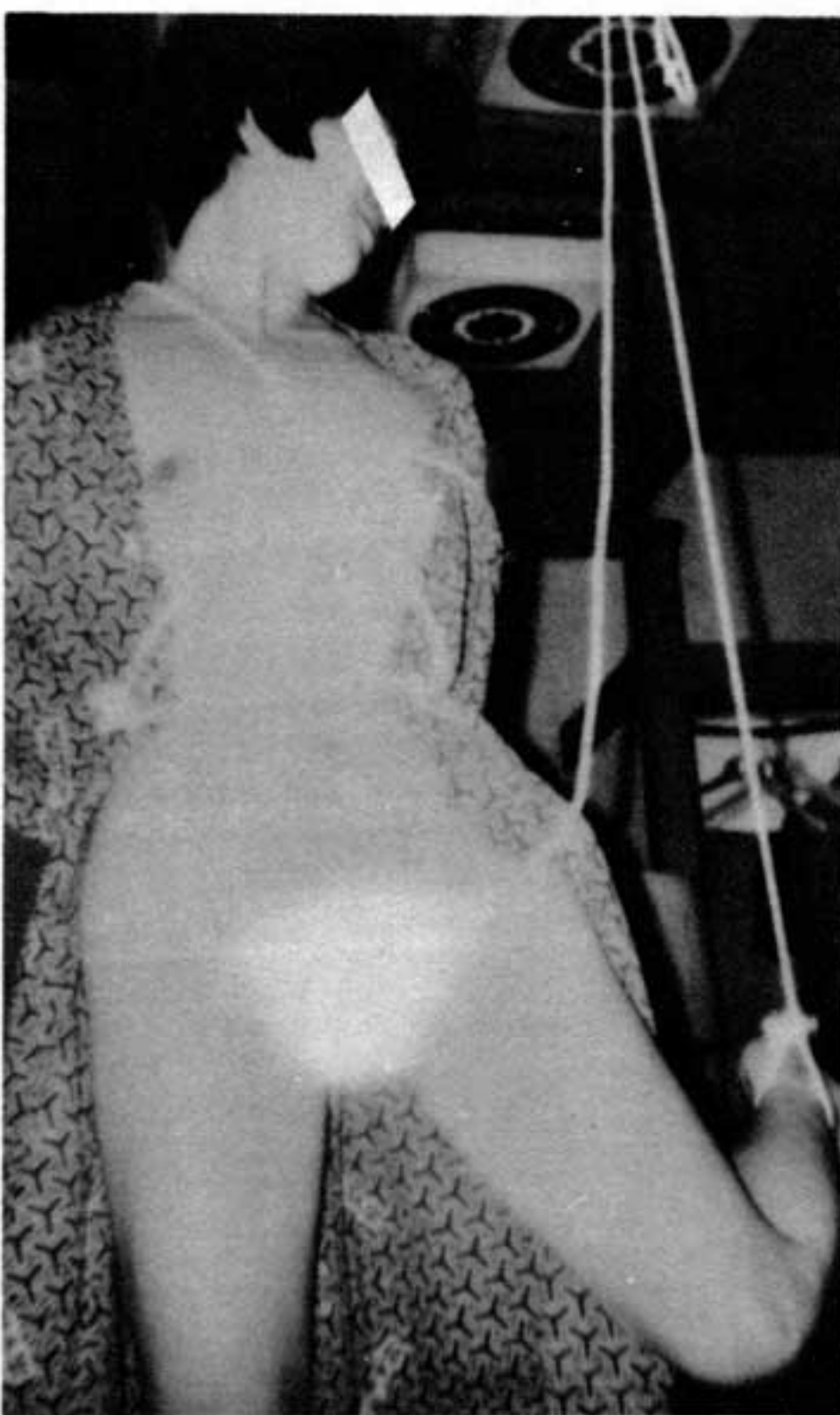
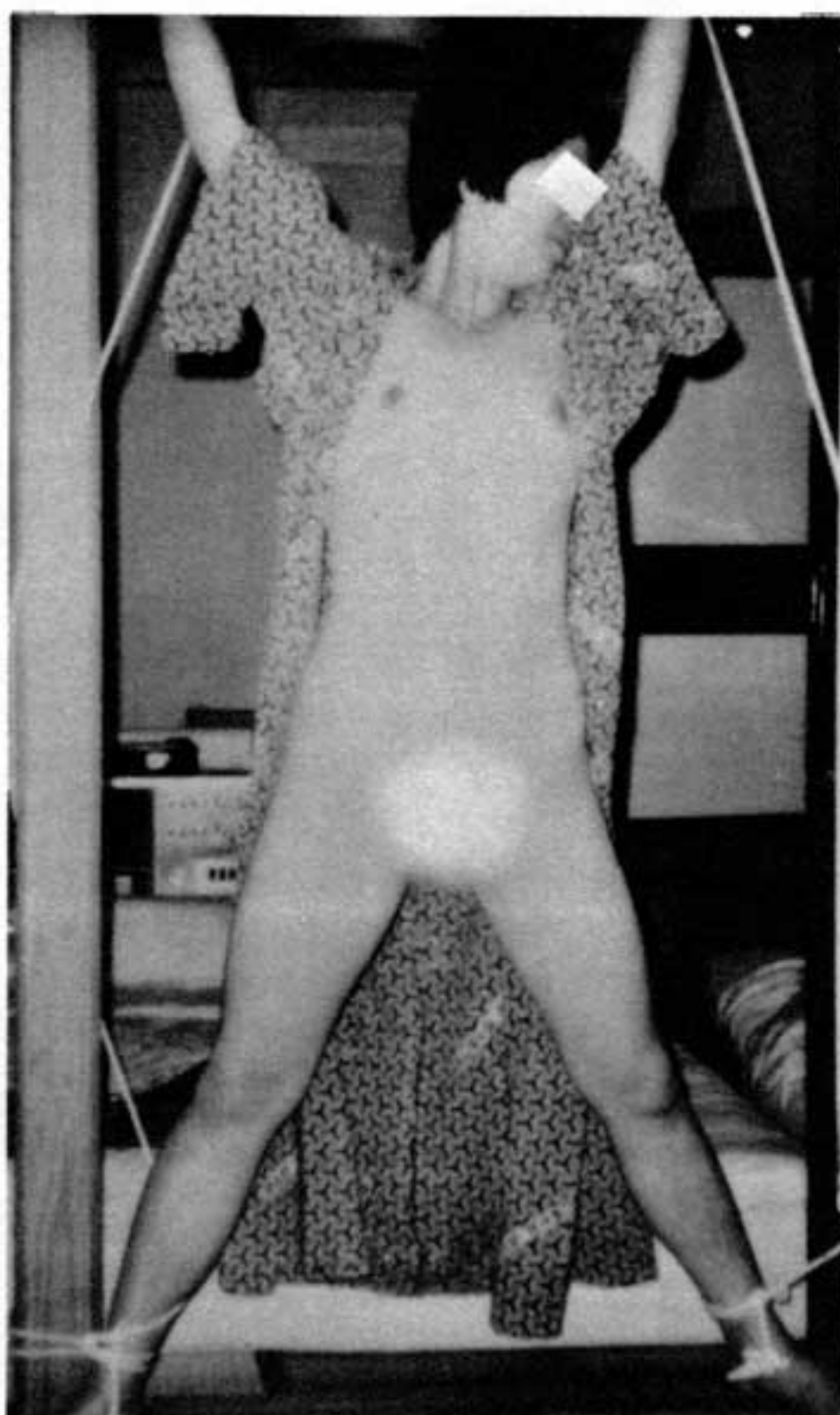
御覧頂くプレイフォトは、先日、大阪のラブ・ホテルの一室で真昼間プレイを致しました折の記録の一部です。相手は人妻ですが完全なM性のある人です。浣腸責め、ローソク責めもありますが、私は「縛り」と言葉による「羞恥責め」が好きですので、当日はこの二種だけをやりました。ほんとうに美しい体をした熟した女性でした。プレイ・レポートは纏まり次第お送りしたいと考えています。

最後に世田様にお願をひとつ——アメリカのSM雑誌でも、素人同志の交歓誌や、アングラ誌及びSMクラブ(ロスカシスコにあるとのこと)の模様と現況を知りたいものです

から、「日月舎同人」の情報通有志の方をご紹介いただきたいものです。近い将来、海外SMクラブ潜入記なども発表させていただくつもりでありますので、よろしくお願い致します。

——本号の「わが輩はドクシンキゾク」桂氏にご連絡下さい。氏はスワッパ―ですが、その毒に染まるのが前提条件になるかもしれませんが、その責は負い兼ねますし、去就にも一切関知致しません。

※「スワッパ―」Ⅱ夫婦交換愛好者



耽美座談会の出席もいとわず

東京 森山周一

世田様

先日貴誌を購入拝見。内容の異色さに興味を持った次第です。又、昨今のこの種の刊行物のマンネリに対し、アキも来ておりましてその点でも関心を持った次第です。

私の様な者でも、貴誌グループのお仲間に入れて頂ければと思い、筆を取ったわけなのです。よろしくお取計い頂ければ幸いです。

プレイ歴は今の所目ざましいものではなく、過去においても年一、二回位のものです。その代り、SM誌の収集等は「奇ク」創刊以来続けており、今やその始末に困窮する程になりました。

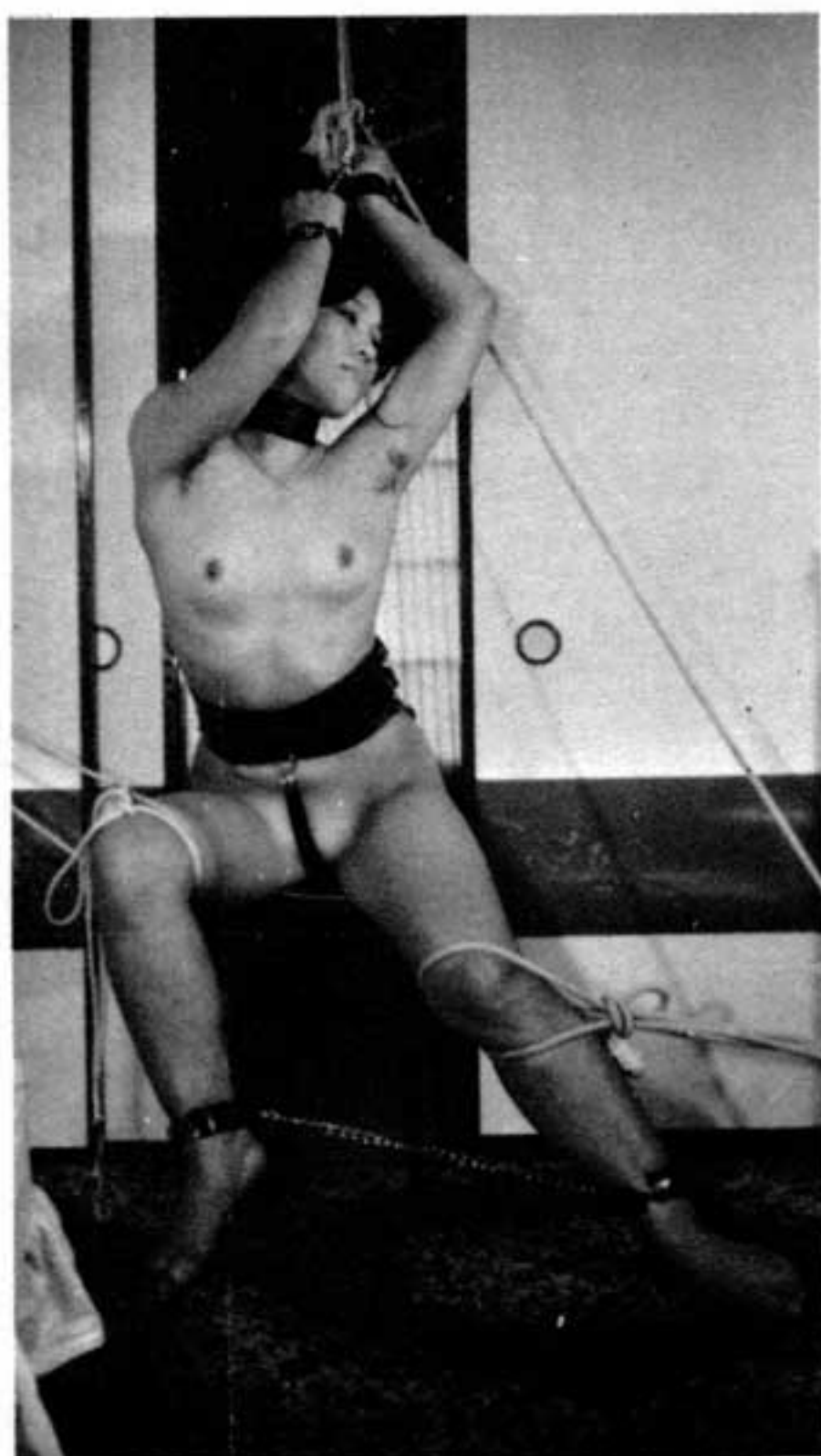
馴致の失敗か、必ずしも小生の場合家内がその方に興味を示さないもので、外で発散させる傾向となります。現在の家庭環境によると

ころ、と思われませんが、単身でなら座談会にも出席し、大正がかった世代の者の発言は対談者の如何んを問わずお相手できると思えます。フォト、その他の資料提供も可能です。

貴誌の別冊も購入いたしました。佐野夫人の健在はマニアにとって好ましいと思います。KK誌のモデルだった前田嬢、笠井嬢……

消息は全くないものでしょうか。今後も別冊刊行を続けて下さり、楽しみをふやしていただきたいと思っております。

KK誌では、かつて、受注分譲写真のシステムがあり、希望のモデルとポーズを指定しますと、購入者側の要望通りのフォトを作製してくれた時期がありました。（誌上分譲写



真とは別個のものです。尤もその注文品受領後、日がたつと本誌グラビアに類似作が出るということがありました。」 貴社におかれども特注制度を望みたいと思い、御検討願えれば幸です。

縄以外の拘束を好まれる傾向があるように思われますので、小生の蒐集フォトの中から

数葉選びお送りしてみます。

以上ですが、よろしくお願い申し上げます。

親書拝受後、森山氏と面識を交わし、心よくお引き受け下さったご寄稿依頼も旬日後に実現した。本号の「耽溺のコレクター独悦記」がその玉稿である。

続くかなア続いて欲しいなア

千葉 大塚 啓

SUN AND MOON誌も第三号を発

刊し、やつと軌道に乗って来たようでお目出度う御座居ます。三号雑誌などという悪口もありますのでなんとかもう一息頑張つて下さい、奇クの読者通信に相応する部分がまだ乏しいのが淋しいので、埋草にでもと思い投書させて頂きます。

一号から三号まで通して編集方針は大変良いと思います。あくまでアマチュア風に行きましょう。変にリファインされて芸術じみないで、アマチュアの泥臭さに徹して下さい。我々マニアの雑誌にするため、二つ三つ提

案させて頂きます。

一つは、投稿家や、モデルの名前ですが、全然名前のついていない方や、或いはS氏とかR氏とかイニシャルだけの名前は、親しみにくいものです。もちろん仮名でよいわけですから、是非、山田一郎とか、川上花子とか名前をつけて発表して欲しいものです。投稿家から名前がつけずに投稿されたものは編集部で勝手につけても失礼には当たらないと思います。また、これは一寸無理なお願いかも知れませんが、奇ク当時の名前をそのまま使ってもらえたと一層良いのですが「昔の名前で

出ています」というわけです。更にもう一つ無理を言えば、一人の投稿家が幾つもの名前を使い分けるのはあまり感心しませんね。何等かの必然性はあるのでしょうか、中宮栄氏イコール多貫欣氏イコールなにになに、とあま



りにも名前が色々あって、作品の方は皆同じ傾向というのはいささかしらけます。

二つめの提案はいささか消極的なのですが掲載する写真はモノクロで結構ですし、場合によっては顔を隠してもよいのですが、局部の小道具などがあまりはっきり写っていて、当局と物議をかもすのではないかと心配です。

我々としてはもちろん出来るだけ露出度が強い方がよいのですが、当局ににらまれて、発行を停止されたり、或いは投稿した人が、当局に事情聴取されたりしては困ります。プロならば、多少の冒険をしてもよいのですがアマチュアはあまり冒険はしたくないものです。写真の表現の限界は少しくして頂いた方が安心です。そんなわけで別冊の佐野みさ子さんの写真集も、他社のと違って大いに迫力

があり素晴らしいものでしたが、続編を出される時は、もう少し小さい判型で、表紙など地味にさり気なく出して下さい。ページ数が減っても値段が上って結構ですが別冊はオールカラーでないと本誌と重複してしまいます。恐らく本誌を読んでいる人は皆別冊を買うでしょうから。

SUN AND MOONを期待するあまり失礼な意見を申し上げて失礼しましたが、今後長く続けて発行して頂くことを願って筆をおきます。

——古くからのSM誌愛読者とお見受けします。ご意見は今後に活かされて行くことでしょう。『続ける』ことにご支援を切望。イコール何某はたまらんですな。

仕掛人

男性被虐も扱ってほしい

大津 岩上俊郎

このたび「サン・アンド・ムーン（S&M……フォーム）」誌創刊第一号をはからずも入手し、そのすばらしい内容に感嘆させられま

した。開巻冒頭のフォト三葉（カメラハント「脾悦逆さ吊り行」と続く六葉には満足させられました。

しかし、欲をいえば陰部のボカシがなければ……ということ。法治国家の下では、やむをえない処置であることは百も承知しているが……。

SMプレイは、あくまでも男女の合意による全裸でのプレイであるといってよいのではなからうか。従って、男性にしろ女性にしろ、ヘアーも性器も露出してこそ自然であるから、その部分をボカスというフォトは、かえって写真そのものに写実性がなくなり、好ましくない結果を生ずるのではなからうか。あくまでも「真実」を追求したいものだ。

つぎに、嗜虐小説がないということは賛成である。それよりも被虐小説ともいふべきものが欲しい。

被虐の内面を描写することはむづかしいと思うが、被虐による心理、肉体の変化、現象など偽らぬその実態を描くことは無理なのであろうか。嗜虐小説はどれもこれも同じような加虐パターンで、内容も不可能な空想ばかりといえよう。そんな小説は必要がない。

それよりも篠崎敬子さんの「マゾ女性への傾斜」や、浦賀美恵子さんの「柱とわたし達」のような告白日記の方が、小説以上であると思うし、篠崎さんの手記のフォトも非常によ

い作品といえる。今後大いに取り上げて欲しい。

また、多貫欣氏の「竹のイマージュ」は実用上参考になると思うが、カットにも説明ナンバーを記入した方がよかったのではな

いか。
奴隷市場でのカメラレポート「好事三昧」はいい試みだ。特有の皮責め具を使ったフォトは非常に興味が惹かれたが、好みとしては全頭マスクはプレイとしては被虐味があるかもしれない……しかし観賞する側としては女性の表情がみられないので、猿轡が目隠し

だけのものの方がよいのではあるまいか。

さて、私自身について語るとなると、「サン・アンド・ムーン」誌の趣旨とはむしろ異なったものといえるようで、その特異さがあるということ、まずご了承願いたい。

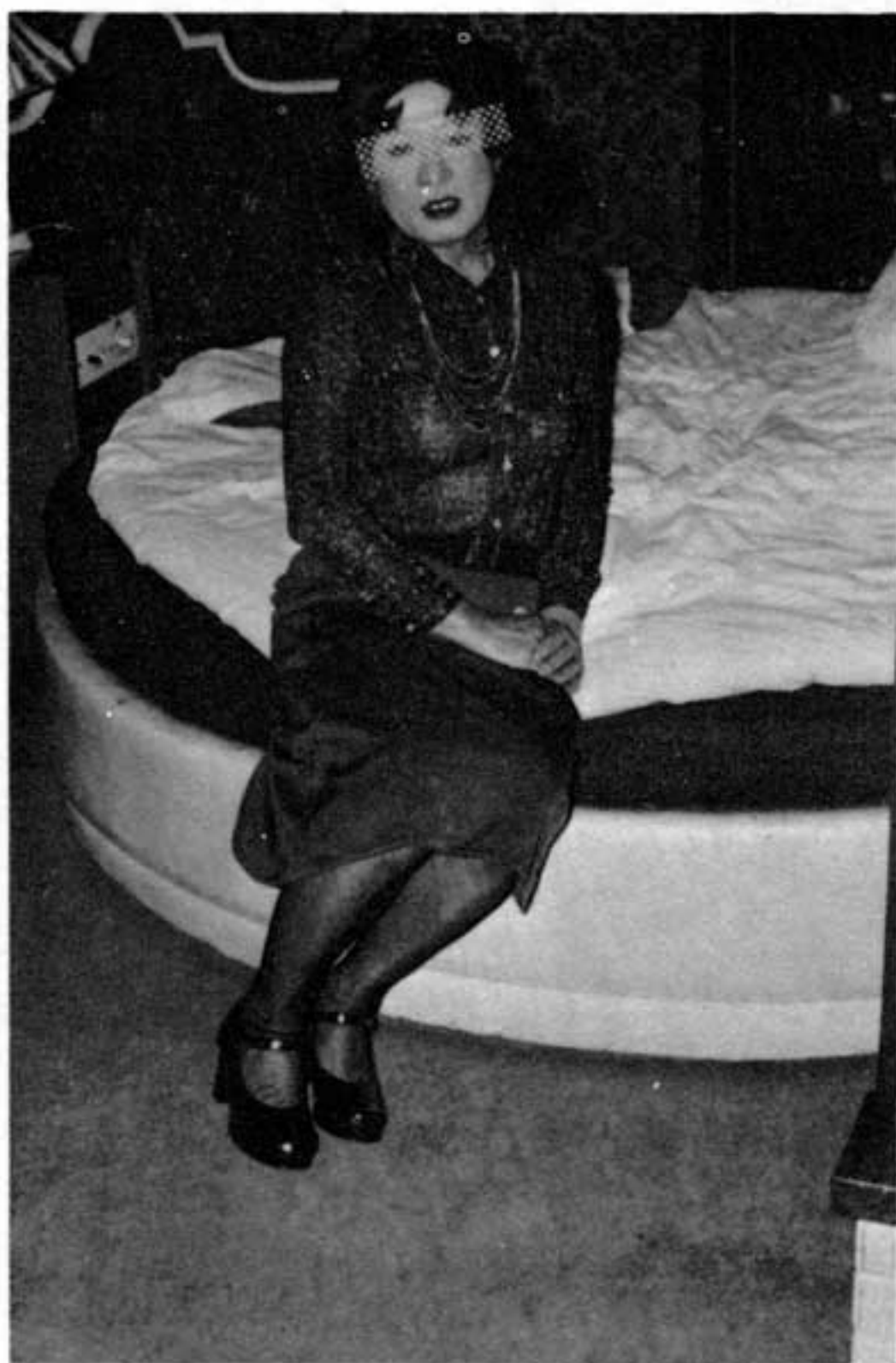
私は女装のMなのです。従ってSM実践の際は、女装して責めを受けるといったことになり、一時、SM同好会にも加入してプレイした経験もあります。現在は脱会しており、どこの会組織にも加わっておりません。

当時写してもらったフォトをご参考までに同封しておきます。

写真① ゴムマスクをされているので、表

情はわかりにくいと思いますが、ブラジャーは乳房の部分がくりぬかれた女性用SM皮製品で、首輪とウエストのベルト、これをつなぐベルト、局部のものはアヌス責めの突起がついているものです。足の爪先はご覧のように柱に縛りつけられて宙に浮いている点から事実礫にされた光景であることが証明できると思います。

ところで、私がこのように女装Mの世界に足を踏み入れたのは十数年前で、たまたま知り合った男娼から手ほどきされたことからで



す。その男娼によって「女装」することゝま
ず教えられ、やがて男娼から責められてMを
知り、それ以来「女装M」の道を歩んできま
した。勿論、家族は私がこのような方面に興
味を持っていることは全く想像もしていませ
ん。しかし私は、いまでは「女装M」による
こびを持っています。

もともと人間にはSとMの両面があり、何
かのきっかけから、そのいずれかが表面に出
てくることはご承知のとおりです。私の場合
はMの面が、女装を知ったことから出てきた
といえると思います。また戦時中、旧制高等
女学校の教師を勤めていたこともあって、教
場での女生徒との交流が「若さ」を希求する
感情の中で倒錯性ともなっていたのかもしれ
ません。

家庭では「男」であり願望は「女装M」の
私は、矢張り本格的な「S&M」誌を頼って
趣味を楽しみたいと思っております。異端者
扱いをされず、何卒同趣者との交流がかな
いますようお願い下さい。

写真②はセルフタイマーで撮ったものです。
著述も少々致しておりますので、男性被虐
の側からも執筆寄稿する支援者があってもよ
からうと思ひ、場違いを感じつつペンをとり

ました。

——実生活外趣味妄想の世界では、人の暮
しと願望希求は意外性に富んでいるもので
す。貴方のような方を排他するものではあ
りません。ただ、生活は脆弱で性倒錯だけ
に生きている「ビューティフル」人間たち

わが妄想の記

創刊号入手して、たちまち虜になりました。
他の通り一遍にマンネリズム化したSM誌
にない、ユニークな雑誌として拝見し、これ
までに類のない新鮮さを感じました。

座談会記事中の、男女の迫真のプレイフォ
トなど他社では絶対見られない生々しさと迫
力が溢れ出ていて「SUN&MOON」なら
ではの魅力で私を魅了してくれました。

S的性質が強く滲み出ていますが、Mの内
容はいかがでしょうか。私は元来、女性に残
酷な扱いを受けることにも強い性向があり、
それ故正常な愛のプレイでは、中年となりい
ささか衰えが目立ち始めた我が分身も奮起せ

は生理的嫌悪を感じます。男性版「イマー
ジュ」でもお書き下さいますか。それをシ
ナリオ化して「日活」へでも持ち込んでみ
たいものです。
続いてもう一篇、男性被虐希求者から――

京都 塩島 哲也

ず、やっとサデスイテックな女王様のお蔭で
僅かなりとも男の兆候らしさが表われるので
す。否、中年男の私が女王様の前で、男であ
るかないかの是非は必要ないかもしれませんが、
何しろ私に与えられた役割は唇と舌だけ
なのです。

そのため女王様としても行為中の不満足を
充たされるため、若く逞しい第三者をプレイ
中お側に置るか、慰みものとして口唇奉仕す
る奴隷服従が私に援けられた役目となりまし
た。

私に許される口唇の務めは、おみ足の裏と
アヌスへの舐吸で、それ以外の接触は女王様



の御命令によってペットマウスとなる以外許されません。私はもう一人の男性のサーベルを垣間見ながら、自分の醜く、年輪の如く皺寄った微動だにしない沈み切ったコックに、言いようのない淋しさと諦めを抱きながら、

女王様のおおせの通り色香満ちた尊体に、な
お一層、あたかも天をも貫く喚声に至るまで
愚舌を這わすのであります。最早、これしか
生きようのない惨めな見窄しいM男のです
……「S & M」誌が素晴し過ぎたので、かく
妄想する男の夢が叶えられそうに思われてな
りません。

別冊グラフの「マゾ牝虐艶集」もまた、ま
ことに強烈な内容……思わず興奮のうちに見
入ってしまいました。M女佐野みさ子の口中
深く埋没した張形に、べっとりついた涎の滴
り、他のSM誌に見られるわざとらしいモデ
ルと違い、身をもって快楽を極めたM女のオ
ンパレードは、真のSMマニアの確かな目で
も見応えがありました。それ故、更に私の妄
想が現実になる可能性が貴舎にはあると信じ
るのです。

同封の写真は、S女王様との野外プレイの
スナップとお考え下さい。人影のない雑木林
の中……全裸になることを命じられ、尻を幾
分あげて排便を強要され、そのあと地上に落
ちて積った自分の脱糞を喰っている……まこ
とに哀れで汚らしいMのブタと化した一塊
の畜生の浅ましい姿を、女王様が燃えたぎる
快感の心を迸らせ佇みカメラに収めた一駒な

のです。(……といっても、幾割かの私の夢
が、実現を希求して表現されていますが)ど
うか成就させて下さい。

——口人間 と称される方からの、ストレ
ス解消文でした。世の中には夫婦してMと
Mという、これまた非運な巡り合わせの方
もいます。そうした夫婦を塩島氏と佐野夫
人とをカップルにしてモデル描写してみた
いものだと思えたところ、願ってもないこ
と、との返書が届きました。「脱糞」は食
用味噌とヌカ漬けのヌカ味噌をまぜると、
色とり出しした姿は本物とそっくりになり
ます。そうした仕掛けを用意して、カメラ
ならオレにまかせろ、と言う人に撮影依頼
しましょうか。とてもとても私には接写す
る勇氣は起りませんので……Mも結局は立
たせたい願望なのでアリマシヨウカ。

『性奴紹介』のSMPフォト 交換の希望と雑感

愛知 鈴井是雄

一風変わった雑誌……というのが、私の初見の印象であった。

巷間にはびこる種々のSM誌が、その口絵グラビア等を多色刷で、己が姿を互いに他よりあでやかに(?)競っている中で、まるで色気のない十頁前後のモノクロ・グラビア。

まさに欲しければ「どうぞ」といった感じの素気無い雑誌である。

なじみの書店の女将が、

「この本は余り売れません……」

と、ぼやく事しきりである。

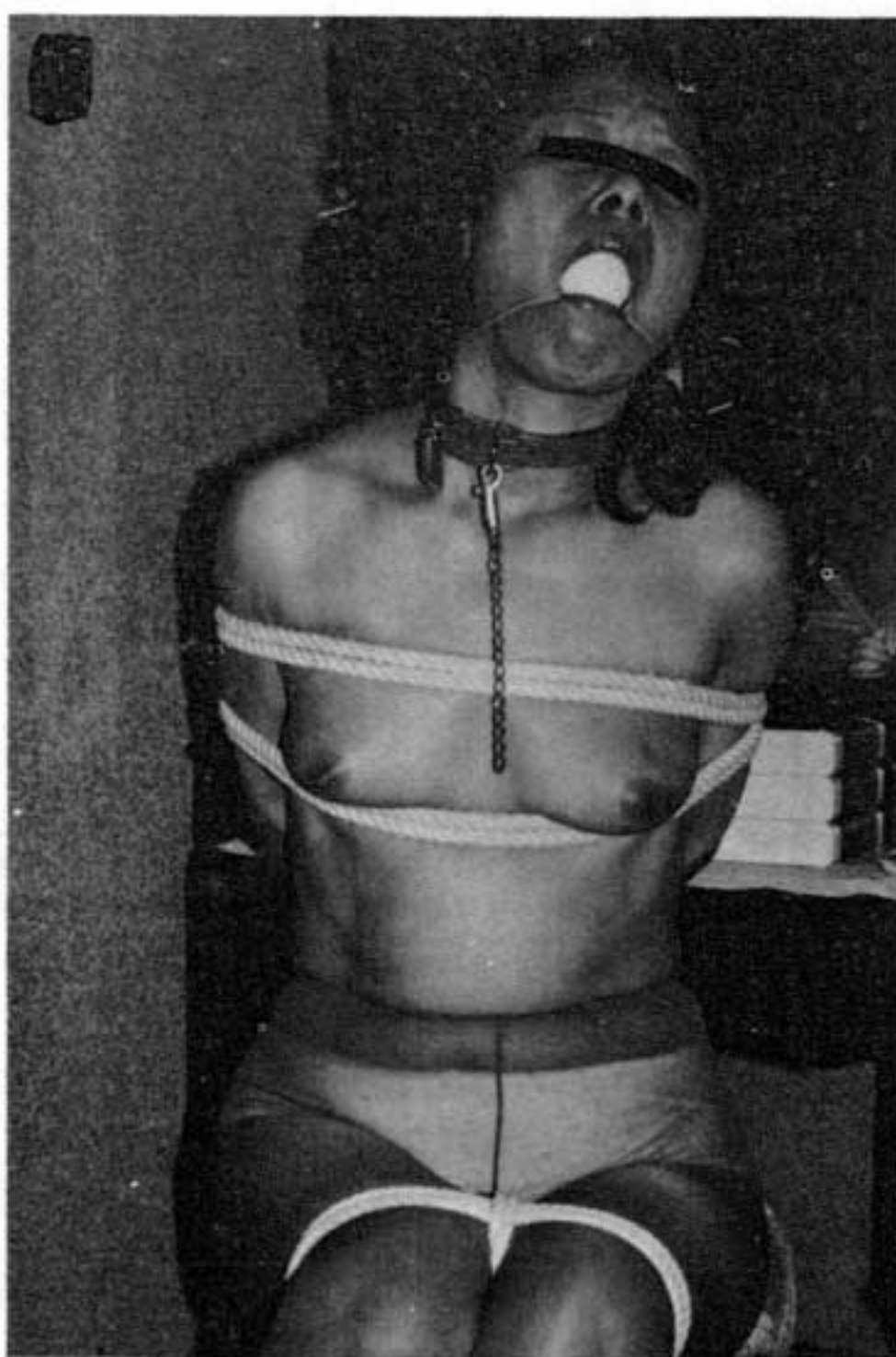
たしかに、この種の出版物に見られがちな

妙な空々しさは余りない。が、小生の意見としては、あまりに「S・M」を学術的(?)に取扱いすぎるきらいがあるのではないかと疑問視している。

編集者の反骨心は、充分窺える。でも、何か物足りないというか、今ひとつ、すっきりしないものが残るとは、どうしたことであろう。小生自身に、これといういい知恵があるわけでもないのに、そんな事を書き、申しわけなく思いますが……。

さて、編集者に一言。

現在まで、小生の手許には三冊の貴誌があります。が、使用されているフォトに目が奪



われるような変化多彩なものがないのは、どうしてですか。是非御一考願いたい。

それは、第三号に特に多く見られ、小生の感じる「S・M」には、とんと無関係のヌードフォトが多い。貴誌創刊一号の要綱からみれば、いささか編集子の一人善がりが鼻につく。再考の要多々あり、と思うがいかがか。

次に、別冊グラフ誌にも見られることだが、多数のフォトをと思われのお気持ちは、充分に分るが、フォトのマジック消しの手法は、もつと気を配っていただけないものか。あのフォトにマジックを塗った方は、SMの理解や関心が全くない凡人だと感じる。

せっかくの「佐野みさ子」が死んでいる……それに、小生の記憶に間違いがなければ、他誌で使用されたフォトがかなり多かった。産声をあげたばかりの子供にしては、小生には嫌味に感じる。

SMフォトは、数が多ければいいというものでもない。小生、褒め言葉を知りませんが別冊裏表紙と、中程の淫縛攻めの五頁に限っては非常に良く思えた。他のモノクロに至っては壊滅的な感慨……フォトの配列に一考の余地あり、と痛切に思うし、あまりポルノ的な表紙の文字「レタリング」には失望した。何事もシンプルなのが良いのではないかと

思った次第である。

ただ、貴誌には期待しております、小生むかつくと記述が乱雑になりまして、大変に読みにくいと思いますが、今後の御発展を祈るあまり、敢えて苦言居士となりました。悪しからず。

編集者殿。小生、「S・M」の道に目覚めてから、早や、二十数年……SMPは、わりと数をこなしたものの、それを記録に、と思いついたのは極く最近です。

現在、一人の「性奴」をもち、気の向いた折にプレイをしておりますが、小生の近く、又は遠方の同好の士とでも、プレイフォトの



交換を望んでいます。『性奴』紹介のため同封しましたフォトを御覧の上、貴誌上に発表していただきたいと思ひます。

この『性奴』とは、かなり長い年月飼育していただいたので、さき先き、ペット交換をとも想ひはエスカレート致しておりますが、何



分にも『性奴』が年(?)ですから、プレイ交歓の希望者が現れてくれるかどうか……いさか気になるところです。

カメラの腕は、あまりあてになりませんので、作品の方は参考写真程度です。但し、小生としましては、唯今この『性奴』の限界点を極めつけるまで追い続けたいと思っております。そのためにも最非とも多数の同好諸兄のフォトを拝見し、それが小生の今後の精進(?)の糧となるものと信じ、貴誌の紙上で、フォト交換の希望があることをお伝え願いたく申し出ました。なにとぞ、我が『性奴』の全記録をかけた、資料交換の実現に御尽力を賜りたいと思う次第です。

最後に、誌上記載が叶うものと信じて……全国の実践派諸氏にお願いしておきます。どうか小生の希望にこたえて下さい。諸兄の御鞭撻によってSMPの歓喜を味わい尽したいものと思っております。お便りの回送を編集室にお願い致しておきましたので、親書受領に際しましては即刻御返書申し上げます。各位の御発展と御多幸を祈ります。

購読のご案内

◆本誌購読料

希望号数を明示の上

定価千二百円 送料百円を

添えてお申し込みください

◆別冊購読料

希望号数タイトルを明示の上、

定価千五百円(送料は

当社負担)を添えてお申し

込みください

(御送金は必ず現金書留で)

◆注文先

〒101東京都千代田区西神田

一―四―一三 新神田ビル

エド・プロダクツ 宛

◆投稿・通信先

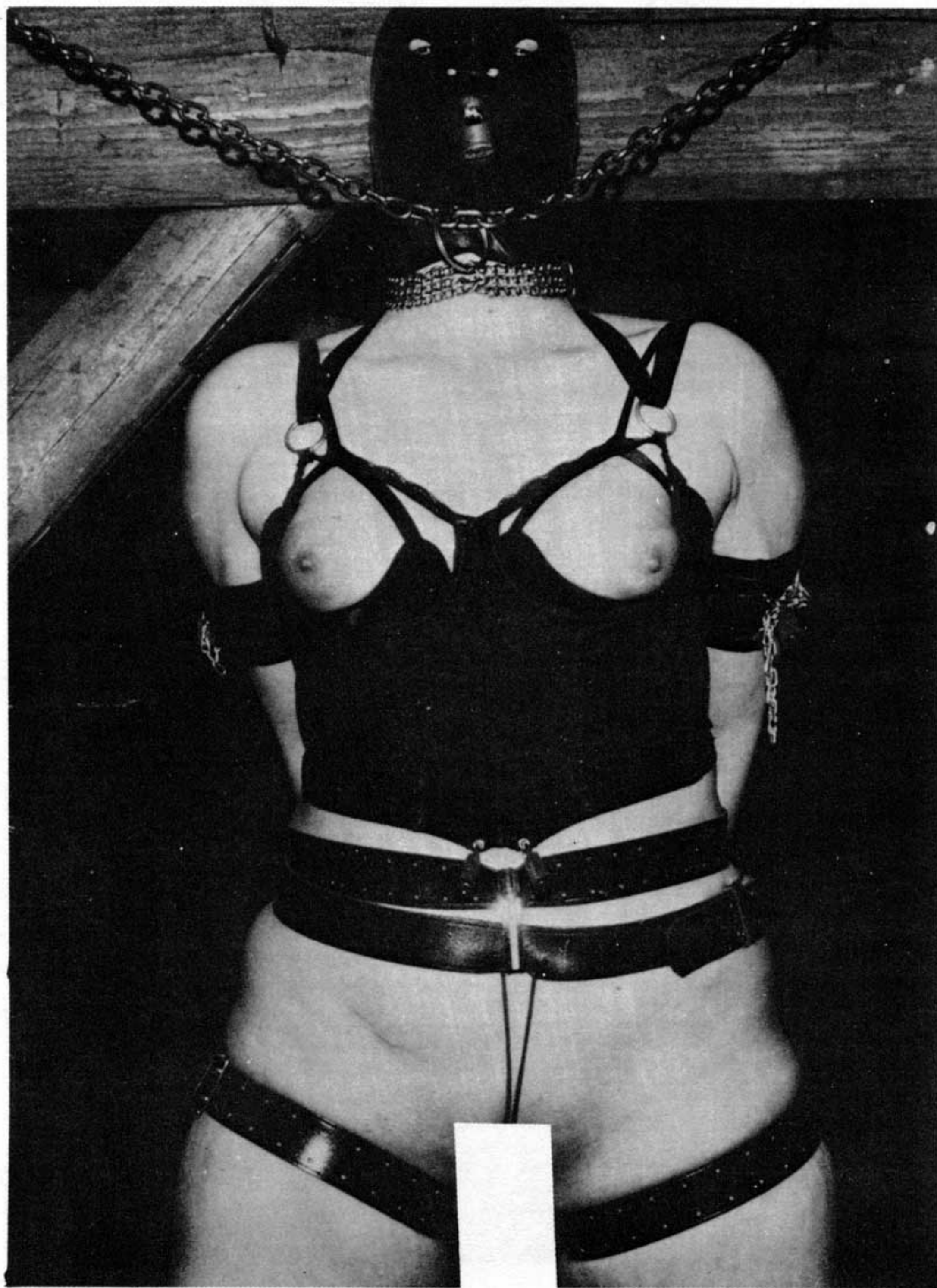
日月舎(世田介一)

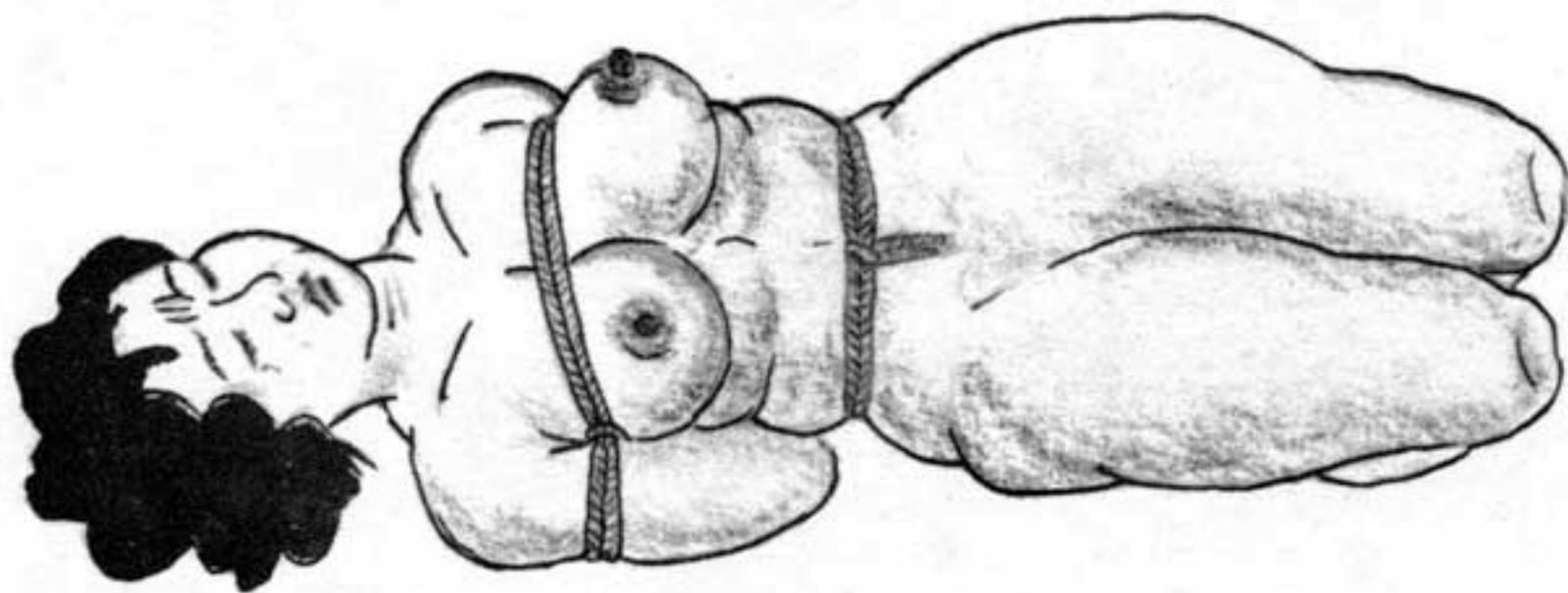
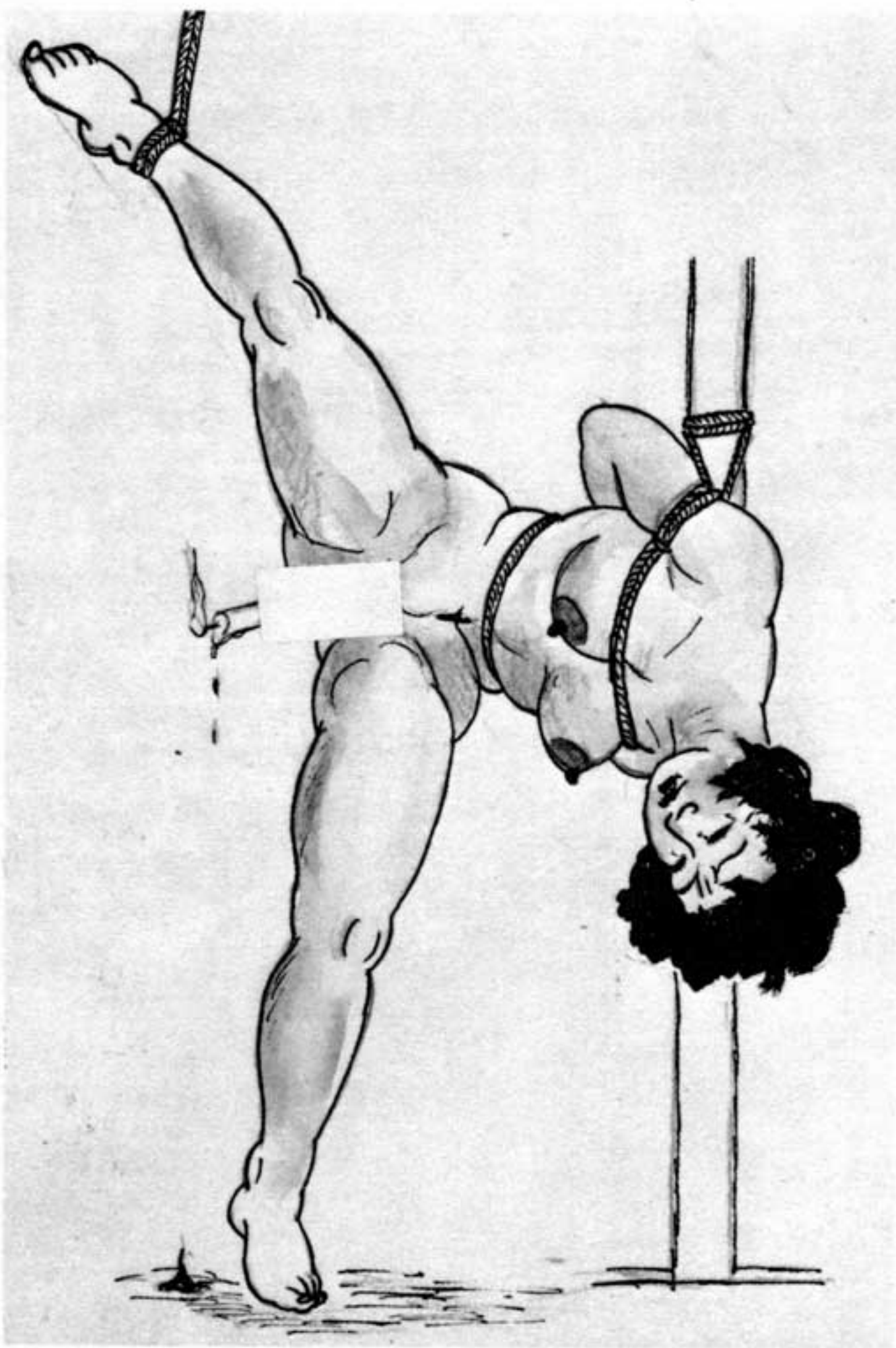
〒101東京都千代田区西神田

一―四―一三 新神田ビル

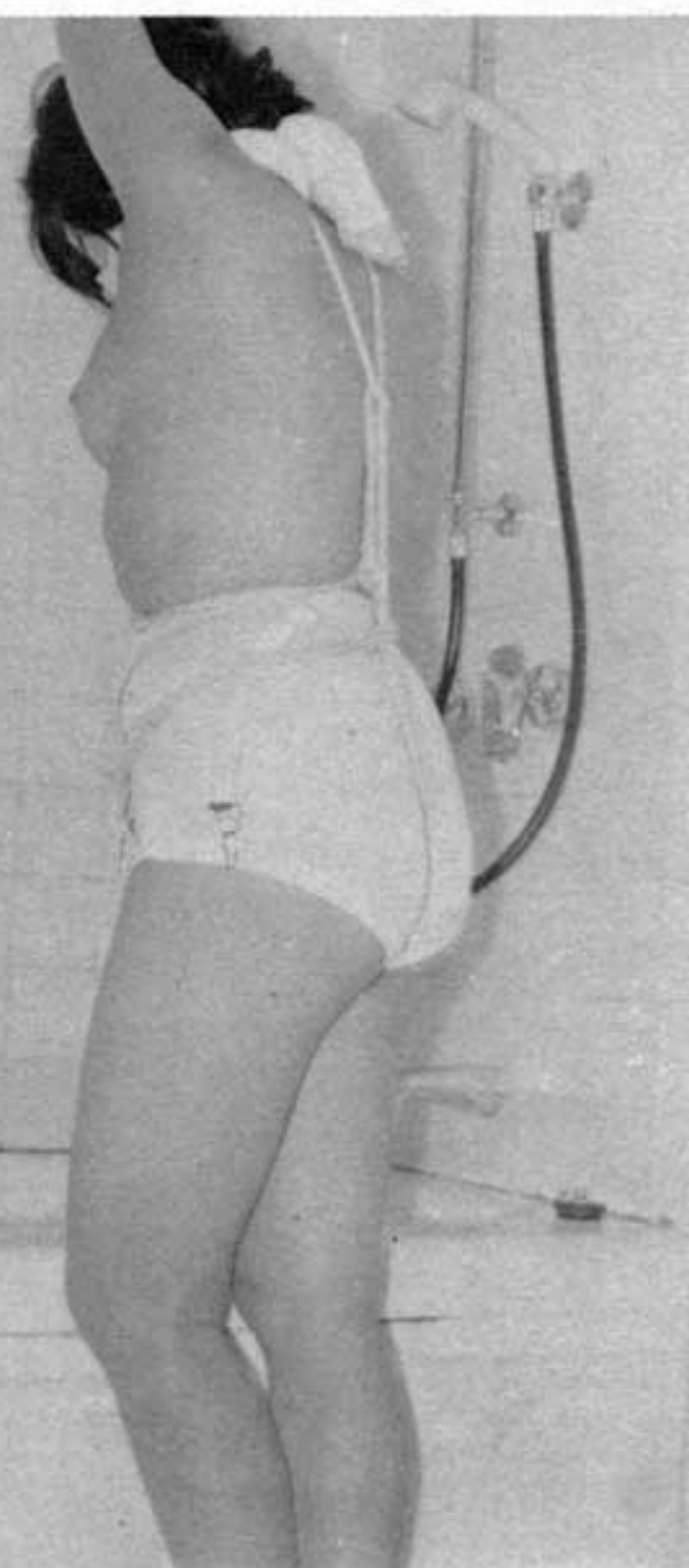
エド・プロダクツ 気付







変収興起



山へも行けず、海へも行けず……結局のところ都会のコンクリート・ジャングルの中でバカンスにもならない夏を過した方が多かったと見えて、発売元には「四号はまだか」との問い合わせが殺到したそうです。その反射波を受けて「日月舎」はテンテコ舞い、舞う内に、「雀百まで踊るでしょうなあ」と高笑するマニア氏が登場して下さい

ました。とにかく見事なニレクションを持っておられます。その豊富な資料を『資料室を設置する予定があれば提供します』と、至極あっさり仰有って下さいました。感激です……それほど「サン・アンド・ムーン」が気に入って下さったのです。その方のお名前は「森山周一」氏。SMは、P（プレイ）でもG（ゲーム）でもないもんだ……

愉悦のロマンで行きましょうやとこれまた得難い率先派が馳せ参じて下さったのも今年の我が一身上の重大ニュース。ご存知「ロマン派生」氏です。お二方は「世田」という狸の正体見破ったりと北叟笑んでおられる反面、強力な支援を給わるそうで弊誌の月刊化への礎となつて下さることでしょう。

楽しみは自らの手で開発することとの実践家は、まだ一面識もありませんが、貴重なレポートをお寄せ下さいました。「一度自分の経験を（活字化という）記録にとめたいと思った」と弊誌に的をしぼった理由を述べられるだけで、あとは一切不明。どうかお名乗り出て下さい。お待ちしております。「パパ、ハッスルしすぎては駄目よ、また熱出して会社を休んでしまうから」と往す好伴侶……まこと羨しき限りのご夫君から至急報が届き満天下にご紹介す

る「愛妻縛記」高鳴る胸の膨動が伝わってくる好読物でしたでしょう。お二人は今夜も縛絆の記録作りに熱中しておいでなのかもしれません。

三号「通信欄」で扱った「ある奴隷主義者よりの提案」についてご報告しておきます。弊誌の発売が遅れたこと、条件が厳格過ぎたこと、などが災いしてか（恐らく眉唾だと思つたのでしよう……）積極的参加志望者はゼロ。消極的な打診者一名という結果で終わりご提案者の期待外れで開催延期になりました——S氏の落胆さは一入でしたが読者各位は如何考えておいでなのでしょう。か。

さて、次号には「被虐体験を希求する」若い女性が登場します。彼女は逞しい男性を未来のハズバンドと夢見ているのです。異色レポとしてご期待下さい。